

あなたと教区を結ぶ

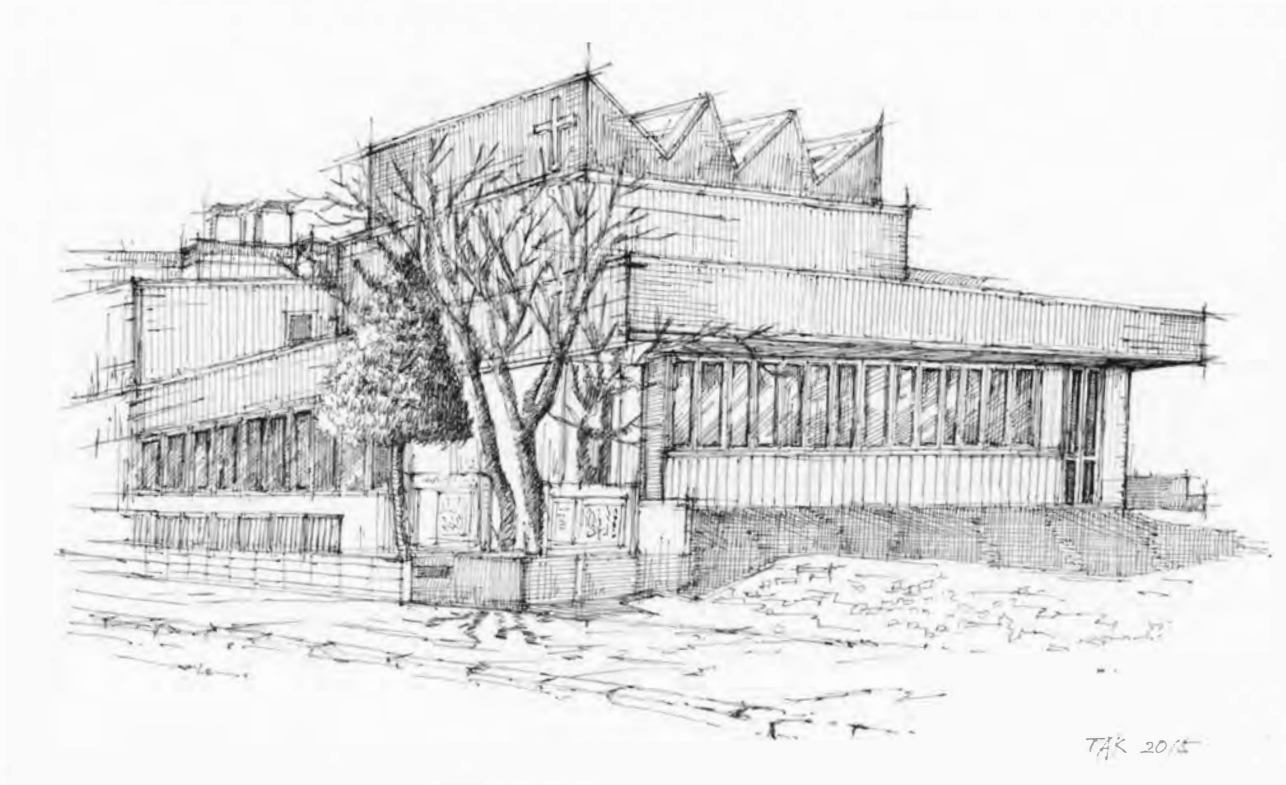
2015年6月28日発行



第 195 号

ブナの木号

キリスト
日本基督教団 北海教区





表紙の教会 真駒内教会（札幌地区） 1

みことばに聴く 2 「わが未知（道）をゆこう」 小西陽祐牧師（余市教会）

特集① 第 75 回北海教区総会報告 4

特集② 「新」三役に聴く 6

ようこそ北海教区へ 10

幹事室より 12

2015 年度 北海教区委員会名簿 13

各委員会から

革新部門委員会 14

平和部門委員会 16

ハラスメント防止委員会 18

性差別問題担当委員会 19

連帯部門委員会 20

第 64 回教区年頭修養会 21

北海教区 各地区の働き 22

連載 リレーエッセイ わたしのすきなもの、こと、風景 荒谷陽子さん（置戸教会） 26

北海教区 4つのセンター 北海道クリスチャンセンター 27

連載 Divan のウタンガイ 28

集会案内 第 35 回 教会の手話研修会 29

広告 29

編集後記 ・ まんが 33

特別付録

「北海教区の皆様へ」北海教区総会議長ペンテコステ書簡

アエカップ（アイヌ語で「消息」の意）：2014 年度教会報告

第 75 回北海教区総会における主な決議事項

北海教区通信

第195号

表紙の教会 真駒内教会

昨年、真駒内教会は創立50周年を迎え、「礼拝に生きる神の民」を目標に掲げて新会堂建設に取り組みました。6月8日のペンテコステ礼拝が旧会堂での最期の礼拝になりました。翌週からは隣接の幼稚園ホールで主日礼拝がスタート。新会堂の建設は天候にも恵まれて順調に進み、起工式、定礎式が教会員や工事関係者の列席のもとに行われ、秋には建物の全体の外観が立ち上がりました。新会堂は予定通りクリスマス前に竣工し、救い主イエス様のご降誕を新会堂で祝うことができたことは大きな喜びでした。これもひとえに神様の恵みと全国の主に在る兄弟姉妹や諸教会の祈りと支援の賜物と心より感謝いたします。

ところで、新会堂の特徴のひとつはトップライトの屋根にあります。礼拝堂の天井からは、やわらかな光が降りそそぎ、聖なる空間を包んでいます。また、礼拝堂の周囲は外へ向かう開放的なスペースとして、様々な集会や交わりの場として用いられることを願っています。今年の真駒内教会の目標は「礼拝の喜びに生きる」、聖句は「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。これこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望ん

新会堂の礼拝堂



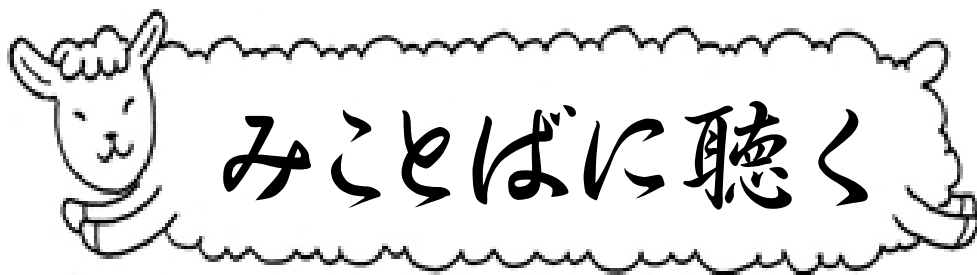
クリスマスの祝会（幼稚園ホール）

でおられることです。」（1テサロニケ5:16～18）です。今、新緑の美しい自然に囲まれた真駒内教会の礼拝に賛美の歌声が響きわたっています。教会学校の子どもたちやお父さん、お母さんに加えて赤ちゃんの泣き声もまじっています。そこには礼拝の喜びに生きる神の民の信仰が力強く証されています。

田中文宏（真駒内教会牧師）

所在地 〒005-0015 札幌市南区真駒内泉町2-1-6
電話 011-581-0331（FAX 共用）
主日礼拝：毎日曜日 午前10時30分から





わが未知(道)をゆこう

箴言 3 章 1 ～ 8 節

わが子よ、わたしの教えを忘れるな。わたしの戒めを心に納めよ。そうすれば、命の年月、生涯の日々は増し、平和が与えられるであろう。慈しみとまことがあなたを離れないようにせよ。それらを首に結び、心の中の板に書き記すがよい。そうすれば、神と人の目に好意を得、成功するであろう。心を尽くして主に信頼し、自分の分別には頼らず、常に主を覚えてあなたの道を歩け。そうすれば主はあなたの道筋をまっすぐにしてくださる。自分自身を知恵ある者と見るな。主を畏れ、悪を避けよ。そうすれば、あなたの筋肉は柔軟になり、あなたの骨は潤されるであろう。

『わたし、車を買いました。』

これは、わたしが第75回北海教区総会の開会礼拝説教につけた題です。

司会者が、この説教題を言った瞬間、会場がほんの少しざわついたのを感じました。わたしが“こんな”説教題をつけたのは、車を買った理由を語るためでした。

北海教区は、昨年度の教区総会において、高齢化や財政の減少や社会情勢によって厳しくなっていくであろう北海道の諸教会、センター、関係学校・施設が共に礼拝を守り続け、「礼拝の喜びに生きる神の民」として歩んでいくことを決断しました。その歩みも2年目に入りました。

北海教区第四次長期宣教計画には、「革新・連帯・平和」との言葉があります。「革新」と「平和」が小さな黒丸で「連帯」とつながっています。つまり、革新も平和も連帯がなければ成り立たないのです。この連帯の背景には、1950年代に行われた北海道特別開拓伝道があります。「北拓伝」は、26の教会・伝道所を生み出す喜びを生みながら

も当時派遣された若い牧師の約半数が教会の現場を去り、地域と信徒に痛みを残す結果を生み出しました。その「痛み」の上に、現在の教区幹事制度や謝儀保障制度や年頭修養会という北海教区の連帯を象徴するものが生み出されていきました。連帯は、決して自然に生まれてきたものではありません。連帯することは、楽なことではないからです。それを覚悟の上で、他の教会や地域に意識して出かけ、つながり、支え合おうと決断する人々がいたからこそ、強い連帯が生み出されてきたのです。だから、厳しい時代を歩む わたしたちは、「北海教区は連帯があるから大丈夫」と胡坐をかいていたら、また痛みを生み出してしまうでしょう。

わたしもまた、先達たちのように連帯することを意識して 担っていくことを求められています。「その時に、北海道のどこかの教会、地域に楽しく出かけるために、乗りやすい車を買う」。それが、わたしが車を買った一番の理由でした。

こにし ようすけ
小西陽祐（余市教会牧師）



『わが未知をゆこう。』

これはわたしが買った車のCMのキャッチフレーズです。この車に乗り、「道」を走ることで、今まで知らなかった「未知」に出会うことができる。それが「わが未知をゆこう」に込められた思いです。

旧約聖書の箴言は、「知恵文学」と呼ばれる部類に属する文書です。知恵とは、正しく物事を判断できる能力といえます。しかし、わたしたちが物事を正しく判断することは難しいことです。なぜなら、わたしたちの歩む道は、常に曲がりくねり、その時々でわたしたちの心は揺れ動くからです。そして、未知に出会っていくことは、不安なことでもあります。

けれども、聖書はわたしたちにはっきりと語るのです。

「常に主をおぼえてあなたの道を歩け。

そうすれば、主はあなたの道筋をまっすぐにしてくださる。自分を知恵ある者と思わず、悪を避けよ。」

わたしたちの前に備えられた「連帯の道」を歩き、他の教会に出かけることによって、今まで聴いたことがない他の人の未知の声が聴こえるかもしれません。他の人の声を聴くためには「謙虚さ」が求められます。

自分自身を知恵あるものと思わずに、謙虚に生きる時に、神が曲がりくねった道を希望へと伸びるまっすぐな道にしてくださるのです。謙虚さこそが、わたしたちに与えられた真の知恵であり、わたしたちの歩みをより豊かで深いものへと変えていきます。

これから歩み道に不安や恐れがあるのは当たり前のことです。だからこそ、神からわたしたち北海教区に与えられた「未知（道）」を“共に”ゆきましょう。神は必ず、その「未知（道）」の先に希望を見せてくださいます。



第75回北海教区定期総会 開会礼拝説教

2015年4月29日（水）～30日（木）於 札幌北光教会

開会礼拝では、小西陽祐議員（余市）の礼拝説教後、久世そらち議長の司式による准允式（高橋優子氏、酪農学園大学）、および持田行人議員（厚別）の司式による聖餐式が行なわれた。

●開会

卜部康之書記（千歳栄光）が議員点呼を行ない、正議員総数126名中、98名の出席を確認した。久世そらち議長（札幌北部）は開会を宣言した。

●主な報告事項

議長総括では、次のように活発な質疑が出された。

白崎智之議員（小樽公園通）「連帯のアイデアを募集してはどうか」。久世議長「置戸教会や手稲はこぶね教会のように、今の経験を深化させることも大切と思う」。

島田繁明議員（帯広）「沖縄教区との関係はどうなっているのか」。久世議長「沖縄教区定期総会に北海教区代表を派遣した。つながっていききたい」。

浅野純議員（北星学園女子中学高校）「キリスト教学校との関係を大切にしてほしい」。久世議長「北星学園や酪農学園をはじめとする、学生たちの被災地支援活動に感謝したい。そのことを通して、教会青年活動が盛んになったという見方もある」。

また、各部各委員会報告承認の件では、佐久間光昭議員（置戸）より「信徒説教者の学びを開始してほしい」、秋山千四郎議員（北見望が丘）より「インターネットを活用した宣教を推し進めてほしい」との意見が出された。



そして、決算承認の件では、清水和恵議員（新発寒）より「未収金について危機感を持っている。対策を示してほしい」との意見が出され、今多正行議員（財務委員長・札幌元町）は「支出を減らすこと。分担金を据え置くことを考えている」と答弁した。

議案第5号・2014年度教務関係報告承認に関する件。議案第6号・2014年度各部各委員会報告並びにその他報告承認に関する件。議案第7号・2014年度教区歳入歳出決算承認に関する件。いずれも賛成多数で承認された。

●協議会

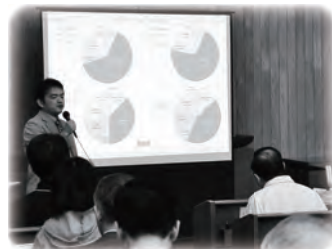
二日目の朝には、東北教区から保科隆副議長が来て下さり、東日本大震災から四年が経過した現在と今後について次のような報告がなされた。

「東北教区の86教会・伝道所中、19教会が建て替えや大規模改修を行ない、すべてが工事を完了した。17教会が全国募金による支援・貸し付けを受け、内15教会が総額1億5,600万円余の返済に向かう。また、国や行政が経済活動を追い求める中、放射能汚染の渦中にある者がその思い「教団の教区

を表すことが困難になってきている」。

今後の教団の方向性や北日本三教区での交流の持ち方に影響を与える報告であった。

協議会では、北海教区の財政概況について、日向恭司教区幹事より以下の内容の発題がなされた。



活動連帯金が、昨年10月の教団総会において伝道資金制度となったため、教団負担金との収支差額が数十万円だったものが、実質350万円を超える負担増となった。さらに、教区分担金未納対策として、各種積立金を取り崩しながら対応している。そのような状況であるため、2015年度予算は、予備費が約70万円しか確保できず、未収金が生じた場合には対応できない」。

次に、石橋秀雄議員（教団問安使）との質疑応答において、次のような応答があった。稲垣正策議員（函館千歳）「教区分担金未納は教規違反ではないか。そのような教師を教団の役職に選ぶのか」。石橋議員「教会と教区の間で起こっていることなので解決のために祈っている」。

だが、教区分担金の未納は、その教会が教団に対しても責任を果たしていないことになる。果たして、未納の問題を教会と教区間だけの問題として、片付けることができるのか。

その他、議場より、乱発されている戒規について、伝道資金制度について、「伝道に燃える教団」という文言について、社会問題について、石橋議員に質問が出された。

しかしながら、『教憲・教規』の関係部分を朗読するのみという応答もあった。質問と答弁が全く噛み合っていないと感じたのはわたしだけだろうか。



島田議員「日本キリスト教会館の耐震補強工事には東日本大震災支援募金は使わないですね」との質問に、石橋議員は「使いません」と答弁。

●主な審議事項

議案第7号・第四次長期宣教計画に基づく2015年度活動計画に関する件では、次のような応答がなされた。

米倉美佐男議員（札幌）「多様な礼拝のあり方とは何か」。西岡昌一郎副議長（宣教部委員長・旭川六条）「信徒の分かち合い礼拝、自主礼拝の取り組みがなされている。教区でも共有したい」。

石垣弘毅議員（月寒）「教職主導の教会形成を問い直すとは」。西岡副議長「教職の役割を否定することではない。今後の教区の状況を考えたときに信徒活動をもっと重要視していかなければならない」。

島田議員「簡略化された内容だが、過去の積み重ねとの整合性は」。西岡副議長「第四次長期宣教計画のビジョンの中項目にかかる質問と思う。その策定に当たっては議論がなされてきた」。

議案第8号・2015年度教区歳入歳出予算（付・分担金配分）に関する件。議案第9号・2015年度教職謝儀基準改定に関する件。いずれも第二読会を経て、賛成多数で可決された。

●総会特別決議について

議案第17号・「北海教区ハラスメント防止と問題解決に関するガイドライン」制定に関する件。議案第18号・安倍政権の進める国家中心、軍事力拡大の国づくりを阻止するための行動を推進する決議に関する件。議案第19号・政府による沖縄・辺野古米軍基地建設の強行に反対し、沖縄の民意の実現を求める運動を推進する決議に関する件。議案第20号・日本にある全ての原子力発電所の建設・再稼働を中止し、全ての原子炉の廃炉をめざす行動を推進する決議に関する件。議案第21号・アイヌ民族の権利を回復する運動の推進決議に関する件。

そして、議員提案による議案となったものとして、二つ。議案第25号・「日米防衛協力のための指針」改定に抗議し、その法制化を阻止するための運動推進決議に関する件（提案者・原和人）。議案第26号・日本軍「慰安婦」問題の解決を目指して、歴史修正主義に抗し、過去の歴史責任に向き合うための運動を推進する件（提案者・韓守賢）。すべて第二読会を経て、賛成多数で可決された。

石橋秀雄議員は、協議会の中で「（社会問題について）価値観が伴うので発言はしないが、証しの生活は大切である」と答弁された。

被災地支援の経験から、私たちは災害発生直後の初動期にどのように活動できるのか、どのような活動を求められるのかを学んできた。しかし、昨今の教団では、被災地

援募金の依頼さえ、緊急なものとなっていない。これも価値観の違いなのか。

●その他

議案第22号・総会特別委員会報告に関する件では、教会記録審査委員会委員長（三浦きょうこ議員・七飯）より、「12教会が未提出である。また、報告なのか、審議なのか、明確に記録をしてほしい」との報告があった。

議案第23号・第76回定期総会開催場所ならびに日程に関する件、議案第24号・第75回定期総会議事録承認に関する件は、常置委員会付託となった。

●教区三役選挙に関する件（議案第10号・11号・12号）では次の方々が選出された。（敬称略）

議長：久世そらち（札幌北部）

副議長：原和人（手稲はこぶね・札幌富丘）

書記：木村拓己（美唄）

久世議長は四期目となる。常置委員会をはじめとして、すべての諸教会・伝道所が議長の働きを支えることによって、同時に教区形成がなされていくと信じたい。そして何より、議長を送り出してくださっている札幌北部教会に心から感謝したい。

●常置委員選挙に関する件（議案第13号）では次の方々が選出された。（敬称略、記載は得票順）

〔信徒〕佐久間光昭（置戸）、小林あずみ（千歳栄光）

〔教師〕西岡昌一郎（旭川六条）、藤吉求理子（道北クリスチャンセンター）、清水和恵（新発寒、一年任期）

●結び

最後に、議案第16号・北海教区と西東京教区との第7期宣教協約に関する件が、満場一致で可決された。お二人の発言を記しながら、報告を終えたい。

藤吉求理子議員（道北クリスチャンセンター）「これまで確かに興部伝道所は支えられてきた。でも今は、伊藤大道牧師が稚内教会の代務をして、興部が近隣の教会を支えている。そのことをぜひ覚えてほしい」。

真壁巖議員（西東京教区議長）「西東京教区は、唯一海がない教区。でも、宣教協約を結ぶ北海教区の興部には海がある。西東京教区でも満場一致を目指します」。

（前北海教区総会書記 ト部康之）



特集

「新」三役に聴く

~~~~~ インタビュー：日向恭司教区幹事

4月29～30日に開催された第75回北海教区定期総会で、新しい三役が選出されました。長年北海教区の執行部の働きを担って下さっている、久世そらち議長（札幌北部教会）に、いずれも初選出の、原和人副議長（手稲はこぶね教会／札幌富丘伝道所）と木村拓己書記（美唄教会）を加えて、安定感と新鮮さを併せ持つ三役体制となりました。



**日向：**2年間のお役目、よろしくお願いいたします。まず、教区三役に選ばれた今の心境をお聞かせ下さい。

きました。その間、教区の歩みは、必ずしも好ましい状況に向かうものではありませんでした。その責任を覚えながら、なおその上に与えられた新たな2年をどう担うか、厳しく難しい課題を重く感じています。



**原：** 大変な重責だと考えています。副議長と二教会

の牧師、学校の非常勤講師。この三役をこなすのは至難の業だと考えていますが、どれも100%の力でやりたいという決意があります。息切れしないように、議長を支えつつ歩みたいと考えています。



**木村：** ほとんどの方が「誰だ?!」

と感じられたと思います。私自身、こんな無学な者が... という驚きに始まって今も驚いています。与えられた役割に畏れを抱きつつ、しかしみなさんの祈りに押し出されたことを想い、一人ではなくよりたくさんの方とつながっていきたくと思っています。私はハアハア追いかけて議長・副議長を支えて歩みます。無学ではなくなるかも。



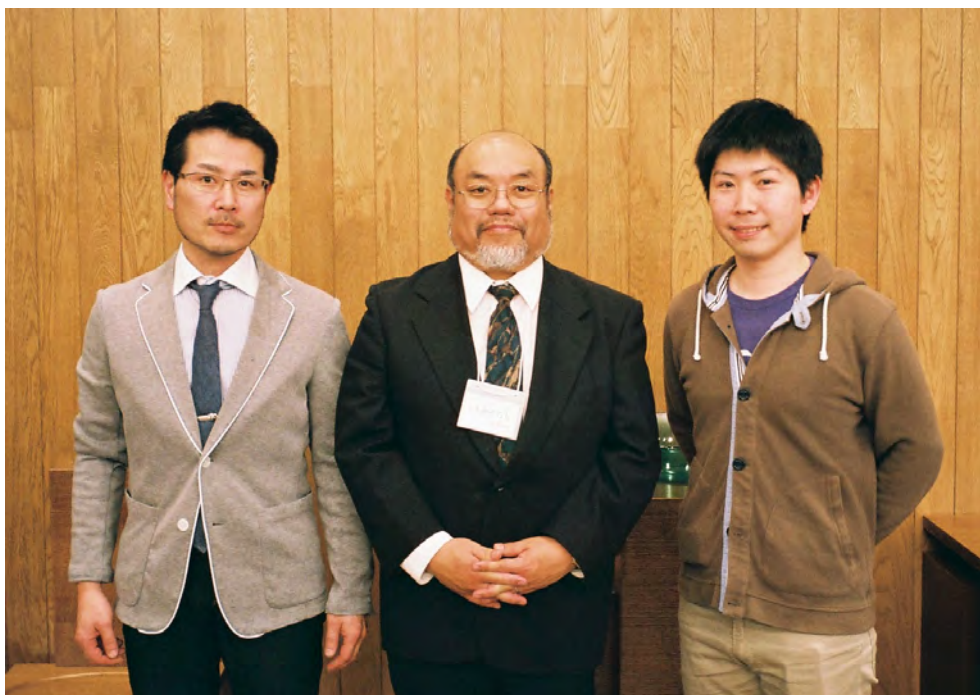
**久世：** 連続して4期目の議長に選出されました。おそらく、北海教区ではこれまで例がなかったと思います。これまで20年にわたり教区の三役・常置委員をつとめ、そのうちこの6年は議長のつとめを与えられて



\*\*\*\*\*  
原副議長と木村書記のお二人は、最近北海教区に来られましたが、北海教区の特徴（個性）はどういうところにあると感じておられますか？



やはり「連帯」という言葉に尽きます。それが魅力で北海教区に来たのですから。その連帯によって長年の間に培われた様々なことが、北海教区総会にも現れていると思います。





滝川二の坂伝道所のこども部屋で

総会のヤジや怒号がない良い意味での静けさは、語る者にしっかり耳を傾ける姿勢があり、それは相手に対する信頼だと思うからです。それはやはり連帯のなせる業でしょう。

そして、連帯において共に平和の事柄に取り組み、革新的な歩みを模索していく可能性がさらに豊かになっていくのではないかと思います。



左に同じです。隣の教会の〇〇さん、向こうの地区の〇〇さんと、距離を超えた人と人とのつながりを深く感じさせられます。それに裏打ちされて本当に必要なものが生まれてきた。教区幹事制度然り、謝儀保障制度然り、年頭修養会然り、西東京教区との宣教協約然り、第四次長期宣教計画然り。さらには教区通信、教区便覧に記される祈祷日表も大切な働きとして加えられますね。先達から培われた歩みに加えられたことを喜んでいきます。

決して教区の課題は少なくはありませんが、こうしたいずれも欠けてはならない働きが続けられてきたからこそ、「連帯なくして進めない」思いが共有されるからこそ、出かけた先に教会が建てられていれば「立ち寄ってみたい」と思われるのだと思います。



\*\*\*\*\*  
今の北海教区に足りないところ、今後の課題と思われるところはありますか？



これはむしろ新しい世代の方々にうかがってみたいですね。ただ、昔との比較でいえば、もっと議論があってもいいと

思います。会議の場だけでなく、地区の集まりや牧師・信徒の親睦の機会などでも、「教会はいかにあるべきか」「今どんな活動をするのか」「課題の解決にはどうしたらいいか」といった自由な意見の交換がもっと活発になさればいいなと思います。



新しい世代の1人としてお答えると、北海教区4年目の私が感じる足りない部分は「エネルギー」だと思います。課題・問題は無論、たくさんあります。そして、どこでも同じような課題を抱えています。それらに取り組み、新たに模索していくのは若さでもなく、閃きでもなく、卓越したアイデアでもなく、年齢や場所に関係なく共に取り組もうとするエネルギーなのです。お互いに立場や考え方は違うけども、それらを超えてこれからの課題に取り組もうとするエネルギーを如何に身につけていけるかが今後の課題かなと思います。



思いっきりカメラ目線！後ろの鏡にも注目！！



### 木村拓己

出身地：兵庫県神戸市

生年月日：1984年10月23日

出身神学校：同志社大学

休日の過ごし方(ストレス解消法)：

家族とドライブ

道の駅スタンプラリー

息子の自転車指導

読書(道新まなぶん)







「できるだけ多くの人に関われること」(ユニバーサルデザイン)を意識した教区形成でしょうか。北海教区に来て3年目です。例えば、諸集会の講演録を目にしません。最近では道北地区のすてきな信徒大会報告でしょうか。主に、教区通信がその役割を担いますが、要約や感想に留まるのではないのでしょうか。出席を諦めざるを得ない方が多い以上、情報の厚みが地域に表れてきます。教区活動も同様かもしれません。「議論についていけない」、「すでに論じられたかも」と言葉を飲み込む、発信するよりも受信するばかりであるゆえに主体性が削られる。より教区全体が活かされるためには、それを意識した上で、どれだけ思いと情報を共有できるかでしょうか。



\*\*\*\*\*

2014年度から第四次長期宣教計画がスタートしました。それぞれ力を入れて取り組みたい部分がありましたら教えてください。



やはりメインテーマである「すべての教会は礼拝を守るために」ですかね。16教会・伝道所が無牧師である現状を真摯に受け止めつつ、でもそれぞれの礼拝堂で礼拝が豊かに守られるように、支えて時にはアドバイスをしたいと考えています。



めっちゃ楽しそう!! (^o^)/



ひっ、左に同じです。では違った切り口から。前文を読むと30年にわたる長期宣教計画はそのはじめから革新・連帯・平和に準拠する言葉が掲げられていることを知りました。それが今なお古びず、むしろ第四次へと向かって新たにされる中で、どれだけ

の教会が否定的でなく肯定的に「変えられていく」経験をしたのでしょうか。先にもお話ししましたが、そういった経験がもっと教会に、信徒に、教職に、共有・集約されていく、教区全体に浸透されていくような働きができればと考えています。



第四次長期宣教計画のミッションとして掲げられている「礼拝の喜びに生きる神の民」が中心となるのはもちろんですが、今とくに心に覚えるのは、「信徒の働きによって宣教を豊かにする」というポイントです。これはただ、「牧師が足りないから信徒がその分を肩代わりする」という消極的な意味に受け止めるのではなく、むしろ、信徒たちの思いが集められることを通して教会がこの社会のうめきや課題、展望と希望を共に担うものとなっていく契機となれればと思うのです。



#### 原 和人

出身地 : 滋賀県  
生年月日 : 1970年3月25日  
出身神学校 : 関西学院大学  
(最終学歴は佛教大学人文学部)  
休日の過ごし方(ストレス解消法):  
プラモデル作り、  
古着屋巡り、  
電車に乗ること、  
読書、映画と音楽鑑賞等々



\*\*\*\*\*

最後に北海教区の今後の展望について一言ずつお願いします。



辛いことは皆にあります。寂しい、辛いことも皆にあります。でもその中においても、笑顔がこぼれるような総会や年修やその他の集会を創り上げていきたいと考えています。また、和寒伝道所60周年記念礼拝(5月31日)に教区4役で出かけましたが、そこは道北地区の皆さんの溢れんばかりの笑顔があり、とても豊かな時間を過ごすことが出来ました。教区内の皆さんの笑顔をみられるためなら、そして豊かさを共有できるなら、出来るだけいろんなところに出かけていきたいと願っています。





三役 10 期目、議長 4 期目の貫禄!!

そのための教区に仕える三役だと考えています。様々な減少傾向がある中で 10 年後は【連帯】がさらに豊かになり、微笑みが北海教区の魅力になるようにと願っています。



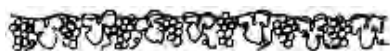
75 回にわたる教区総会。世間では後期〇〇がつきそうですが、好機、好奇、耕起、光輝に満ちた教区が形成されますように。主によって十分に与えられている恵みを生きること、きっとそこには痛みもあるでしょう。しかし「ないもの」でなく「あるもの」が結びつけられていく実感、相互の恵みに足る豊かな連帯が築かれていく先を信じつつ、それらが全体に染み入るために、心通わせ共に悩む一人ひとりになりたいと願います。しかしすでにその道は、教区にあるたくさんの思いから芽吹いているのではないのでしょうか。共に育てましょう。



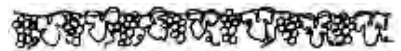
悲観的に聞こえるかもしれませんが、北海教区に限らず、これから教会も社会も「苦難」に向かう覚悟をしなければならぬと思っています。しかし、教会こそは、現実直面する「苦難」を、意味あるものとして信仰をもって受けとめるよう導かれている存在です。主にある「苦難」の意味をしっかりととらえるときに、主が与えてくださっている「希望」の真実の意味を知るものとなると思うのです。きっと、「苦難」を共にする「連帯」のなかに、新たな希望を見出すことになるでしょう。



北海教区のこれまでの歩みを大切にしながら、新しい歩みをリードしてくれる三役であることを感じます。プロフィールを見ると、趣味のお話しなども伺いたかったところですが、今度ゆっくり聴かせて下さい。(笑) ありがとうございます。



## 新三役に期待します！



★ 熟練の久世先生とフレッシュな原先生・木村先生の働きを楽しみにしています。 M・O

★ あせらず、急がず、怠らず、一步一步、進んでください。 S・N

★ 議長さんと副議長さんは恐れ顔をしないで、笑顔でいて下さい。 K・H

★ 時々家事も担ってください！ Y・U

★ 重責に感謝します。若さで走りすぎないように！健康が宝です。 S・S

★ 書記さんの若さを分けて欲しい！ S・K

★ 「礼拝の喜びに生きる神の民」という北海教区のミッションを実現する働きのため、どうぞよろしくお願いします。 S・N

★ 美しい大地の北海道いいなー。と思ったところは？3人ともたべるのだいすきでしょう。北海道でなまらうれしい!!と実感した食材はなあに？ジンギスカンのたれはベル？ソラチ？ K・I

★ 北海教区らしい新しい風を吹かせて下さい！ H・M

# ようこそ北海教区へ



2015 年度から着任された牧師を  
ご紹介いたします。  
どうぞよろしくお願いいたします。

## 衛藤満彦 教師 春採教会

初めまして、この4月より道東地区春採教会に赴任して参りました衛藤満彦です。

前任地は奥羽教区北西地区にある青森戸山教会という八甲田山の麓に立つ「雪深い」教会に9年間の働きが与えられておりました。

この度、この地を示された時、当初は「さらに北!？」という思いがありました。というのも前任地が本州最北端ということもあり、自分の中では「これ以上北はないだろう」と勝手に思い込んでいたところがあったからです。

しかし、神さまはそんなわたしにだからこそ、この地を示されたのではないかと思直したのです。というのも、聖書の物語の中には、「もう自分はないだろう」と思っていた人に新たな役目が与えられることが多くあるから

です。アブラハム、モーセ、ザカリヤ…、聖書の中の人物と自分を重ね合わせるなどおこがましいこととは思いつつも、自分の中にあった「思い込み」が砕かれ、「ここにこそ神さまの御心が現れてくるのではないか」という思いが与えられてきました。

初めての北海道、初めての付帯施設、等々、考え始めれば不安なことばかりでしたが、「神さまの御心ならば…」と全てをお委ねして海を渡って参りました。

豊かな大地が広がる北海道で、豊かな交わりが与えられますようにと願っております。

どうぞよろしくお願いいたします。



## 指方信平 教師 札幌北光教会

東中国教区の旭東教会（日本三大奇祭「はだか祭」で有名な岡山市東区西大寺）より赴任しました。ここ数年、東中国教区から北海教区へ異動される教師が多く（6名!）寂しく思っておりましたが、私自身もそれに続く一人となったことに驚いています。実は、15年前、神学部4回生の夏、夏季伝道で名寄教会・道北クリスチャンセンターを中心に、名寄伝道圏にて1ヶ月を過ごさせて頂きました。不思議な「導き」を感じさせられています。

札幌北光教会の牧師を務めるに当たって、自分に足りない点を列挙すればキリがありませんが、ただ主はこのようなまことに脆い土の器さえ用いて働いて下さるのだということを信じさせて頂いて、キリストの福音を喜びと驚きをもって説き 証して参りたいと思います。



人事は主の御業としての神事と信じるものでありますが、私たち夫婦の異動が最終的に稚内教会の代務、興部伝道所による牧師派遣という状況に至っている現実を重く受け止めています。無牧師教会が約2割という教区状況の中で、私のなしうること、札幌北光教会のなしうることを何であるかを見出していきたいと思います。

着任後、大変多くの出会いと共に別れもありました。前任教会の約4～5つ分に相当する規模の教会で、毎日目は回り人に酔ってしまっておりますが、自分の立ち位置がどこであるかを見失わず、教区の連帯の業にもまた少しずつ加えて頂ければと思っています。よろしくお願いいたします。



## 指方愛子 教師 札幌北光教会

この度岡山の旭東教会より夫と共にやって参りました、指方(さしかた)愛子です。北海道大好きな道産子で、19歳まで出身地旭川市で過ごしました。その後19年を京都、英国、岡山で過ごし、再び北海道にやってきました。主イエスは、故郷では受け入れられなかった、という聖書の箇所を思い、緊張しながら赴任致しました。これまでの牧師としての歩みは、教会員の方たちの祈りに支えられた歩みでした。これからも教区の皆さんの祈りにも支えられた歩みになることでしょう。久しぶりの北海道で、寒さを徐々に思いだし、ストーブの暖かさに喜び、梅、桜、チューリップ、水仙、ふきのとう、つくし…、が一度に芽吹く新緑の美しさに感動しています。小学3年生、

1年生、幼稚園年少の3人の息子たちも自然豊かな地に伸び伸びと放たれて毎日を謳歌しています。まだまだ未熟な牧師で一人では何一つなしえないけれども、弱いところこそ働いて下さる神様に信頼し、主の愛に驚き畏れながら、教会のため、教区のため、主の栄光のために僕として仕えて参りたいと思います。

主に夫は札幌北光教会で、私は北光幼稚園で副園長(チャプレン)として働かせていただきます。

どうぞよろしくお願ひいたします。



## 石沢陽子 教師 滝川二の坂伝道所

5月、滝川二の坂伝道所に赴任しました。母の介護などで10年以上牧会現場から離れて、弘前で過ごしておりました。15,6年前、教会実習で北海道を訪れ、新鮮な出会いの中で大切なことをたくさん教えられ、機会があったら北海道で働きたいと思っていたので、その願いがかなえられて、今はとても嬉しいです。



牧会現場から離れていた期間にも貴重な出会いと経験を得て、私自身の「人間としての生き方」や「信仰の持ち方」が大きく変えられました。これからの歩みにそのことが生かされることを心から願っています。

ただ冬眠から目覚めたクマがあなぐらからのっそり出てきたような状態で、まだ頭がボーっとしていて戸惑うことばかりです。これからも失敗したり、時代錯誤的なことを突然口走ったりして皆さんにご迷惑をおかけするかもしれません。できるだけ柔軟な心で若い人たち、年配の人たち、いろんな人たちからたくさん学んでいきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願い致します。

## 高橋優子 教師 酪農学園大学准教授

この4月29日に准允をうけ補教師となった高橋優子です。5月1日から酪農学園大学の教務教師となりました。北海道生まれ北海道育ちですが、大学入学と同時に北海道を離れ、22年ぶりに帰ってきました。道産子がしばらく故郷を離れて戻ってくると、しばしば「シャケ」にたとえられますが、まさに「母なる川」に戻ったような気分です。

大学生にキリスト教とその関連分野を紹介することが私の仕事です。今まで明治学院大学や聖心女子大学で教えてきました。日本ではキリスト教主義大学でも学生の信徒率は低いので、ゼロからキリスト教の基礎を扱うことになります。その際抽象的なことを言ってもわかりづらいため、既知の知識と新しい概念を結びつけることが大切です。しかし高校を卒業したばかりの新入生はあまり多くの「既知の知識」を持っていません。使えるのは高校までに勉強した日本史や世界史(ときどき倫理)くらいです。それでは足りないなので、彼らの文化(ポピュラーカルチャー)も「既知の知識」として活用することにしました。

ただこちらは私にとって「未知の知識」なので、私の方が勉強しなければなりません。マンガを読んだりアニメのDVDを見たりして知識をインプットして使い方を考えます。昨年から『福音と世界』で「現代日本の福音(エヴァンゲリオン)」という連載をもち、このアプローチを分かち合うこともはじめました。よろしくお願いいたします。





# 幹事室より

北海教区幹事 日向恭司

## ●2015年春の新着任教師

稚内教会

代務者 伊藤大道

春採教会

主任担任教師 衛藤満彦

就任式…6月21日(日)午後3時～

中標津伝道所

代務者 衛藤満彦

帯広教会

代務者 佐藤紀子

滝川二の坂伝道所

主任担任教師 石沢陽子

就任式…6月14日(日)午後3時～

札幌北光教会

主任担任教師 指方信平

担任教師 指方愛子

就任式…6月21日(日)午後3時～

西札幌伝道所

主任担任教師 丸山澄夫

就任式…7月12日(日)午前10時30分～

小樽公園通教会

主任担任教師 白崎智之

就任式…6月28日(日)午後3時～

苫小牧弥生教会

主任担任教師 井石 彰

就任式…6月28日(日)午後3時～

洞爺湖教会

代務者 石川宣道

函館千歳教会

代務者 三浦きょうこ(7月末まで)

主任担任教師 柴田もゆる(8月より)

就任式…8月23日(日)

※その他、牧師不在(代務者体制)の教会

名寄教会・和寒伝道所・置戸教会・栗山教

会・札幌元町教会・北広島教会・江差伝道所

## ●各種献金をお願い

今年も北海教区の宣教活動推進のために袋献金をお願いいたします。教会員の皆様に献金封筒を配付していただき、一人一人が献金の意義を確認してご判断の上、お献げ下さい。

5月 アイヌ民族権利回復活動献金

6月 芦別祈りの家維持献金

7月 センター・ホレンコ献金

8月 日韓宣教協力献金

9月 障がい者と共にある教会形成推進献金

10月 性差別問題活動献金

11月 部落差別をなくす運動推進献金

1月 年頭初穂献金

2月 靖国神社問題活動献金

通年 洞爺湖教会宣教協力献金

通年 東日本大震災支援活動募金

## ●活動予定

全道教会青少年夏期キャンプ

8月7～12日(未確定)

アイヌ民族フィールドワーク 10月上旬(未定)

教職講座 10月中旬(未定)

定例常置委員会 会場：北海道クリスチャンセンター

① 5月15日(金) ② 7月17日(金)

③ 9月18日(金) ④ 11月20日(金)

⑤ 1月22日(金) 以上、13:30～

⑥ 3月18日(金) 10:30～

●今年も生活習慣病予防健診(協会けんぽ)のご案内が届いています。教区事務所(佐藤)までお問い合わせ下さい。

## 広告

全国教会婦人会連合北海教区

### 第14回「全道教会婦人集会」ご案内

全国目標「主と共に働く宣教に仕え、福音の希望に生きる—マルコによる福音書を学びつつ—」

講 師 阿久戸 光晴 牧師(日本基督教団 滝野川教会・聖学園理事長)

日 時 2015年9月23日(水・祝) 14時から 24日(木) 12時まで

と ころ 札幌 北広島クラッセホテル(北広島市中ノ沢316-1)

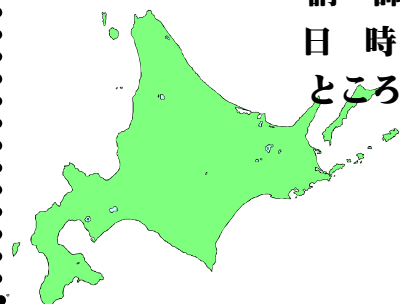
TEL: 011-373-3800)

参加費 14,000円

主 催 全国教会婦人会連合北海教区

事務局 「第14回全道教会婦人集会」実行委員会

実行委員長 齊藤竹子(教区委員長・札幌教会)



## 【常置委員会】

- 1 ◎ 久世そらち(札幌北部)
- 2 原 和人(手稲はこぶね・札幌富丘)
- 3 □ 木村拓己(美唄)
- 4 佐藤幹雄(岩見沢)
- 5 清水和恵(新発寒)
- 6 西岡昌一郎(旭川六条)
- 7 藤吉求理子(道北センター)
- 8 稲垣正策(函館千歳)
- 9 三浦英敏(札幌北光)
- 10 小林あずみ(千歳栄光)
- 11 佐久間光昭(置戸)

## 【財務部委員会】

- 1 ◎ 今多正行(札幌元町)
- 2 稲垣正策(函館千歳)
- 3 黒田 靖(東札幌)
- 4 島田久美子(月寒)
- 5 土田正充(十二使徒)

## 【宣教部委員会】

- 1 ◎ 原 和人(手稲はこぶね・札幌富丘)
- 2 □ 藤巻朋子(札幌元町)
- 3 (革新・委員長)
- 4 (革新・書記)
- 5 (連帯・委員長)
- 6 (連帯・書記)
- 7 (平和・委員長)
- 8 (平和・書記)
- 9

## 【革新部門委員会】 11名

- 1 ◎ 清水和恵(新発寒)
- 2 高杉香苗(札幌)
- 3 伊藤大道(興部)
- 4 榮まり子(手宮)
- 5 田中文宏(真駒内)
- 6 月下あゆみ(新得)
- 7 石垣弘毅(月寒)
- 8 高濱心吾(札幌北光)
- 9 藤吉求理子(道北センター)
- 10 荒谷陽子(置戸)
- 11

## 【連帯部門委員会】 10名

- 1 ◎ 西岡昌一郎(旭川六条)
- 2 松竹谷はる(真駒内)
- 3 石橋隆広(利別)
- 4 松本紳一郎(函館)
- 5 小野美紀(十二使徒教会)
- 6 田中真希子(真駒内)
- 7 斉藤心一(札幌富丘)
- 8 稲益久仁子(名寄)
- 9 ト部康之(千歳栄光)
- 10

## 〈洞爺湖教会宣教協力協議会〉

- 1 ◎ 西岡昌一郎(連帯)
- 2 (連帯)
- 3 (苫小牧地区)
- 4 (苫小牧地区)
- 5 (有珠山)
- 6 (洞爺湖)

## 【平和部門委員会】 16名

- 1 ◎ 小西陽祐(余市)
- 2 佐藤綾子(手稲はこぶね)
- 3 浦部浩行(新発寒)
- 4 鈴江英一(札幌元町)
- 5 谷百合子(新発寒)
- 6 韓 守賢(旭川豊岡)
- 7 板谷良彦(札幌北部)
- 8 佐藤紀子(無任所)
- 9 今橋 直(札幌北部)
- 10 佐藤幹雄(岩見沢)
- 11 松尾みつ子(真駒内)
- 12 後藤二子(札幌北部)
- 13 朴 美愛(野幌)
- 14 小林昭博(酪農学園大学)
- 15 伊藤英治(月寒)
- 16 三浦忠雄(アイヌ民族情報センター)

## 〈アイヌ民族情報センター活動委員〉

- 1 ◎ 三浦忠雄(主事)
- 2 林倉文子(手稲はこぶね)
- 3 芦澤 満(帯広)
- 4 石川宣道(室蘭知利別)
- 5 ロバート・ウィットマー(道北センター)
- 6 ディヴァン・スクルマン(宣教師)
- 7 本田幹夫(浦河)

## 【人事部委員会】

- 1 ◎ 久世そらち(札幌北部)
- 2 原 和人(手稲はこぶね・札幌富丘)
- 3 木村拓己(美唄)
- 4 日向恭司(幹事)

## 〈宣教師委員会〉

- 1 ◎ 三浦忠雄(留萌宮園)
- 2 首藤悦更(札幌富丘)
- 3 日向恭司(幹事)

## 【専門委員会(常設委員会)】

## 〈宣教研究委員会〉

- 1 ◎ 石川宣道(室蘭知利別)
- 2 笠田弘樹(琴似中央通)
- 3 小栗昭夫(小樽聖十字)
- 4 小林あずみ(千歳栄光)
- 5 佐々木克幸(札幌元町)

## 〈教区史年表編集小委員会〉

- 1 ◎ ト部康之(千歳栄光)
- 2 森 宏士(栗山)
- 3 鈴江英一(札幌元町)
- 4 相馬述之(札幌北光)
- 5 太田千代(月寒)
- 6 小松俊郎(札幌中央)
- 7 阿部敏夫(札幌北光)
- 8 松島俊也(札幌富丘)

## 【常任委員】〈会計監査〉

- 1 佐伯嘉美(苫小牧弥生)
- 2 井上昌保(野幌)
- 3 松浦義夫(小樽)

## 〈広報委員会〉

- 1 ◎ 三浦きょうこ(七飯)
- 2 亀岡 徹(島松)
- 3 高橋雅之(札幌北光)
- 4 倉本真理(札幌富丘)
- 5 難波真実(士別)
- 6 丸山澄夫(西札幌)
- 7 阪口 孝(倶知安)
- 8 木村拓己(美唄)

## 【専門委員会(特設委員会)】

## 〈ハラスメント防止委員会〉

- 1 ◎ 清水和恵(新発寒)
- 2 田中真希子(真駒内)
- 3 石川まなか(室蘭知利別)
- 4 鈴木 一(手稲はこぶね)
- 5 辻中明子(島松)

## 〈性差別問題担当委員会〉

- 1 ◎ 杉岡ひとみ(千歳栄光)
- 2 清水和恵(新発寒)
- 3 木村 幸(美唄)
- 4 辻中明子(島松)
- 5 石井美雪(真駒内)
- 6 永田克自(手稲はこぶね)

## 〈東日本大震災支援委員会〉

- 1 ◎ 久世そらち(札幌北部)
- 2 △ 日向恭司(幹事)
- 3 丸山澄夫(西札幌)
- 4 石井美雪(真駒内)
- 5 板谷良彦(札幌北部)
- 6 高濱心吾(札幌北光)

## 〈有珠山噴火救援小委員会〉

- 1 ◎ 原 和人(手稲はこぶね・札幌富丘)
- 2 秋山美智子(洞爺湖)
- 3 石川宣道(室蘭知利別)

〈北海道南西沖地震災害  
救援対策小委員会〉

- 1 ◎ 木村拓己(美唄)
- 2 稲垣正策(函館千歳)
- 3 日向恭司(幹事)

## 〈北海道クリスチャンセンター運営委員会〉

- 1 ◎ 久世そらち(教区議長)
- 2 □ 木村拓己(教区書記)
- 3 原 和人(教区副議長)
- 4 日向恭司(教区幹事)
- 5 雨貝行麿(北海道クリスチャンセンター)
- 6 北川健一(札幌北光)
- 7 松尾みつ子(真駒内)
- 8 佐々木克幸(札幌元町)

## 〈芦別祈りの家管理委員会〉

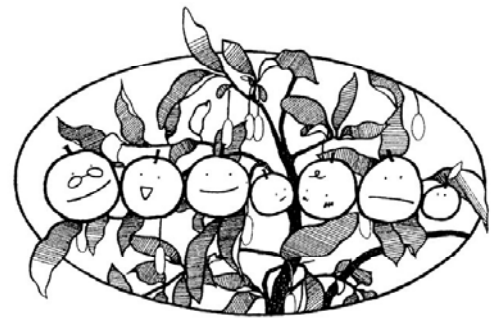
- 1 ◎ 日向恭司(教区幹事)
- 2 板谷良彦(札幌北部)
- 3 西岡昌一郎(旭川六条)
- 4 黒田 靖(東札幌)
- 5 木村拓己(美唄)

# 「共に生きる教会形成」 教区集会（同、キャラバン） への名称変更について

委員・田中文宏

北海教区では、1973年に「障がい児・者問題を語る会」が設置され、1981年第41回北海教区定期総会において「障がい者と共にある教会形成」の推進が決議されました。この決議に基づいて、毎年教区集会やキャラバンなどの活動が実施され、34年にわたって学習と実践を推進してきました。

この間、集会の名称についても議論が重ねられ、「障がい」についての理解が深められてきました。2001年に、WHOは、「障がい」を個人に負わせる「国際障がい分類」（1981年）を改め、新しい分類を取り入れた「国際機能分類」を発表しました。つまり、これまでの「障がい者と共にある教会形成」教区集会という名称は、34年前の「障がい」理解に基づいているのです。すでに国際社会においては、「障がい」についての新しい考え方が受け入れられつつあります。日本でもようやく昨年「障がい者権利条約」が批准されました。これは、「障がい」を社会との関係の中で理解し、障がい者の権利に焦点をあてた初めての条約です。「障がい者の権利条約」は、「障がい」を人権の問題として取り扱っています。非障がい者が当たり前には保障されている権利を障がい者にも平等に保障しようとするもので、障がい者にのみ特別の権利を認めようとしているわけではありません。



このように、ノーマライゼーション、バリアフリー、ユニバーサルデザイン、インクルーシブなどの言葉によって表現されているように、かつての固定的な「障がい」理解から一人ひとりの個性や人格を尊重する考え方へと変わりつつあります。社会が変わることにより、「障がい」理解も変わっていくのです。

私は教区の障がい者の活動に関わる中で、「障がい」についての認識が固定的なものから「弱さ」、「生きづらさ」など、社会との関係の中で認識されるようになってきたと感じています。このような経緯を踏まえて、「共に生きる教会形成教区集会（同キャラバン）」へ名称が変更されました。障がいの有無にかかわらず、共に生きるパートナーとして、主の体である教会形成を目指していきたいと思います。

## 「共にある教会形成」 キャラバンのご案内

今年はキャラバンを実施します。キャラバンを希望する教会・伝道所は教区事務所へお申し出ください。

## 集会案内

### 第35回教会の手話研修会

と き： 7月4日(土)  
午前10時～午後2時半  
ところ： 北海道クリスチャンセンター  
講 師： 山本和幸牧師  
(東洋ローア・キリスト伝道教会 札幌伝道所)  
ディヴァン・スクルマン宣教師  
(台湾基督長老教会)  
参加費： 1,000円 (昼食・資料代を含む)

### 朗読講習会

と き： 8月25日(火)  
午前10時～午後12時半  
ところ： 北海道クリスチャンセンター  
講 師： 田中隆子さん  
(朝日カルチャーセンター講師)  
参加費： 1,000円



# 第43回全道教会中学高校生春の集い

革新部門委員会

## アイデンティティ ～心の受けとりかた～



3月26日(木)から28日(土)にかけて、余市教会において「第43回全道教会中学高校生春の集い」が行われました。今回のテーマは「アイデンティティ～心の受けとりかた～」で中高生21名、大学生スタッフ3名、おとなスタッフ5名、乳児1名の合計29名の参加がありました。

この春の集いでは、テーマにもあるように「自分自身を見つめる」という機会を持つことができました。その中で、自分のアイデンティティを改めて考えるのと同時に、人と人とのつながりの中で生

かされていることを再認識することができたのではないかと思います。テーマにもある「心の受けとりかた」の「心」と「受」という感じを組み合わせると「愛」になります(ちょっとだけ字が違いますが、そこは目をつぶってください)。自分を見つめるだけでなく、相手の心を受け取るときに愛が生じる。春の集いを通じて、参加者はそのことを学ぶ事ができたのではないでしょう。

今回は、参加者の中から高校生スタッフとして働いてくださった久世瑞穂さんが感想文を書いてくださいました。久世さんは2日目の夜の祈りのときにもお話を担当され、その時の聖書の御言葉をもとに、ご自分の思いを文章に記してくださいました。

### ！！ 参加者の感想 ！！

#### 「自分の道」 久世瑞穂

私はこの春、大学受験という一つの大きな人生の転換点を経験しました。今、それを終えて一番強く感じていることは、自分の道は自分で決めたり選んだりできないもの、神様によって準備されているものなのだという事です。

今回、私が選んだ聖書の箇所はコリントの信徒への手紙Ⅲ章7節です。そこには「大切なのは植える者でも水を注ぐ者でもなく、成長させてくださる神です」とあります。私がこれを礼拝で聞いた時は信仰についての説教をいただいたのですが、後で考えてみると、これは進路など将来についてのことにも当てはまる御言葉なのではないかと思いました。

確かに、自分が将来何をしたいのかを決めたり、そのために何をするべきか考えて行動を始めるのは自分自身かもしれません。でも、その後には、必ずしも自分が思い描いていたとおりのものではないかもしれないけれど、自分が成長するために最もふさわしい道が神様によって準備されているのではないかなと思います。

これから、自分だけでなく、今回の春の集いの参加者の人生にも、思い通りにならないこと、どうして自分はこんな苦しい思いをしなればいけないのだろうと思うことがきっとあって、なぜ神様は自分のこのような思いをさせるのだろうと思うことがあるかもしれません。しかし、きっとそれは神様が用意してくださった自分に最もふさわしい“道”であるはずで、そのことを信じて自分もこれから進んでいきたいし、今回参加したみんなにも、それぞれの“道”を進んでほしいです。



# 二つの川の流るる行方

～ 北海教区と西東京教区の30年と今後…～

興部伝道所 伊藤大道

興部伝道所がある興部の地名は、アイヌ語の「オウコッペ」に由来しています。意味は、「川尻の合流する場所」です。その名の通り、興部町は「興部川」と「藻興部(もおこっぺ)川」の2つの川が合流し、オホーツク海に注がれている場所にあります。

その興部の地に教会が建てられて60年近くになりますが、その歴史の中で特筆すべきは、西東京教区との宣教協力でしょう。1986年、当時北海教区議長だった五味一牧師と、東京教区西支区(現西東京教区)支区長の長崎哲夫牧師の尽力により、北海教区オホーツク伝道圏伝道第1次宣教協力が実現することになりました。

そして、その具体的な実りとして、当時、東京教区西支区狛江教会より飯田輝明牧師を興部伝道所に招聘することになりました。

その後も、西東京教区と北海教区との宣教協約に形を変えても、具体的には興部伝道所へ



1989年興部ワークキャンプ(26年前！ 久世議長がいます。)

の支援という形で継続されてきました。その中で、西東京教区から教会青年興部ワークキャンプとして、たくさんの方々が興部に来て下さり、人と人、教会と教会とのつながりをはぐくむ関係を築いてきました。現在の北海教区議長の久世そらち牧師も、第1回のワークキャンプに参加されたお一人です。

そうした、西東京教区による支援は、一方的に財政などを援助するのではなく、互いに支え合う中で豊かな実りを生み出していくものであるというところに特徴があります。地方の小規模教会である興部伝道所は、西東京教区からの支援によって支えられているのは確かです。同時に、興部にワークキャンプに来

られた青年の中から、多数の献身者が生み出されたことや、あるいは教会の在り方について考える契機となったことなどが、相互の協力関係から生み出された賜物であるといえます。

そうした歴史を振り返って思うのが、まさに興部伝道所は西東京教区と北海教区という2つの川の流るるが合流する場所であるということです。

この2つの教区は、歩んできた歴史、宣教についての考え方など、相違する部分はたくさんあります。ときには、その相違によって、異なる意見をぶつけ合うこともあるでしょう。けれども、手前味噌な言い方に

なるかもしれませんが、そんな性質の異なる2つの教区が、まさに興部伝道所において一致し、協力するところに人の思いを超えた神様の御心が働いているように思えます。

来年の2016年に、西東京教区

と北海教区との宣教協約は30周年を迎えます。現在の教団情勢の中で、今後の宣教協力がどうなるか不透明な部分もあります。しかし、そんな状況だからこそ、北海教区と西東京教区とが互いに歩み寄ろうとする姿勢が必要とされているのではないのでしょうか。

西東京教区と北海教区という2つの川の流るるの中にある小さな教会。その小さな教会に、2つの教区の大きな恵みが注がれてきました。これから、その2つの川の流るるがどこに向かうのかはわかりません。しかし、その両教区の川の流るるが興部の地においてこれからも出会い、一つになることを切に願っています。

## 靖国神社問題関連担当

### 靖国問題ってな～に？

#### 戦争との関わりを考えるリーフレット

2013年11月23日に開かれた靖国神社問題北海道キリスト教連絡会議（北海教区はこの会議の主催団体の一つです）で、靖国問題をよく知らない人、あまり関心のない人にも読んでいただけるようなポケット版のリーフレットをつくらうということになり、ようやく発行する運びになりました。内容は各ページが靖国問題についての対話になっていて、全部で8ページです。大きさは各ページが手のひらに入るくらいでの大きさです。折りたたんであるリーフレットを開いて、その裏面を見ると、日清戦争の頃に作られたという双六<sup>すごろく</sup>が印刷してあります。上がりは大将と靖国神社。戦死すれば早く上がれるというゲームです。軍人として手柄を立て出世することと戦死することが名誉であると教えるものです。靖国神社が兵士養成装置であることがわかります。

#### 靖国問題 対話編 - 1 -

ねえ、最近マスコミで話題になっている靖国神社、キミ、知ってる？

うん、聞いたことある。でもそれって、自分の生活に関係ないし、特に興味なかったけど、何か問題あるの？

「うん、そうなんだ。実は、靖国神社は、戦争賛美の神社なんだよ」

### 安倍首相の、靖国真榊奉納に抗議！

安倍首相は、この春の靖国神社例大祭に真榊(まさかき)を奉納しました(4月21日)。

真榊とは…、神殿に備えるサカキの鉢植えで、真榊料5万円とのこと。ニュース映像で見ると、意外に大きな木(2mくらい?)で、傍らに「内閣総理大臣 安倍晋三」の木札が。

この奉納に対し、久世教区議長と佐藤幹雄平和部門委員長の名で抗議文を送りました(これまでも、参拝、奉納のたびごとに送っています)。

なぜ、靖国参拝や、真榊奉納に抗議するのか！？

① 政教分離に反する。

② 戦争賛美、戦争する国づくりに直結する＝主に戦前・戦中、「死んだらヤスクニに祀る。そこにみんながお参りする」との榮譽を与えることで、ふつうの国民が「死を恐れない兵士」に作り変えられた。首相の靖国神社への参拝、奉納は、この「兵士養成装置」としての機能の一部である。

このような参拝・奉納を決して許すことはできません。抗議文は、首相官邸と、同様の行為を行った閣僚たちに送りました。(道内新聞各社には抗議文を送ったことを知らせました)。



真榊のそばに内閣総理大臣 安倍晋三の名札がある。

= 靖国・憲法問題の今 =

### なにか前のめり !!

#### ◇戦後70年談話、侵略・お詫び、明記必要ない。首相、歴史認識は「継承」。

安倍晋三首相は、4月20日のBS番組で発言。夏に発表する戦後70年談話では、村山談話の「植民地支配と侵略」「心からのお詫び」を言わないと。過去の首相談話を引き継ぐのだからもう一度書く必要は無いとの説明。これは、22日のバンドン会議、29日のアメリカ議会での演説も同様。「侵略を入れるのはイヤだ」と押し通した。

#### ◇国立大学でも国旗・国家を。首相、入学式などで。

4月9日、参院予算委員会で、安倍首相は、国立大学の入学式、卒業式でも国旗掲揚、国家斉唱を行うことが望ましいと発言。国立大学も教育基本法の方針で実施すべきと。下村文科相も各大学に要請するとの答弁。次は私立学校も!?

#### ◇安保法制、与党合意へ。集団的自衛権行使を明記。

連休明けの5月11日、安全保障法制のための与党協議が開かれた。集団的自衛権の行使を可能とする武力攻撃事態法改正などの関連法案の審査を始める。安倍首相は、アメリカと一体となって戦争が出来る法案を夏までに必ず成立させると、アメリカ議会で約束した。法案を成立させて、自衛隊は日の丸掲げて海外へ、首相は晴れて靖国神社へ二度目の参拝??



# 「第 27 回部落差別問題学習会」が開催されました

詳細な資料に基づく重たい内容の講演でしたが、出席者が少なく、「もったいない」というのが一番の感想でした。そこで、講演の概要のほかに、講師の了解を得た上で、当日配布された資料を、ほんの一部分ですが、一例としてそのまま掲載します。すべての資料を希望される方は、担当の佐藤(岩見沢教会)までお申し出ください。メールにファイル添付する方法で送付させていただきます。

開催日：4月28日(火) 会場：北海道クリスチャンセンター 参加者：11名

講演題：部落解放運動は何をめざすのかⅡ

群馬の被差別部落からの問いかけ ～名もなき証言者たち～

講師：安田耕一(やすだ こういち)さん

1954年に群馬県太田市に生まれ、現在も同所に居住。大学で部落解放研究会を組織して活動始める。部落解放同盟東京都連専従をへて、現在、解放新聞社編集部所属。86年からはフィリピンの先住民族、92年からはインドの被差別民(ダリット)との交流をつづけている。その他、NPO法人・人権センターとちぎの企画運営委員、渡良瀬川鉍毒根絶太田期成同盟会常任委員。日本キリスト教団太田八幡教会 信徒。

## 講演プログラム

### I 群馬の被差別部落

江戸時代・不条理のなかに生きた証言者たち

1. 大円寺文書
2. 金山の献上松茸

明治時代・抵抗のなかに生きた証言者たち

1. 祭礼参加問題

大正時代・闘いのなかに生きた証言者たちⅠ

1. 小作人組合の結成
2. 関東水平社創立
3. 群馬農民組合連合会結成と世良田村事件

昭和時代・闘いのなかに生きた証言者たちⅡ

1. 関東水平社の解散
2. 解放運動の再建とジェラード事件

### II 足尾鉍毒事件

1. 田中正造で語られた時代と被差別部落
2. 戦後の足尾鉍毒事件と被差別部落

### III インド・フィリピンのマイノリティとの交流

86年と92年の出会いから

### IV 部落解放運動は何を目指すのか

名もなき証言者たちの時代へ

## 資料⑥一世良田村事件

関東水平社・群馬水平社が結成された翌々年の1925年1月18日未明、自警団に組織された周辺村民1000人以上が数派にわたって被差別部落を襲撃、暴行のかぎりをつくした。周到に計画が練られ、主だった水平社活動家の家を狙い撃ちにし、家財は庭に引き出され破壊、放火された。襲撃した側は控訴審で罰金刑のみ。騒動の責任は糾弾が発端だとして剛志村水平社員も逮捕され、水平社側が懲役を含む重罰にされた差別事件である。この事件は、差別発言をした者にたいする過酷な糾弾が発端とされているが、水平社と当事者との約束を反故にさせたのは、自警団の圧力による。糾弾が行き過ぎたとか言うレベルの襲撃ではなく、水平社を撲滅するという天皇主義右翼思想が指導者のなかにあった。事実、警察はこの動きを察知していながら黙認したといわれても仕方のない対応だった。

村民は、日頃の差別的態度から糾弾を「報復」として捉えて畏れており、水平社の活動に恐怖心を抱いていた。そうした差別的恐怖心を権力はうまく煽動し利用した。同時に、地域マイノリティとしての被差別部落民の抵抗の力をそぐ、徹底した恐怖をおしつけた政治テロとしての性格も見逃せない。これ以降、水平社は四分五裂し組織としての力は弱まった。力でねじ伏せるという権力の意図は貫徹したといえる。とくに、1923年9月の関東大震災では、多くの無辜の朝鮮人と社会主義者が虐殺された。二つの事件は偶然ではなく、時代が戦争にむかっていく前夜であったことを考えれば、地域における草の根ファシズムの形成過程として興味深い。



## ハラスメント防止委員会

### 【PART 5】＜これってハラスメント？＞

STOP!



教会で起こり得るハラスメントの一例を紹介します。フィクションですが、教会形成に関わる問いかけとして受けとめ考えていただければと思います。

#### 〔ケース〕・・・・・・・・・・・・・・・・

大学を卒業したばかりのXは、東京での社会人生活も慣れた頃、近くの教会に行ってみた。若い人の集まる大きな教会。Y牧師は教会員から尊敬を集め、説教も力強く威厳があるように思えた。しかし、XはYに対し、高校時代に出会った聖書科の先生（牧師）とは異質なものを感ずるようになった。

高校時代の聖書科の先生たちは「わからないことがあったら気軽に質問してください。疑問を持っていいのですよ。聖書の問いかけることに対して、自分でよく考え向き合うことが大切です。」と言っていた。ところがYは「聖書に疑問を持つことは不信仰です。まだ、信仰が未熟のようですから、牧師や役員、教会の先輩の言うことをよく聞いて従うように。批判や反抗的な態度はいけません。聖書にこんな言葉がありますから、しっかり聞いてください。み言葉を聞かないのは罪ですよ。」

そして以下のような聖書を示された。

「若い人たちよ、長老に従いなさい。」（1ペテロ5：5）

「人はみな、上に立つ権威に従うべきです。」（ローマ13：1）

「あなたがたの指導者たちの言うことを聞き、また服従しなさい。」

（ヘブライ13：17）

Xは混乱した。聖書科の先生とY牧師の言ってることはどっちが正しいのだろう？ Yは権威主義的な感じがする。この教会には親しくなった友人もいて、できれば離れたくない。でもこの友人も牧師の言うことに疑問を持たずに過ごしているようだ。聖書ってなに？ 牧師ってえらいの？ わからなくなってきた…。教会に行くことをやめようかと思っている。

#### 【ポイント】

◎聖書科の先生など、信頼できる人に相談しましょう。

◎自分自身の考えを大切にしましょう。

◎疑問を持つことは不信仰や罪ではありません。

◎牧師の価値観を押しつけることは、ハラスメントにつながる場合があります。

◎人それぞれ個性があるように、教会にもそれぞれ個性があります。求める気持ちがあるなら、他の教会にも行ってみて、出会いを広げてみるのも一つの方法です。



ハラスメントは誰にでも、どこにでも起こり得ると認識することが大切です。もし、被害を受けたと感じたら、教区の電話相談にもお気軽におかけください。

なお、4月29日～30日に行われた第75回北海教区総会は、「ハラスメントの防止と問題解決に関するガイドライン」制定を可決し、それに伴いパワーハラスメント防止委員会の名称は、ハラスメント防止委員会に変更することになりました。詳細は各教会にも配布されております議案・報告書をご覧ください。

教会におけるハラスメントに悩む人のために  
北海教区ハラスメント電話相談

\*  
\*  
\*  
\*

**011-757-6282**  
毎月第3金曜日 午前11時～午後11時  
上記の日時以外はつながりません。

## 性差別問題担当委員会 ～生と性の豊かさを求めて～



### 「女性自衛官の人権裁判」が問いかけたもの 清水和恵(新発寒教会)

#### 【女性自衛官の人権裁判とは】

2006年、北海道の航空自衛隊基地に勤務する女性自衛官が、同僚からの性暴力と上司からの執拗なパワーハラスメントを受ける事件が起きました。その後、女性自衛官は国を相手取り損害賠償を求めて提訴すると同時に、支援する会が発足され性差別問題担当委員会も加わりました。提訴から3年後の2010年、札幌地裁において原告は勝訴します。原告の勇気あるたたかいによって得られた勝訴は、全国の女性自衛官や多くの女性たちへの大きなエールとなりました。

裁判支援に関わり、注目させられたのは自衛隊における「上命下服」という権力支配構造や男女平等を謳いながら徹底した「男」優先社会であること。厳然としてある性差別。外からチェックが入りにくい組織の密室性、自己完結性です。それらがハラスメントを起こした温床になっていると思いました。

#### 【教会はどうなのか】

北海教区は性差別の克服やハラスメントの防止と問題解決を宣教の課題として取り組んでいます。私自身、上記の裁判支援と教区における取り組みを通して問いかけられました。つまりハラスメントが起きる組織、集団の類似し共通する構造的な問題についてです。個が大事にされず、対等な関係性を構築できない集まりは、教会であろうとなかろうといかなる場であれ、差別と排除の論理がまかりとおり、人権侵害を生み出す危険性をはらんでいることが見えてきたのです。教会で起こるハラスメントの事例を検証すると、やはり背景にあるのは教会内の「上命下服」、差別性、密室性、自己完結性であることに愕然とします。

牧師と信徒における「上命下服」、牧師が信徒の上に立ち指導すべきもの、優れたものという「常識」。神の前の平等を説きながら厳然としてある差別。交流や対話がないこと、異なる意見に聴く耳を持たず互いに尊重しないことなど……。さまざまな事象がハラスメントを生じさせる要因となっています。ハラスメントはあってはなりません。人を深く傷つけ、場合によっては日常生活を困難にし未来を奪うほどの人権侵害をもたらします。いのちと尊厳が大切にされ、神様から与えられた生と性の豊かさを喜び祝福しあう教会と社会を作っていきたいと願うものです。

※上記の拙稿は、2015年1月26日に、広島で開催された第11回日本キリスト教団性差別問題連絡会全国会議における発題の要旨です。なお、第12回全国会議は、2016年1月下旬に札幌で開催が決まっています。北海教区が現地実行委員会を組織して準備にあたります。

#### おしらせ



#### \*キャラバンを呼んでください！あなたの地域をご訪問します♪

多様な「性」を理解し、さまざまな性差別(性的少数者差別やハラスメントなど)をなくしていくための情報を提供し、みなさんと共に学び考えあう「出前講座」です。お気軽に問い合わせください。ご連絡お待ちしております。 お問い合わせ:北海教区事務所 011-716-5334

#### \*北海教区は、リーフレット「ハラスメントQ&A」を作りました。

各教会に配布いたしましたので、ぜひご覧ください。

#### \*献金のお願い 2015年度献金目標額 30万円 どうぞ覚えて、お支えください。

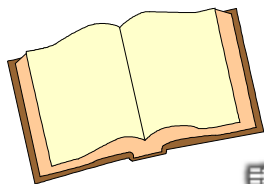


# 第64回 北海教区年頭修養会ニュース

## 「みことばに生きる」

### ～今日も歌おう 主の前で～

ハレルヤ。新しい歌を主に向かって歌え。  
主の慈しみに生きる人の集いで賛美の歌をうたえ。  
詩編149:1



講師：陣内大蔵氏

講師による歌と証しに心傾け。共に賛美しましょう♪  
子ども年修は、キッズゴスペルで賛美しましょう♪

2016年1月11～12日

十勝川温泉ホテル大平原



#### 【講師プロフィール】 陣内大蔵（じんのうちたいぞう）氏

1965年生まれ。幼少期よりバイオリンに親しみ、音楽の才能を磨く。関西学院大神学部在学中に歌手デビュー。シンガーソングライターとして活躍。2007年に日本聖書神学校を卒業後は、牧師として、音楽家として、“二足のわらじ”を履いて活動中。

日本キリスト教団東美教会牧師。シンガーソングライター。

著書：「ぼくんちは教会だった」 教団出版局

信徒の友“旅往けば…”連載コラムなど。

#### ～主題聖句に寄せて～

三浦亮平

▼詩編でくり返される「新しい歌を歌え」という言葉。いずれも、地上の苦難からの主による救いを歌っています。

▼ピークとなる一四九編では、主が聖徒たちと共に完全に支配される神の国の到来が高らかに賛美され、一五〇編のハレルヤ賛歌へと続くのです。

▼新約聖書で「新しい歌」という言葉が使われているのは、黙示録五章九節。「そして、彼らは新しい歌をうたった。…あなたは、屠られて、あらゆる種族と言葉の違う民、あらゆる民族と国民の中から、御自分の血で、神のために人々を贖われ、彼らをわたしたちの神に仕える王、また、祭司となさったからです。彼らは地上を統治します。」

▼十字架で私たちの罪を贖われた主イエスが、王の王として統治される新しい天と新しい地。そこで賛美されるのが、この「新しい歌」なのです。

▼愛と義の主は、約束を絶対に守られ、救いと裁きを成し遂げてくださる。その確信が、この世のどんな苦しみや不条理の中でも、主を信頼し続ける力となり、賛美となるのです。

「ハレルヤ。新しい歌を主に向かって歌え。主の慈しみに生きる人の集いで賛美の歌をうたえ。」



※お知らせ …初日の晩、自主プログラムの枠を予定しています。ご計画ください。募集は後日、改めて！

# 北海教区 各地区の働き



道北地区：10 教会 1 センター  
道東地区：7 教会  
石狩空知地区：7 教会  
札幌地区：17 教会 2 センター  
後志地区：7 教会  
苫小牧地区：8 教会  
道南地区：7 教会 1 センター

## 道東地区

三浦亮平（新得教会）

2015年度の道東地区は、釧路春採教会に新たに衛藤満彦先生を迎えてのスタートとなりました。中標津伝道所、帯広教会が無牧師のため、7つの教会に対して牧師4人と信徒伝道者である宣教主事1人、3教会が代務者体制となっています。

5月11～12日、第1回目の教師会が阿寒湖荘で開催され、上記の教師全員が参加しました。年4回の内、1回だけを泊まり込で行っている教師会を、衛藤先生の歓迎会を兼ねて今回実施した次第です。顔ぶれは、釧路春採教会の衛藤牧師、釧路教会の青砥牧師、北見望ヶ丘教会の秋山牧師、置戸教会の荒谷主事、新得教会の三浦牧師の5名でした。

道東地区では、釧路、北見、十勝の三つのブロックに分け、ブロック毎の持ち回りで地区委員会を担当しています。地区の代表者が顔をあわせる機会は、年一度の地区総会に限られるため、地区内の教会をつなぐ場として、教師会の役目は非常に重要なものとなっています。

今回の大切な議題の一つは、中標津伝道所の説教応援についてでした。すでに中標津伝道所の代務を春採教会の衛藤先生が担うことが決まっています。釧路ブロックを中心に、他のブロックも協力しながら説教応援を行っていくことを確認しました。

前任の稲葉信一先生が、就任から一年を経たずに召天された中標津伝道所。信徒お一人お一人の献身的な働きが守られ、教会の業が保たれていきますように、教区に連なる皆様にも、お祈りと様々な形での支援をお願いいたします。

写真：阿寒湖荘



阿寒湖荘が、教師会の会場に定着しているのは、営業部の籠島さんがクリスチャンで、いろいろと配慮くださることと、地区の中心地で比較的集まりやすいのが大きな理由です。それでも平均の移動距離は、往復約180kmになります。

例年より20日ほど早い桜が満開の中、温泉で、日々の疲れを癒す恵みに預かりました。有名な温泉地で教師会。それもまた、広大な地区ならではの恵みなのだと実感させられるひとときでした。

## 札幌地区

板谷良彦（札幌北部教会）

札幌地区では2015年度総会が3月20日に札幌北光教会で行われました。今年度は三役改選期に当たり、地区委員長には板谷良彦さん（北海道クリスチャンセンター・札幌北部教会）が再選され、副委員長には高濱心吾牧師（札幌北光教会）が新しく選ばれました。書記には5月21日に行われた第1回委員会にて丸山澄夫牧師（西札幌伝道所）が承認されました。総会では2014年の活動の総括と決算と2015年度の活動と予算について話し合われました。その様な中、札幌地区において分担金を留保し続ける教会があり、未収金額がほぼ1年間の分担金額と同額になっています。このため、ぎりぎりの予算の中で活動が制限されながら、3つの委員会（礼拝と学び委員会・宣教と交わり委員会・いのちと平和委員会）が財政について工夫しながら、プログラムを行っています。札幌地区は、北海教区内で一番大きな地区として、地区内の教会同士の宣教協力、他地区との連帯をどのような形で行っていきけるのかが大きな課題となっています。2015年度は地区のあり方を話し合う、将来検討委員会が新しく設置されることとなりました。信徒を含めた礼拝交流の在り方、礼拝応援の方法、他地区への協力など、どのような形が望ましいのかを話し合い、委員会に提示していきたいと考えています。札幌地区にご協力できることがあればぜひ三役までお申し出ください。地区委員会にて検討していきたいと思ひます。

4月から、札幌北光教会には指方信平牧師・愛子牧師が赴任しました。また西札幌教会は長く代務者を置く体制を取ってきましたが、昨年までの代務者の丸山澄夫先生が主任担任教師となることとなりました。元町教会が昨年に引き続き、北広島教会が新たに無牧教会となります。お祈りください。

## 道北地区

韓守賢（旭川豊岡教会）

「信徒こそが、道北地区の主役だ！」 これまでの教会でもそうだったはずですが、これからの教会においてはますます「信徒の力」が必要とされていきます。広大な北海道、寒冷地の道北地区、点在する小規模教会。無牧師の教会が増え、教会財政は弱体化し、教会員の高齢化・召天が続く。日本にある多くの教会の現実ですが、もちろんここ道北地区もご多分に漏れません。いや、むしろ地方の小規模教会においてこそ、この厳しい現実が他に先駆けていち早く現れ始めるのでしょう。

けれども、諦めたくないのです。厳しい現実を冷静に受け止めつつ、しかし、そこに生きて働く神様の力を感じたい。できうるならば、私たち一人ひとりが用いられ、その神様の力の一部になりたい。そう祈るのです。

「第四次道北地区長期宣教計画」。2014年度に策定、実施され始めました。また、11月には三年ぶりの道北地区集会を開き、意欲的に取り組みました。顔と顔を合わせて、共に思いを分かち合い、祈ること。言葉にすると当たり前のようですが、しかし、改めて、そのことの大切さ、素晴らしさを感じさせられたのです。

新しい年度、2015年度が始まりました。3月の道北地区総会を経て、地区四役の顔ぶれが変わりました。委員長：韓守賢（旭川豊岡教会）、副委員長：西岡昌一郎（旭川六条教会）、書記：稲村隆（旭川六条教会）、会計：藤吉求理子（道北クリスチャンセンター）。これまで道北地区が大切にしてきたことを引き続き大切にしつつ、少しずつ新しいチャレンジをしていきたいと願っています。

「道北地区って、楽しいな」「道北地区活動って、自分の信仰生活と結びついてたんだ」。道北地区活動に加わり、関わるのが、一人ひとりの信仰生活の力になるなら、これほど素晴らしいことはないと思うのです。一人ひとりが、特に、信徒の方が、心からそう思える。そんな道北地区活動を形作っていかれたと願っています。大きなことを、たくさんのかんことをやりたいわけではないのです。今、私たちに必要なこと、必要だと思うことを、思いと祈りを分かち合いながら、丁寧に、着実かつ大胆に言っていきたい。きっと、その歩みの中で、私たちは、神様の御心に出会っていただける。イエス・キリストの福音を心と体で感じる。そう、願い、信じています。

## 後志地区

平 宏史（岩内教会）

第1回地区教師会、地区委員会が4月21日(火)午後4時より小樽教会で開催されました。

### ◇各部・各会の計画

- ・岩内厚生園問安：昨年同様に12月の問安予定
- ・中高生（イサクの）会：3月26日から28日に余市教会で実施された教区主催「高校生・春の集い」に余市教会より一名の参加者あり、地区から参加費の補助を行うこととした。2015年度としても昨年同様に夏は芦別で行われるワークキャンプ、春は「高校生・春の集い」への参加を呼びかけながら、地区の中高生の活動を行う。
- ・社会委員会：8月に小樽市内牧師会と協力して「小樽平和集会」、2月11日に憲法を考える集会を企画する予定です。
- ・伝道協力委員会：2016年2月6日（土）に倶知安伝道所の雪下ろしを実施予定。
- ・その他、2015年10月18日にコンサートを企画準備中である。
- ・教師会：開始時間をこれまでの午後3時を4時からとする。終了は5時30分とする。

進め方を見直し、地区員会への議案整理は、調整・準備を必要とするものに絞り教師会で扱う。各教師の学びの分かち合いを工夫して実施したい。教師会担当の白崎牧師に学びの内容と担当者決定はお任せする。

### ◇余市北星高校への礼拝協力

5月 白崎智之牧師、6月 榮まり子牧師、9月 小栗昭夫牧師、10月 松浦義夫牧師、11月 阪口孝牧師、12月 小西陽祐牧師、

### ◇地区交換講壇の予定

- 余市教会と小樽教会 9月27日予定
  - 倶知安伝道所と聖十字教会 日程は未定
  - 岩内教会の平牧師が公園通教会へ 9月27日
  - 手宮教会榮まり子牧師が岩内教会へ 9月27日
  - 公園通教会の白崎智之牧師が手宮教会へ 9月27日
  - ・神愛園奉仕：毎月第3金曜日に実施。奉仕者を新規に募集中である。
  - ・奏楽者の学びの会：5月23日（土）午後1時～第一回を実施。案内と申込書を各教会へ配布。詳細は第一回に調整をすることになる予定。
  - ・信徒大会：6月7日（日）午後2時から4時。余市教会・幼稚園ホールにて。
  - ・北海教区性差別委員会の全面協力により実施する。
- テーマ：教会にみんなの居場所がありますか？ 楽しく学べる信徒大会（参加型の学び）



## ◇その他

・小樽公園通教会白崎智之牧師の就任式6月28日に予定。開始時間は午後3時。

## 苫小牧地区

伊藤周子（島松伝道所）

### 島松伝道所の会堂再生・牧師館建築はじまる

4月19日、起工式をし、いよいよ「会堂再生・牧師館建築」が始まりました。2004年の台風被害がきっかけとなり、2008年には礼拝堂部分だけですが、木のぬくもりのある素敵な空間に生まれ変わりました。暖かくなった礼拝堂での礼拝は豊かな時になり、地域の方々の利用も増えました。その後、教会の屋根の十字架の一部がはがれおちたり、牧師館の屋根が朽ちたりと、次の再生・建築を進める必要がありましたが、なかなか進められなかった数年間でした。



写真：教会こどもの部屋 まずは天井・壁・床の撤去から

その間、私たちはこの教会をどのように用いていくのか、教会の仲間と何度も何度も話し合いを重ねました。新しい標語は「弱さを元手に“ひだまり”はじめます」。誰でもありのままの自分でいられる場所づくり、それが私たちの大事にしたいことでした。ここに教会があることを地域の人にもっと知ってほしい、みんなで集まって、食べたり飲んだりしながら共に祈り、想いを分かち合うことを大切にしたい。地区では早速プロジェクトチームが結成されました。主となるのは島松伝道所ですが、助言や応援を下さっています。昨年の地区信徒大会では「島松の建築を知ろう」をテーマに島松の建築への思いに耳を傾け、再生・新築構想を地区で共有することができました。途中、太陽光発電や地熱利用、ウッドデッキの検討もしましたが、構造や費用の面で断念することもありました。牧師館を移転新築すること、会堂の付属部分（トイレや台所、多目的室等）を快適な場所にすることを盛り込んで、やっと建築がスタートしたのです。また、地区や教区から建築資金の給付や貸付を受け、支えられながら建築を決断し進めることができ



写真：教会こどもの部屋 順調に進む再生工事

ることを心から感謝します。9月完成予定です。どうぞお出かけ下さい。

昨年12月には全国に趣意書届けることができ募金が寄せられています。まだまだ、目標額には大きく達してはいませんが、新たな一步を踏み出せたことを喜び、感謝し祈り続けていきたいと思っています。

## 道南地区

松本紳一郎（函館教会）

道南地区諸教会の新年度の取り組みをご紹介します。

渡島福島教会では、5月31日（日）に教会創立60周年記念礼拝を行います。説教者には、相良展子牧師（前利別教会牧師）を迎えます。幼稚園の入園児が少ない中で、幼児をキリストに導くこと、また幼児を通して地域への福音宣教に用いていただくことを祈って、御言葉に仕えています。江藤政弘牧師夫妻の健康が守られていることに感謝しています。

八雲教会も今年度は、創立100周年を迎えます。10月18日（日）に記念礼拝を行う予定です。

利別教会は3月8日（日）に石橋隆広牧師・石橋香代子牧師の就任式を行いました。今年度の目標に、「みことばを宣べ伝える信徒になろう！」を掲げ、トラクト伝道を進めています。

函館千歳教会は、4月から8月までの代務者として、三浦きょうこ牧師を迎え、新年度をスタートしました。日曜日に聖餐を受けられない方のために4月から毎月第1水曜日午前10時30分より、聖餐礼拝を行うことにしました。

七飯教会は、三浦きょうこ牧師が就任5年目となり、総括の年と位置付けて、これまでを振り返りつつ、今後の展望を確認して行こうとしています。

江差伝道所は、引き続き藤崎裕之牧師が代務を務めます。イースター礼拝には18名の出席がありました。地元の教会員出席者は4～5名になりました。道南地区としても、藤崎牧師の健康が支えられることを祈りつつ、江差の伝道が安定して続けられるよう、各教会と



写真：利別教会、石橋隆広・石橋香代子牧師就任式

の交流や支援のあり方を考えています。

函館教会は、今年度久しぶりの取り組みとして、信徒伝道礼拝を年間2回行うことになりました。将来、牧師と共に、時には牧師に代わって、講壇を守る信徒となるための準備的訓練の意味も持っています。地域子どもたちに向けて月2回土曜日午後には開放している「ひいらぎ文庫」の利用者が増えて、10名を超える日も見られ、喜んでいます。

## 石狩空知地区 長井美歌(滝川二の坂伝道所)

地区としては新年度の歩みを始めたばかりですので、各教会・伝道所のこれからの歩みについて、お知らせします。

### ○滝川二の坂伝道所 (林和恵 報)

5月8日着任した教師と新しい歩みをはじめたところです。その石沢陽子さんの自己紹介が、この「教区通信」の新着任教師紹介のページに掲載されていますので、ぜひお読みください。

### ○美唄教会 (木村拓己 報)

木村拓己牧師を教区書記として送り出すこととなりました。地区を超えて諸教会・伝道所、センターの歩みに刺激を受けつつ、今年度宣教方針「挑戦」を掲げる美唄教会が地域にあって、社会にあって主の業を重ねていくことができますようお祈りください。

### ○栗山教会 (石川美千枝 報)

小さな群れです。今年も礼拝を感謝と喜びと希望を

持って守り続けたいと思います。また、分かち合いの礼拝では特に充実を求めて、工夫と祈りの挑戦をしようとしています。引き続き玄米酢の販売事業、栗山通信の発行で宣教活動献金の募金も続けます。教会の将来的展望についても、切なる祈りを持って語り合う場を持ちたいとの思いも出しています。

### ○岩見沢教会 (佐藤 報)

礼拝堂の椅子をすべて新しくし、テーブルも入れて、5月末から、みんなで輪になるような形で礼拝をしています。とは言っても、この原稿の執筆時は旧来のままですので、新たになった様子を写真で紹介できないのが残念です。

### ○江別教会 (竹井 報)

教会員の高齢化により礼拝出席が出来なくなる方や召天される方がいらっしゃる中で会員数が減っています。今年度は違いを受け入れ合いながらお互いの主にある絆を深めて行く認識と信仰を持つことが今の江別教会にとっての成長につながることです。また地域伝道と共に礼拝出席できない方たちや教会から遠ざかっている方たちの配慮をどう持つかが課題です。

### ○野幌教会 (朴 報)

宣教標語を「世にある希望の教会」——礼拝の喜び、分かち合う平和——とし、宣教目標を、以下のように定めて、新年度の活動を始めています。1. 信仰の「喜びを分かち合い伝える」教会形成、2. 教区・地区諸教会との連帯で仕える教会形成、3. 地域に開かれた共に生きる教会形成、4. キリスト教教育を通して平和を実現する人々を育成する教会形成。







# わたしのすきな もの、こと、風景



パンが好きだ。

食べるのも好き、こねるのも好き、「パン」という字も好き、音も好き。

食べるパンにはこだわりがある。無漂白の小麦粉を、天然酵母で発酵させたパン。中に入れるのは、塩をちょっぴりと、酵母を活かすために最低限必要な砂糖、そして少々のおリーブ油、それだけだ。酵母の名はボボ子。水と粉をやって育て、使う時は次回のために少し残し、また水と粉で増やしていく。「ボボ子様、あさっての晩出番です、ヨロシク」。混ぜながら話しかける。ボボ子とは三年半の付き合いだ。最初はちゃんづけだったのだが、少々世話を怠ってもちゃんと働いてくれる力強さと忠実さは、人間よりも——少なくともワタシよりもよっぽどすごい、と気づくにつれて、自然と「様」になってしまった。「ボボ子様、今回も素敵なパンが焼きました、ありがとうございます！」冷蔵庫をちょこっと開けて礼を言う。ペットや植物と同じ、生きているのだ。通じているに違いない。

こねる時は、讃美歌CDで穏やかに「胎教」する。でも、置戸教会に赴任した時は興奮した。「ボボ子様、来週は聖餐式です！聖餐のパンになるんですよ、主の食卓にデビューですよっ！！」ボボ子はちっとも動じなかったが。

焼き上がったパンは、オリーブ油に天然塩少々を混ぜたのに、ちゃんとひたして食べるのが一番。シンプルで、小麦の風味がじっくりと味わえる。干しいちじくやナッツも合う。お魚のマリネもすごく合う。ある日ふと気がついた。これってどれも、聖書に出てくる食材じゃないか。胃腸を患ってから、いわゆるご馳走っぽいものは食べられなくなったのだが、代わりに与えられていたのは、実はバイブルフードだったのだ。

「ぶどう酒は人の心を喜ばせ、

油は顔を輝かせ、パンは人の心を支える」(詩編 104:15)

——今日も私は、ボボ子パンそしていのちのパンに支えられて生きている。



ボボ子パン

# 北海道クリスチャンセンター



この季節じゃらん掲載中の

## センターの宿泊プラン

- ・スタンダードプラン
  - ・日曜～木曜 駐車場無料プラン
  - ・日曜～木曜 ドリンク代キャッシュバック
  - ・子育て応援 DVD プレイヤー付ママプラン
  - ・貸切風呂付きママプラン
  - ・出発ゆっくり、レイトチェックアウトプラン
  - ・お子様添い寝朝食無料ファミリープラン
- などお得なプランがネットから申し込めます。  
冬季期間は、創立記念プラン、年末年始プラン、  
年度末感謝プラン等の超格安プランなども  
ご用意しています。  
センターの宿泊をご利用ください！！

## 今年度の主な活動

- 5月～6月 春のセンター講座（4回）  
芦別祈りの家草刈り
- 7月 センター平和ツアー  
（長崎・五島列島の旅 3泊4日）
- 8月 三教区保養プログラム（教区主催）  
青少年夏期キャンプ（芦別祈りの家）  
戦後70年 平和のためのコンサート
- 9月 納骨堂利用者 永眠者記念礼拝
- 9月～10月 秋のセンター講座（4回）
- 10月 芦別祈りの家冬囲い
- 11月 創立記念礼拝
- 12月 クリスマスフェスタ  
センタークリスマス礼拝  
芦別祈りの家 クリスマス礼拝
- 2月 芦別祈りの家 雪下ろし
- 年間 センター聖歌隊隊員募集中  
（毎月曜日午後18:30より練習）

・チャペルの椅子・304号室のカーペット が新しくなりました。

北海道クリスチャンセンターは1951年に開設され、1984年に現在の建物が建設され、2010年度より法人名が日本基督教団芦別教会に変更しました。芦別祈りの家の建物管理はセンター運営委員会の下に管理委員会が位置づけられ建物の管理も、代務者と共にセンターが担っています。センターには、テナント（キリスト教書店・YWCA・ホレンコ・キリスト教学園・北海教区事務所・家庭福祉相談室）研修室、宿泊室があり、多くの方に利用されています。

研修室においては、合唱の練習や民間のご利用など、教区の諸委員会にとどまらず広く利用されています。小会議室からホールまで多種にわたる利用が可能です。ぜひご利用ください。宿泊室も上記に示したようにインターネットからも申し込みができ、多くのプランを用意しています。近年教会関係者のご利用が減少傾向にあります。札幌にお泊りの際にはぜひお泊りくださるようお願いいたします。

また、センターの活動の源はプログラムです。今年の主な活動を掲載しましたが、センター講座は春と秋に分け、キリスト教や平和について、また世界や日本の情勢や歴史など多岐にわたるテーマのもと学習会を開催しています。教会には別途ご案内していますが、火曜日の午後2時から90分の講座です。また遠方やご予定があり出席できなかった方のために当日の講演を録画したDVDもご用意していますので、有料（500円）にて貸し出しをしております。ぜひお申し出ください。その他、永眠者記念礼拝、創立記念礼拝やクリスマス礼拝も行っています。12月にはテナントと共にセンター全体でクリスマスをお祝いする、クリスマスフェスタ（クリスマスツリー点灯式、クリスマスコンサート参加自由 無料）を行っています。今年で4回目を迎えますが大変好評です。北海道クリスチャンセンターはクリスチャンとノンクリスチャンを結ぶ、活動の場所であり、また宣教の場所であり、平和を尊ぶを大切にする場所であり、旅人の癒しを与える場所です。これからも北海道クリスチャンセンターの活動のためにお祈りください。またこの尊い活動のために献金いただければ、幸いです。

集会案内

# 第35回 教会の手話研修会

※ 手話を学んでいない方も、ぜひご参加下さい。

「<sup>かみ</sup>神さまに<sup>つく</sup>創られた<sup>ちい</sup>小さな<sup>む</sup>群れ」

－ 少数言語 －

講 師：山本和幸牧師（東洋ローア・キリスト伝道教会 札幌伝道所）

ディヴァン・スクルマン宣教師（台湾基督長老教会）

日 時：2015 年 7 月 4 日（土） 10:00～14:30

場 所：北海道クリスチャンセンター 2F ホール（札幌市北区北 7 西 6）

会 費：1,000 円（昼食・資料代含む）

締 切：6 月 28 日（日） 厳守

申込先：Fax 011-893-8950（知野）



## 編集後記

雪解けが早く、春が駆け足でやってきて、クロッカス・水仙・ムスカリ・桜の花・ツツジ・ライラック・ボタン・藤の花・芍薬と花が咲いてきました。

鳥の声も、ウグイスからカッコーに。小鳥も元気に鳴いています。毎朝の犬の散歩は義務感もあるのですが、川を囲む公園を一周しながら季節の移り変わりに感謝しています。犬連れだから安心して出来る会話もあり、アナログの時代を懐かしく思い起こしています。何となく忙しく過ごす生活の中に、潤いの時が必要ですね。(M・K)

イースター、ペンテコステが終わり慌ただしく二ヶ月が過ぎ去ろうとしている。牧師の移動で無牧となった教会。新しく牧師を迎え歩み始めた教会。それぞれの歩みが始まりました。

まだ五月なのに20度を超える一ヶ月先取りした暑さ。どんどん季節の時計の針が早回りしている感じがする。こんな感じで雪も10月ぐらいから積もるのだろうか？ 恐ろしい！

いやもっと恐ろしいのは国を司る方々の動向である。この日本はどこに向かって進むだろうか？ 18歳からの投票権を持つ若い方々に本当に真剣に考えて欲しいものです。(T・K)



### 広報委員

三浦きょうこ(七飯教会・委員長)

亀岡 徹(島松伝道所)

木村拓己(美唄教会)

倉本真理(札幌富丘伝道所)

阪口 孝(倶知安伝道所)

高橋雅之(札幌北光教会)

難波真実(士別教会)

丸山澄夫(西札幌伝道所)

### 表紙の絵

枝元威郎(十二使徒教会)

### まんが

塩谷真澄(洞爺湖教会)

北海教区通信をお読みになったの  
ご意見ご感想などをお寄せください

koho-edit@hokkai-net.jp

(北海教区広報委員会メール)

北海教区公式サイト  
ご活用下さい

<http://www.hokkai-net.jp>



## 特別付録



「北海教区への皆様へ」 北海教区総会議長ペンテコステ書簡



アエカップ（アイヌ語で「消息」の意）：2014 年度教会報告



第 75 回北海教区定期総会における主な決議事項

# 北海教区にある諸教会のみなさまへ

2015年 聖霊降臨日  
北海教区総会議長 久世そらち

主の御名を讃美いたします。

聖霊によって主の教会が建てられたペンテコステの日のできごとを思い起こしつつ、北海教区にあって主の福音の宣教のみわざにあずかり共に労している諸教会・伝道所、関係学校、幼児施設、団体に連なるすべての方々に、ごあいさつを申し上げます。

4月29～30日、札幌北光教会礼拝堂において第75回北海教区総会が行われました。今年度は教区三役の改選期にあたり、議長には久世そらち(札幌北部)が選出されました。議長として4期目の任を負うことになります。副議長には原和人(手稲はこぶね・札幌富丘)、書記に木村拓己(美唄)が選任され、新しく任に当たることになりました。

常置委員選挙(半数改選)では、原和人常置委員が副議長となったため、その残任期間(1年)を担う補欠者の選挙とあわせて行われ、教師は西岡昌一郎(旭川六条)、藤吉求理子(道北クリスチャンセンター)および1年任期で清水和恵(新発寒)の計3名、信徒では佐久間光昭(置戸)、小林あずみ(千歳栄光)の2名が選出されました。

教区総会開会礼拝において高橋優子(酪農学園大)1名の准允式が行われました。教団の補教師として大学での教務教師の任にあたります。

また、新年度と共に教区内の教会には、衛藤満彦(春採)、指方信平・指方愛子(札幌北光)、白崎智之(小樽公園通)、井石彰(苫小牧弥生)の5名が新しく着任されました。また、5月に石沢陽子(滝川二の坂)、8月に柴田もゆる(函館千歳)それぞれの着任も決定しています。いっぽう、稚内教会、名寄教会、和寒伝道所、置戸教会、中標津伝道所、帯広教会、栗山教会、札幌元町教会、北広島教会、洞爺湖教会、江差伝道所では主任担任教師が不在です。これらの教会にあっても、信徒や関係教職、さらには各地区の努力により礼拝が継続して守られています。どうぞ祈りに覚え共にお支えください。

総会では、第四次長期宣教計画に基づく今年度の活動計画が可決されました。計画の表現は従来とは大きく異なるものとなり、具体的な課題を列挙するのではなく大きな方向性を提示する形となりましたが、教区でこれまで取り組んできた課題や活動は基本的に継続して担いながら、第四次長期宣教計画が掲げるミッション「礼拝の喜びに生きる神の民」をめざしていくこととなります。

こうした活動の基盤となる教区の財務状況の厳しさが大きな話題となりました。新年度の予算も可決されましたが、収支のバランスは非常に厳しい見通しです。従来、北海教区の財政を支えてきた教団の「教区活動連帯金」の制度が廃止されて「伝道資金」制度に移行した



ことにより収入が大幅に減ったうえ、教団への負担金が増額されました。いっぽう教区の活動のために諸教会が負っている教区分担金は、教区の財務担当者の努力によってここ数年かけて少しずつ減額し、諸教会の負担を減らしてきていますが、そこに多額の未収金が累積し教区財政を圧迫しています。教区の活動が維持され、とくに謝儀保障制度など困難な教会を支え続ける働きが守られるようお祈りください。

今総会で、西東京教区との宣教協約（第7期）が、西東京教区の真壁巖議長の臨席のもとで審議され、満場一致で可決されました。西東京教区は、その前身の東京教区西支区の時代から6期30年にわたり、道北地区興部伝道所への支援を通じて北海教区の宣教の働きを共にしてきています。この決議を受けて、5月24日からの西東京教区総会でも協約案が審議され、可決されれば協約の文書を取り交わすことになります。

総会ではまた、今日の時代の状況について多くの危惧と懸念が共有され、例年にないほど多くの特別決議が提案・可決されました。「安倍政権の進める国家中心、軍事力拡大の国づくりを阻止するための行動を推進する決議」「政府による沖縄・辺野古米軍新基地建設の強行に反対し、沖縄の民意の実現を求める運動を推進する決議」「日本にある全ての原子力発電所の建設・再稼働を中止し、全ての原子炉の廃炉をめざす行動を推進する決議」「アイヌ民族の権利を回復する運動の推進」、また議員提案として審議された「日本軍『慰安婦』問題の解決を目指して、歴史修正主義に抗し、過去の歴史責任に向き合うための運動を推進する件」「『日米防衛協力のための指針』改定に抗議し、その法制化を阻止するための運動推進決議」です。これらの決議は直接には教区としての活動の方針を定めるものですが、諸教会や連なる方々には、総会の意思があらわされたよびかけとして受けとめていただければと思います。

また「北海教区ハラスメント防止と問題解決に関するガイドライン」が制定されて従来の「セクシュアルハラスメント防止」「パワーハラスメント防止」の2種のガイドラインが一本化されました。

教区・地区の交わりから遠ざかっている札幌教会をめぐり、当該教会のみならず諸教会の方々が心痛み、祈っていますが、しばらく対話の機会を持つことができていません。解決にむけての糸口をなお祈り求めていかねばなりません。

今この時、北海教区また諸教会の内外の重く厳しい課題を数えあげればきりがありません。しかしそれは、教会もまたこの地に暮らす人々の課題を共に負っていることでもあります。さらにまた、この時代、この社会に向けて、主の福音を証していくゆえの苦難も重なっています。十字架の主の僕として今を歩む教会の歩みを生ける聖霊が支え導いてくださって、教会にいきいきとした息吹を吹き込み、私たちをひとつに結び、希望を新たにしてくださるよう、祈りをあわせましょう。

### <道北地区>

#### 稚内教会

2014年度の稚内教会は、4月の定期教会総会で「ほつとする教会を心に、ゆっくりと進んで行こう」を掲げて歩み出し、9月には63周年の創立記念礼拝を献げました。講師として道北クリスチャンセンター主事の藤吉求理子牧師を迎え、カナダ合同教会での様々な研鑽を通じてのメッセージを受け、会員各自の賜物を活かしての教会形成について考える時を持ちました。Webサイトからの礼拝ライブと録画の配信も2年目となり、遠方会員ほかの信仰生活を支えています。利尻昆布バザーもコツコツと続けています。この地域独自の産物である利尻昆布が日本各地の教会で優れた食材として喜ばれるだけでなく、最北の小規模教会の取り組みが宣教の業として認知され始めました。購買して下さる教会の方々と私たちが相互に力を受け合う恵みに与っています。同時にこんぶ作業を通じて教会内部の交わりも豊かになって来ました。初冬には献堂後40年を経て劣化が著しい会堂屋根の補修を実施。名寄伝道圏のご厚意により、100万円の無利子借入によって無事行えたことにも心から感謝です。

2015年3月を持って森牧師が転任となります。北海教区の人事部委員会に相談をしながら、牧師招聘の備えを始めています。2015年度、会員22名が賜物を精一杯に捧げつつ信仰の旅路を歩んで行く覚悟です。最北教会がその使命を果たせますようお祈り下さい。

#### 名寄教会

今年度は8月に代務牧師のロバート・ウイットマーさんをカナダ本国活動に送り出し、藤吉求理子道北センター主事と教会に集う一人一人が協力して活動を行いました。主任牧師がいないため、様々な方法で礼拝を行い、苦労も多かったですが、受けた恵みも大きく感謝でいっぱいです。道外からの協力も含め10名の方に礼拝応援をしていただきました。また、分かち合い、インタビュー、説教集朗読、讃美礼拝などを行い教会員それぞれの賜物が活かされました。美深の小学校の学校祭に出かけたり、好きな食材を持ち寄り鍋を囲む「よなべの会」をしたりと、小規模教会ならではのアットホームな行事も楽しかったです。

ここ数年大学生や高校生が礼拝に定期的に出席してくれるようになり、インタビュー礼拝で自分の信仰について語り、こどものお話や献金の担当などでもして下さり、教会に活気を与えてくれています。昨年80代で洗礼を受けられた方を、8月に神様の元へ送りさびしくなりましたが、葬儀に町の方がたくさん集まり、地域でキリスト教の信仰を証する機会となりました。

2015年8月にロバート・ウイットマーさんがカナダから帰国し代務の働きに戻ります。代務体制が長く

なっていますので、主任牧師の招聘を心から待ち望み、祈っています。また礼拝に出席できなくなる高齢の方が増えており、冬期も暖かく礼拝できるために改築を考えています。

#### 興部伝道所

##### 1. 2014年度の主な働き

2014年度は「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」というマルコ福音書の御言葉を年間主題聖句として掲げ、伝道活動が厳しい地域状況の中において、一人でも多くの人を教会に招く業を心がけてきました。その中で、地域にお住まいの方がお一人、初めて礼拝に出席してそのまま続けてくださるようになりました。また、アドベントの期間は子どもたちがたくさん集まったこともあり、平均で20名を超える礼拝をささげることができました。これは教会員にとっても大きな喜びであり、主の導きに感謝します。

##### 2. 当面する課題

①教会員の働き 現在、教会員の多くの方が、ご病気になったり、家族の看護のため出会ったり、仕事の多忙さから、礼拝に出席するのが精いっぱい、教会での活動や地区・教区の働きに加わる事ができない状況にあります。たとえ、直接的な働きに加われなくても、祈りに覚えていただくことが課題です。②財政状況 教会財政については、だんだんと厳しくなっています。少しでも収支を増やそうと年頭修養会などでのバザーの出店も検討したのですが、上述したように身動きの取れない人が多く、具体的な行動には至っていません。今後も大きな課題となります。

#### 士別教会

士別教会を覚え、お祈り、お支えくださり本当にありがとうございます。士別教会の現住陪餐会員は現在14名、不在会員と合わせて合計31名です。主日礼拝の平均出席者数は12名です。

財政的にはとても厳しい状態ですが、召天者の息子さんたちが時折礼拝に出席されたり、学生の頃から交流のある方が生活に変化(就職のことなど)があった時に報告に来てくださったり、「日曜日に礼拝を捧げている」ということが本当に恵みで、教会員以外の方にとっても慰めの場、拠り所となっていることを特に感じる1年でした。教会学校の子どもたちは、イースターやクリスマス礼拝、地区や教区の行事などお知らせすると顔を出してくれて一緒に楽しい時間を過ごすことができました。また、教会の目の前に公園がありますので、そこで遊んでいる子どもたちとの交流もあり教会が地域に広がっていることを感じています。

## 和寒伝道所

この一年も、月一度のペースで礼拝が継続されたことは感謝であった。会員とは別に、町内から近隣の人たちが少しずつ礼拝に出席してくださるようになったのは、大きな恵みであった。9月には「感謝バーベキュー」を行ない、地域の方々に感謝の気持ちを表すことができた。クリスマスには、ことしも和寒町内の方々が出席してくださり、道北地区内の教会からの協力を得て、祝福されたひとときを過ごすことができた。

毎回の礼拝に、旭川六条教会壮年会が組織的に礼拝応援を続けてくださっている。特に冬場の出席者が減少しがちな時には、大きな支えとなっており、とても心強い。各教会・伝道所から、年に一度でも、それぞれ「和寒デー」を設けて礼拝応援をしてくださることを歓迎する。

来る5月31日には、伝道所開設60周年記念感謝礼拝とお祝い会を予定している。多くの方々のご出席をお待ちしている。

## 旭川六条教会

毎回の公同礼拝が、主の祝福が現わされる礼拝となるように心を注いでいる。また新来者・求道者のための配慮とフォローアップのため組織的な取り組みに力を入れた。

6月の特別伝道公同礼拝は、昨年度につづき五味一牧師を講師にお迎えした。礼拝式後の信徒研修会では、北海教区における旭川六条教会の宣教の展望について五味牧師から講演、西岡牧師から発題を受けた。五味牧師は、1980年代の興部伝道所の会堂建築と旧東京教区西支区との宣教協力に至る歴史を事例に、互いが孤立せず、各個教会を超えた地区・教区の関係(伝道圏伝道)を構築し、地方小規模教会にある信徒たちの負担を共有することによる信頼関係作りを課題として挙げられた。

9月には同志社大学から室井明日香神学生(大学院1年)を夏期伝道師として招き、礼拝はもちろん、入門講座、受洗・入会準備会、バザー、道北地区活動など、多岐にわたる教会の日常活動に参加していただいた。教会として地区活動への積極的参加はもちろん、教派を超えて旭川市内教会による3・11のつどいも会場教会となって支えることができた。

## 旭川豊岡教会

「教会でホッとしませんか？」という年度主題を、2013年度に引き続いて掲げました。それは教会が、旭川豊岡教会こそが、信仰を持って生きる人たちにとって「ホッとできる居場所」となることを願ってのことでした。

では、ホッとするとは、どういうことなのでしょう？もちろん、第一義的には、「物理的、時間的、精神的に余裕が持てること」です。しかし同時に、「活動する中で気持ちが通じ合うこと」も信仰生活、教会生活において大切な聖書的視点なのではないでしょうか。

2014年度には、受洗者1名と転入者1名が与えられました。大きな喜びです。また、子どもたちとそのご家族が少しずつ教会に繋がりはじめ、教会に新しい顔

ぶれが見え始めています。11月から子ども礼拝を独立させるなど、特に、子どもたちを大切にしたいという祈りをもって歩みました。

しかし、その一方で、召天された方、高齢化などにより礼拝出席が次第に困難になる方たちがいらっしやいます。教会として、さらに組織的な牧会的配慮が必要となるでしょう。教会員が全体的に高齢化する中、奉仕者の固定化が課題として指摘されています。年間行事の組み方や持ち方を見直すことも必要です。教会会計も楽観視できません。教会会計を支えるということは、教会員であることの本質に繋がるはずですよ。

## 旭川星光伝道所

本年も近隣市内の教会の交わりに支えられ、連帯の中で教会の働きが果たされ感謝します。地区集会担当が旭川伝道圏で参加し、奉仕した。社会学習を連続する中、8.15集会に会場提供できた。例年のように甘納豆を中心に旭川六条教会と旭川豊岡教会に出店し、よい交わりが果たされた。旭川豊岡教会とCS合同キャンプと冬遊びをし、旭川六条教会のもちつきに招かれ、ひかりのこどもはよい体験をした。

教会はイブ礼拝に「バツハをうたう会」のコンサートを数年継続、練習は会堂を用いています。三浦綾子読書会も継続する中近隣の方がつながってきています。第5週のある月に礼拝後全体清掃し、各々の能力を発揮し、交流の場となっています。礼拝の学びは葬儀の学びを加えています。礼拝式順を新しくし、より良いものにと取り組みました。11才の男子に授洗し、共に礼拝を守っていた求道者が召天した。

本年度は礼拝の学びに牧師招聘の取り組みと教会を建て上げるための学びを加えます。2017年に60周年を迎えるので、続いて取り組みます。毎年、こころの友200部の応援を受け配布を継続、教会案内イベントのチラシを加えて行っています。子どもの人数が増え、子ども礼拝の充実と子どもの成長を連帯の中で見守っていきます。

## 美馬牛福音伝道所

美馬牛の地に伝道所が開設され68年。日本基督教団美馬牛福音伝道所として60年。新会堂が献堂して6年目を迎え、教区長期借入金(520万)の返済も12月26日を以て完納致しました。感謝しつつ報告させていただきます。

\*主な活動 5月26日道北リングの会 教会内の掃除、花壇の花植え、茶話会 6月4日カナダ合同教会ロンドン教区との交流会 7日美馬牛教会で結婚式 27日道北リングの会 美馬牛教会で「死と葬儀」について学びと交流会 講師西岡昌一郎牧師(旭川六条教会) 7月20日道北デー講壇交換 説教者藤吉求理子師(道北センター主事) 8月5～6日厚別キリスト教会キャンプ 10日芦別祈りの家でキャンプ中の全道青少年との合同礼拝 25名 説教者知念優幸(沖縄キリスト教学院大学学生) 24日 美馬牛教会創立60周年記念旭川伝道圏合同礼拝 説教者 久世そらち牧師(教区総会議長) 祝辞 日向恭司牧師(教区幹事) 67名 9月29日 ウェスレアン・ホーリネス教団北海教区の教区会議



- 一泊 10月19日稚内教会との講壇交換礼拝 説教者森言一郎牧師 12月14日教会クリスマス礼拝と祝会、フルート&独唱其の他
- \*説教応援 6月15日木村晃一郎牧師 7月27日川崎敏一牧師 9月28日韓守賢牧師(3回)
- \*旭川伝道圏協力応援礼拝 9月14日室井明日香神学生、西岡昌一郎牧師(旭川六条教会) 11月16日韓守賢牧師(旭川豊岡教会) 2月22日 西岡昌一郎牧師(旭川六条教会)
- \*新来者、求道者の増加
- \*どんなに小さな集会(宿泊含む)をも受け入れる事ができる教会でありたい。

## 留萌宮園伝道所

宣教の拠点を留萌に置いて29年目を迎えます。

今年度は昨年同様に目標聖句をローマ信徒への手紙5章5節を用いて「希望をもって生きる」をテーマに共に祈りつつ歩んだ一年でした。毎礼拝の中で“主の招きの食事”や第五日曜日の分かち合い礼拝を今年も継続しました。一人ひとりのその日の気分と体調、一週間で恵みと感じたこと、みんなに祈ってもらいたい課題などを語りあい、祈りによって連なっていることを実感できました。安心して自分の事を語り、傾聴しあえる交わりが深められた事は感謝です。分かち合い礼拝ではインタビューを取り入れる試みをしました。

今年も教団伝道部を通して旭川六条教会と勝田教会から「こころの友」100部を応援頂き、近隣に毎月伝道礼拝やクリスマス等の案内と共に配布し、地道に宣教活動を行ないました。道北地区の牧師の協力を得て、伝道礼拝を行うことも出来ました。

毎日遊びに来る子どもたちも礼拝に8名ほどが定着し、静かに参加しています。子どもにも祈りの交わりのセッティングや食事前の祈りを担当してもらっています。礼拝司会など、より担当部分を増やして行けたらと考えています。クリスマスなどの祝会には積極的にクイズや歌を披露し、盛り上げてくれました。

教区アイヌ民族情報センターが当伝道所に移り11年を経ました。アイヌ民族の権利回復の働きと主事の働きを覚え祈っています。

数年、礼拝を共に守った友が転居されたり、ご病気やご高齢で来られなくなる方もおられたりでさみしいですが、ひとりの若者の転入があり、一同、喜びました。会計運営も厳しいですが教会員一同、より努力を重ねています。どうぞ覚えてお祈り下さい。

## <道 東 地 区>

### 北見望ヶ丘教会

北見望ヶ丘教会の2014年度の歩みは、北海教区の「第四次長期宣教計画」に基づいて進められました。年間聖句として「まことの礼拝をする者たちが、霊と真理をもって父を礼拝する時が来る。今がその時である」(ヨハネ4:23)との御言葉を掲げ、①慰めの礼拝共同体を形成すること、②分かち合いの礼拝共同体を形成すること、③派遣される礼拝共同体を形成すること、以上の三つを目標として定めました。以下、幾つかのトピックを取り上げます。

1. 牧師が置戸教会奉仕の時には「朗読説教礼拝」に

- よって主日礼拝を守りました。また、北見・置戸の合同礼拝が行われました。
2. 当教会の基礎を据えられた田村喜代治牧師が逝去されました(4/4)。
  3. 教会学校サマーキャンプが行われまし(8/2-3)。
  4. 北見キリスト教連合会(超教派11教会加盟)の主催で「常紋トンネル慰霊祭」が行われました(9/15)。
  5. 道北センターより藤吉求理子さん、稲益久仁子さんをお招きし、講演会「カナダの小さな教会の宣教」が行われました(10/26)。
  6. 道東地区婦人会研修会に参加しました(11/3)。
  7. 地域に開かれたクリスマス・キャンドルサーヴィスを行いました(12/24)。
  8. 道東地区サンデーを実施しました(2/1)。牧師が二つの教会の責任を負っている中で、信徒による教会形成の重要性、また豊かさに気付かされる年度でした。

### 置戸教会

宣教主事体制も、早いもので三年目を終えました。代務者である北見望ヶ丘教会の秋山千四郎牧師に、隔月で説教と聖餐式をしていただき、あとは宣教主事による月2〜3回の説教と、役員奨励、信徒奨励、説教応援、テープ説教などで礼拝を守っています。

今年度も、札幌北光教会と琴似中央通教会、そして北見望ヶ丘教会との宣教協力関係を継続させていただき、礼拝交流を持ちました。北光教会から若者たちが来てくれたこと、琴似中央通教会の教会員に奨励や奏楽の奉仕をいただいたことは、小さな群れに大きな力を与えてくれました。宣教協力のおかげでオルガンコンサートもまた開催することができ、十数名の一般町民を含む70余名で礼拝堂がいっぱいになりました。その後3名のご婦人が2度礼拝に来てくださったのも大きな喜びです。

また、北見ブロックの交流礼拝には、北見望ヶ丘教会から20名近い方々にいらしていただき、楽しい交わりの時が持てました。11月に高齢の信徒を天に見送ったのは寂しい出来事でしたが、ご遺族との絆を深めることができました。厳しい財政状況にも、月定献金および外部献金の増額で備えが与えられました。「求めよう、そうすれば与えられる。捧げよう、さらに与えられる」という今年度の宣教標語が豊かに祝福され、感謝があふれます。宣教主事は多方面からの応援のもと、教師検定試験(Cコース)受験の一年目を終えることができました。

### 釧路教会

釧路市にある釧路教会と春採教会は地方にある教会として共に幼稚園を運営し祈りを共有して歩んでおります。特に昨年は釧路教会の墓地が広いので、春採教会と共有化し、新装成って両教会員は大いに感謝をもって納骨が進んでおります。

さらに今後もこの関係を確かなものとするために、宣教協約を交わして、牧師が替わってもこの宣教協約は変わらないことをたがいに約束を交わしました。今後は宣教協約だけではなく共同牧会を視野に入れて、今は学園の異なる幼稚園も同じ学園とし、教会、幼稚園共に適材適所に人材交流を行い、地方の教会が豊か

になるよう祈りを共にしております。

教会としては高齢化が進み、新装成った墓地に毎年何名の遺骨を納骨しています。しかも長い間教会の中心として奉仕し支えてきた人達が召されて行き、かつての釧路教会から見ると、人材的にも経済的にも半分以下になっています。3階建の会堂の2階と3階は全く使用しなくなっており、経費だけが大変です。幸いに大きな借金は無くなり、教区負担金も今年度より献げる事が出来るようになりました。

## **春採教会**

まず、「地域伝道の地盤をより堅固に」と祈りつつ進めている湖畔幼稚園の設置者変更は、今も北海道キリスト教学園の承認を得られていない。今後も粘り強く折衝し、釧路キリスト教学園への設置者変更を成し遂げたい。

7月6日、臨時教会総会で衛藤満彦牧師を2015年度からの春採教会牧師、湖畔幼稚園園長として招聘することを全会一致で決議。9月27日に来釧して頂き、役員会との協議会、28日の主日には、礼拝説教の御奉仕と愛餐会の恵みを共有することが出来た。

クリスマス礼拝では、1名の転会者が与えられた。

9月15日、釧路、中標津、春採の兄弟姉妹が集い、釧路ブロック交流会が行われた。しかし、その直後、稲葉信一牧師が病に倒れ、2月27日に召されたことは思いがけない痛みとなった。告別式を田村毅朗牧師が担ったことは、中標津伝道所との深い繋がりを覚えることになった。今後も釧路ブロック三教会が、主に在って歩んでいきたい。

今年度も教会学校に力を注いだ。礼拝、分級の他、夏のキャンプ、秋の「収穫感謝礼拝&豚汁パーティー」、クリスマス会を行うことができた。

湖畔幼稚園も、一年間の保育を終えることが出来た。教職員の丁寧な保育により、保護者、近隣の皆さんから厚い信頼を頂いている。

新年度は、衛藤満彦牧師を中心に教会形成がなされる。主が春採教会に遣わして下さった衛藤満彦牧師と共に、新年度も祈りつつ、御国の完成のために励んでいきたい。

## **中標津伝道所**

勝亦一江牧師が3月末で退任され、4月2日より福井神明教会より稲葉信一牧師を迎え、中標津伝道所の新しい歩みとなりました。6月21日には北海教区の久世そらち教区議長の司式のもと、会堂一杯に参加された皆さんで稲葉信一牧師の就任を祝うことが出来、感謝でした。9月15日には、中標津森林公園で釧路ブロック（釧路、春採、中標津）の交流会が行われ、礼拝と共に子どもから大人までの参加でバーベキューとゲームを楽しみ、稲葉信一牧師の祈りで心もお腹もいっぱい、満たされた1日でした。

11月3日に予定されていた道東地区婦人修養会に（中標津担当）稲葉信一牧師が講師でありましたが、急に体調を崩され、中標津伝道所の2名の婦人による「証」となり、各教会婦人の皆様の意見交換もあり、豊かな修養会となりました。

中標津伝道所は、創立25周年に向けて「教会史」の編纂を行って参りました。この資料の整理や頂いた

原稿を通して改めて多くの皆様に支えられ歩んだ道程だった事に感謝しています。次年度も継続し形にしたいと思っております。又、「ゴードチーズ」の販売を創立当時から行っております。修養会や行事の際に皆様にご購入頂きありがとうございます。今後もこの働きは続けて行きたいと思っております。

稲葉牧師は10月頃より入院、治療を受けながら牧会されていましたが、2月27日に天に召され、3月1日前夜式（祈り会）、3月2日告別式では春採教会の田村毅朗牧師の司式で、稲葉信一牧師を皆で天の国に見送ることが出来ました。北海教区にある各教会の皆様にも多くのお祈りを頂き感謝致します。主と共に新年度に向かって、教会員が心一つにして歩みたいと思っております。

## **帯広教会**

共に企画、共に働き、共に参加する教会活動をめざしている。イースター祝い隊（10名）；受難週（棕櫚の主日）には礼拝の中で、「受難の時」と題する会衆参加型の劇を取り入れた礼拝を企画し、実施した。クリスマス待ち望み隊（10名）；11月30日からの3週間、礼拝後に「楽しく歌おうクリスマス」歌を楽しみ、「リースづくり」を企画実施。クリスマスパーティーには「子どもの会」「勉強をする会」（毎週火曜日：教会のある校区の小学生10名）の子どもたち、保護者も参加し、子どもたちはハンドベル演奏を披露し、交わりを持った。共同訪問；（牧師と教会員）で施設等にいる教会員を訪問し、祈りの時を持った（年3回）。それぞれ、スタッフを公募して、企画・実施。教会を支え、共に働くという楽しさを与えられた。とかちエテケカンパの会への取り組み、礼拝後に「アイヌ民族学習会」を今年度も継続した。東日本大震災救援募金を3月まで呼びかけ、被災された方を覚えて祈り続けることができた。とかちキリスト者平和の会主催の平和集会（8・15）、思想と信教の自由の集い（2・11）の参加できたことは感謝であった。

帯広教会も少子・高齢化である。2014年の年題は「10年後の帯広教会存続のために祈り宣教しよう」。すべての世代が大切にされ、「一人ひとりがかけがえない存在」として教会運営（活動）をしていきたいと願っている。2015年は無牧師期間を覚悟している。一人ひとりの力を発揮して「祈りをもってはじめよう」希望をもって喜び、苦難を耐え忍び、たゆまず祈りなさい（ローマ12：12）を心に高く掲げ歩んでいきたいと思う。

## **新得教会**

昨年に引き続き、マタイ福音書11章29節を年間聖句に掲げ、主の轡を負い、主に学び、御国の安らぎを求めて歩んできました。第二主日の礼拝後の「聖書に親しむ会」では、使徒信条にそって学び、第三主日の「さんびの集い」では、新旧様々な讃美に親しんでいます。家庭集会や、個別の学びなど、生活の中での御言葉の学びや分かちあいの機会も増えてきました。教会の礎となるべき、御言葉に基づく信仰が、しっかりと据えられてきているのを感じます。

こどもゴスペル・イッピーを初めて2年目となりました。地域の子どもたちが毎週教会に集い、賛美を献げ、聖書を

学んでいます。保護者の方々も協力的で、町のイベントへ出演したり、地域に福音を伝える大切な機会となっています。クリスマスには一人の保護者が受洗、喜びを分かち合いました。宣教の重要な柱となりつつあります。

また、新得教会から地区委員長と地区委員2名を選出し、2015 年度に開催を控えた教区の年頭修養会の事務局の一端をも担うことになりました。教会内においても働き手が限られる中、大変なことではありますが、それ以上に、地区の各教会との連帯の意識を強め、キリストの一つの体なる恵みを深く味わう、尊い機会となっているのを感じます。

## ＜石 狩 空 知 地 区＞

### 滝川二の坂伝道所

2014 年イースターに、今までも礼拝を共に守り様々な働きをしていた友2名が、それぞれ堅信礼、洗礼式を受け、主によって新たに歩む決意の時を皆で持つことができました。これを機会にキリスト教入門の読書会を定期開催し、自分の信仰について互いに聴きあう時が持てたことは大きな感謝でした。

また、昨年に引き続き、礼拝を大切に守りつつ地域とのつながりを求めてきました。毎月応援教会から送っていただく「こころの友」と教会案内の地域への配布も継続して行うことができました。大きな反応はありませんが、ささやかな地域との接点として大切にしてきました。

また、本年も全国の教会、個人の方々に支えていただき感謝です。この方々の祈りと支えが年を追うごとに大きくなっている現状です。その他、「部落解放祈りの日」や「3.11 東日本大震災を心にとめ祈る礼拝」をまもることや、「原子力学習会」の継続、人権や平和を守るための祈りや活動への献金も捧げることができました。また、2014 年度末をもって中田正道、長井美歌両教師が辞任することとなり、2015 年度より新たに石沢陽子教師を迎えます。今年もまた、共に礼拝を守り続けられるように、一人ひとり主の御旨に従って働き続けたいと願っています。

### 美唄教会

この1年間で教会員やご家族、教会に連なる方々が天に召され、老齢のために親族の元へと美唄を離れた教会員もおり、「教会は弱さや悲しみを抱えた方々とのように歩いていくか」を考えさせられた。一方牧師や教会員家族に新たな命が誕生したことや、転入会者が与えられたことは大きな喜びである。主な行事は、教会学校イースターエッグ作り、滝川二の坂伝道所との合同礼拝、夏期研修旅行、アルテピアッツァ美唄において「石川文洋平和写真展」開催、教会学校たこやきパーティー、二風谷訪問、教会学校クッキー・アイスキャンドル作り、おもちを食べる会、お茶会など。

また、「葬儀」「夏の研修旅行報告」「礼拝」をテーマに、今年も3回の信徒学習会をおこなった。2月には信徒協議会を開き、週報や礼拝のありかた、礼拝後の交流などについて話し合い、少しずつ改革に取り組んでいる。

夏の研修旅行は「道北方面の旅」で和寒伝道所や士別教会を訪問することができた。道北センターに宿泊

して、藤吉求理子先生によるカナダ合同教会の学びと「10年後の美唄教会をイメージする」という課題を与えられた。今後は幼稚園児とその保護者や教会学校と礼拝をどうつなげていくことができるかが課題である。

### 岩見沢教会

○「ビジョンを語る会」を行い、教会堂の将来像について語り合いました。その語り合った内容を具体化する形で、礼拝堂の椅子を更新し、配置を変更することにしました。

○活動の例として、市民や近隣の方達と接点を持つ企画のうち、おもなもののみを次に記します。◇「教会バザー」には、今年度も、栗山教会と岩家連の「と・わーく」が来店すると同時に、「と・わーく」のメンバーがバザー全体の販売も手伝ってくれました(10月)。

◇複数の市民団体・労働団体と共催で「2014 国際平和南空知集会」[講演「沖縄から見た『集団的自衛権』」講師：屋良朝博さん(元沖縄タイムス社論説委員)](10月)を開催しました。

◇石狩空知地区との共催で、講演会[テーマ「沖縄からの報告 そして、問いかけ～沖縄の基地は？…辺野古は、高江は？～」講師：知念優幸さん(チーム琉球メンバー)]を開催しました(8月 出席：岩見沢教会17、地区諸教会8、市民22、講師1、計48名)。◇毎月第2土曜日に、「映画を観る会」を開催してきました。自分の居場所が見つかり難い人々にとって、少しでも「居やすい場所」になればと願っています。

### 栗山教会

○本年度は新たな代務者として森宏士牧師をお迎えし、教会二階の牧師館に燈が灯りました。体調をくずされておられるお連れ合いの森起美恵牧師を看取りながらの大変な中、教会員一人一人を心にかけて積極的にかかわってくださる姿勢にただ感謝です。月3回が森宏士牧師説教による礼拝、月1回「分かち合いの礼拝」で進めてきました。また年3回「信徒の奨励」礼拝を行うことが出来たことも感謝です。

○毎年8月第4週の日曜は島松伝道所、千歳栄光教会、栗山教会の3教会合同礼拝をとの取組が本年度も8月31日(日)高陽牧場(千歳市)を会場として礼拝と交わりの時、森牧師が説教を担当されこどもたちにもわかりやすい説教で好評でした。開催25年目を迎えたこの礼拝も本当に祝されたものとなりました。会場を提供して下さった高陽さんご一家の熱い信仰にも感激しました。

○教会報「栗山通信」の編集も時間をかけながらも、発行することが出来感謝でした。この作業を通して、道内外のお会いしたこともない方々、また日本各地の大小さまざまな教会の方々からの祈りと支えをいただくことを目の当たりにする素晴らしい経験を与えられ感謝です。

○会堂建築返済金への取り組みとしては玄米酢の販売を継続、また恒例にさせていただいている岩見沢教会、千歳栄光教会へのバザーへの参加を今年もさせていただきます。



○会堂建築返済見通しが十分にたち、代務体制も 7 年目に入ろうとしている中、栗山教会の今後についても祈りと協議をしています。引き続き祈りのうちにお覚えください。

### 江別教会

イエス様が言われました。「あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける」(使徒言行録 1:8)。この御言葉に励まされる一年でした。

今年度は 5 人の牧師(西海祥子・馨牧師、井上薫牧師、進藤達也牧師、手束正昭牧師)を主が遣わして下さり、伝道集会、役員研修会を行い、聖霊様の臨在に満ちる恵みの時を与えられました。特に西海牧師には三笠にあるグロリア山荘にて江別教会有志での断食聖会を開催し、御言葉と祈りの大切さについてご指導をいただきました。参加された方たちはイエス様の十字架による罪の赦しと主の復活により永遠の命を受けた確信と喜びが与えられ、魂の救いを心から願う信仰が養われました。この一年振り返ると何か具体的な事をしたわけではありませんが、イエス様が来られる日が近づいている中、ただひたすらに聖霊のお力を受けるようにと祈り待つ 1 年の歩みでした。江別の町には 12 万人の主の愛する民がいます。そのうちのまず 400 人を救って下さい、この町に神の国が教会を通して広げられていきますように、主の憐れんでください、と祈り続けて行きます。

2014 年度救われた方は幼児洗礼者を含めて 4 名の家族の方でした。天に召された方は 3 名の兄弟姉妹でした。そのお一人お一人に主が生きて働いておられることを見させられました。この一年も北海道諸教会の皆様と共に主のためにお仕えすることが許され感謝するものです。

### 野幌教会

2014 年度は、朴美愛牧師を主任担任牧師としてお迎えして 6 月 15 日(日)に就任式が行われて、教会の新たな歩みが始まりました。7 月から、しばらく休んでいた「夕礼拝」と「聖書と祈りの会」を再会し定着することになりました。新しいプログラムとしては、年 2 回のキリスト教入門(6 回講座)を始めました。キリスト教入門の最初の参加者は水野七星さんで、昨年のクリスマスの時に受洗をしました。第 2 回の講座を通して洗礼者と信仰告白者が与えられた事は教会の大きな喜びであります。

野幌教会は高齢者が多い教会ですが、皆がそれぞれ賜物を生かして元気よく奉仕し、教会を支えています。感謝です。しかし、教会の 10 年後を考えると次世代への信仰の継承は真剣に考えなければならない課題になっています。

2015 年度は、宣教標語を『世にある希望の教会』一礼拝の喜び、分かち合う平和とし、宣教目標を 1. 信仰の「喜びを分かち合い伝える」教会形成、2. 教区・地区諸教会との連帯で仕える教会形成、3. 地域に開かれた共に生きる教会形成、4. キリスト教教育を通して平和を実現する人々の育成する教会形成と決めました。そして、野幌キリスト教学園(のっぽろ幼稚園、児童会)と連携して、教会学校のあり方を新たに毎月 1 回、土曜日の午後に再活動を計画して

います。様々な宣教の場が与えられていることを感謝します。

## <札幌地区>

### 札幌北光教会

2014 年度は、13 年間牧会をしてくださった後宮敬爾牧師との別れの寂しさ、新しい牧者との出会いの喜びを与えられました。朝・夕礼拝共に礼拝出席が増加傾向にあり、夕礼拝前に食事を共にする夕礼拝前食堂も継続したプログラムとなっています。祈りの集いも分かち合いに重点を置いてプログラムを進めており、ナイトプログラムは自主運営という形式で行っていますが、こちらも多くの参加者と学び、分かち合いの素晴らしい時を過ごしています。

今年度も置戸教会、北見望ヶ丘教会、琴似中央通教会と置戸宣教協力を行いました。青年会の参加者もあり、幅を広げながら交わりと学びを深めています。また、同じく代務体制下にある札幌元町教会、笠田牧師が体調を崩された琴似中央通教会にも月に一度説教者を派遣し、支え合いの機会を与えられました。これらの宣教協力の営みによって、教会の目が外に向けられる機会となりました。

2014 年度は洗礼者が 12 名、転入会者が 6 名、合計 18 名の仲間を加えられ、10 名の兄弟姉妹を神様の元に送りました。財政的には、相変わらず教会債の返済によって厳しさがあります。ますます力を合わせてこの難局に当たっていきたくと考えています。「礼拝を豊かにする」という目標に向かって、代務体制の中でも教会員一人一人の奉仕と支えがあり、力と祈りを合わせながら歩んだ事により、たくさんの気づきや恵みを与えられた 1 年となりました。

### 札幌中央教会

#### 1. 2014 年度の主な動き

教会活動の基本は、「真の礼拝を捧げる教会」であり、この方針を八つの委員会が支え、月例の会を基盤に積極的に活動し、礼拝及び諸行事を支えた。今年度 3 名の教会員が天に召されたが、洗礼式によって 3 名の教会員が新たに群れに加えられたことは、主の奇しき恵みの御業であった。

今年度も協力牧師として、土橋修牧師、三枝禮三牧師のご支援を頂き礼拝説教他、祈りの内にお支え頂いた。週の半ばの聖書を学び祈る会は年間 40 余回を数え、善き学びと祈りの時となっている。教会の礼拝を支える為に、従来、五つの当番組が交代で奉仕している。今年度は、初めて当番組毎の会合を開き、提言をまとめ、組リーダー会、役員会を経て、共通の活動指針を掲げることが出来た。

#### 2. 当面する大きな課題

様々な事情で、礼拝に出席できない教会員が増える傾向にある。これらの方々には如何にして御言葉を届けるかが課題である。

#### 3. 活動方針

2015 年度は、「互いに受け入れ合う教会」の形成を目指して活動する。年々高齢の教会員の割合が高まるが、兄弟姉妹が互いに受け入れ合い、仕え合って、信仰を守り抜く歩みを、実践したい。また、礼拝に

出席できない教会員にも、御言葉を届ける手段を増やし、今年度は、問安の機会を増やしたい。録音テープや、ホームページなどを活用する。

## 西札幌伝道所

JR で、札幌から桑園へ向かう途中、高層マンションが建ち並んでおりますが、教会の近くでもマンションが多く、その陰になって西札幌伝道所がひっそり建っているような印象を受けます。そのような中で、福音宣教を地域に広めるために、どこにその糸口を見いだすのか、常に頭の中は空回りしているような一年でした。しかし、今は空回りであったとしても、近い将来には（教区の長期宣教計画の前半において）導いてくださる、と言う希望を持って礼拝をささげております。

その礼拝に与る一人ひとは、様々な違いや病をも持っていますが、しかし、主にあって一つという結ばれた力をみんなが感じ受けていることに代務者自身も励まされております。新年度に向けても「途方に暮れても失望せず」との御言葉に生かされて更に歩み出して行きたいと祈りつつ願っております。

具体的な動きとしては、①今年度から役員会制（それまでは信徒協議会）をとり、教会の運営に当たってきた。②3名の転入会者があり、転会式を行った。③5月の創立記念礼拝に、当伝道所創立者である立石賢治牧師（94歳）に説教をしていただいた。なお、札幌地区としては最も小さな伝道所ですが、みなさまのお祈りに支えられていることを覚え感謝しております。

## 十二使徒教会

2013年2月28日川野牧師の5年契約の任期終了。2014年3月1日より毎年一年毎短期滞在契約を開始。新牧師招聘（2017年4月あるいは10月もしくは2018年4月の負債完済後）を目指し暫定期間約3年あるいは4年の教会運営上の牧会諸課題にクリエイティブに対応。

- ① 礼拝—1) 礼拝の内容は、川野牧師が、アレンジ 2) 礼拝出席人数に左右されない礼拝。3) 主体性を持ち、支えと励ましを受けて世に出て、また戻ってくるところである宣教に招かれている礼拝。
- ② 財務：教会の予算と実績が新牧師を招聘できる財務状況（最低750万—850万予算）維持。1) 丁寧な経費節約。2) 月定献金の霊性の強調。
- ③ 教会員が将来新牧師招聘を責任を持ってするためには、「教会員」とは、何かを考えて続けていく体制づくりとして現住陪餐会員の規定の見直し。
- ④ 教会運営と牧会と聖研 1) 実務簡素化、メールにより徹底な共通理解をつくりながら課題を対応していくシステム。2) 役員会および土地建物委員会は、Skypeで会議、3) 総務局を設置。教会運営の諸奉仕コーディネイトと書類管理と緊急対応の軸として機能。4) 週報編集、葬儀の責任の分担化とシステム化。
- ⑤ 月一回定期説教をしてくださっている4人の牧師と川野主任牧師とのコミュニケーション。信徒による病床牧会訪問、定期的、緊急のメール、Skypeで個人的牧会。信徒による聖研。

⑥ 宣教：教会が、自己目的的な教勢拡大化に墜ちることなく、教区地区との宣教協力、世から離れて孤立化するのではなく、世の中にあって、対抗的、代替的、礼拝と宣教の一体性を持った共同体を認識。

## 月寒教会

### ①2014年度の主な動き

教会員減少が加速する中、どのようにしたら地域に開かれた、主に奉仕する教会となることができるのかを祈り求めた一年でした。まず教会組織の見直しに着手し、いくつかの委員会を統合したことによって、よりスムーズで幅広い奉仕活動が行われつつあります。

9月には、後宮牧師による「牧会についての学び」を行い、多くの気づきが与えられました。クリスマス行事や礼拝に、幼稚園、ねっこぼっこ、地域の方々が参加してくださり、良い交わりができたことは感謝でした。また、2名の受洗者が与えられたことは大きな喜びでした。中・高校生の教会宿泊研修会には20名を超す参加者があり、大きな希望へと繋がっています。

今年度は数名の教会員と石垣牧師の御子息が天に召され、悲しみと試練が与えられた年でもありました。多くの課題や試練がありますが、皆で励まし合い、助け合って、困難を乗り越え、イエス・キリストを証しする教会形成をしていきたいと望んでいます。

### ②当面する大きな課題・今後の方針など

教会員の高齢化や会員数の減少に伴い、教会財政が非常に厳しい状況です。現状を踏まえた予算の見直しと共に、より豊かな宣教のあり方を祈り求めています。

### ③活動方針

標語「神の恵みを生きる—教会の豊かさを知る」年間聖句「教会はキリスト体であり、すべてにおいてすべてを満たしている方のおられる場です」（エフェソの信徒への手紙1章23節）

## 厚別教会

2014年は、厚別教会創立50周年に当たり、その記念行事を行いました。記念礼拝とお祝いの会には、多くの祈りが寄せられ、喜びを共にすることが出来ました。同時に、地域の教会として、次の50年を見通し、伝道への想いを新たにしました。その中には、老朽化した会堂・牧師館の改築が含まれます。これは園舎の改築と同時に進めることが望まれます。園児の増加にともない狭小な感があり、より機能的な構造、更に耐震構造が必須要件とされます。

2015年度は、すでに動き始めました。この年度は、牧師招聘が課題となります。招聘のためにも、教会の方向性を打ち出し、その基礎である信仰告白の遵守を明確にしたいものです。

厚別地区は、新札幌駅を中心とした街づくり、再開発が進められようとしています。この計画と会堂・牧師館・幼稚園舎の改築は、よしあし共に連動するでしょう。他方、諸教会と共に高齢化した教会の問題を担いつつあります。信徒と同時に牧師も高

齢化しています。体力・気力が衰え、讃美・告白が小さくなる。教会維持の奉仕が出来なくなる。齢を重ねることは、神の恵みのはずです。感謝・讃美の礼拝をささげることが肝要です。

### 東札幌教会

本年度も、これまでの方針である「家庭的雰囲気大切に教会」「礼拝の充実」「新来会者を迎える教会」「主日以外にも集える教会」を目標にあゆみ続けました。

近年、高齢に起因する病やけがなどで、長期欠席者、礼拝出席が困難な方々が増す中2名の姉妹が帰天。また遠距離に居住する教会員に、寄せ書きや誕生カードなどの送付など、心のつながりを保つことを大切にしました。「新来会者を迎える教会」として、礼拝に参加した誰もが暖かく受け入れられる雰囲気の礼拝を心がけました。高校生の礼拝体験参加者や新来会以後継続して礼拝に出席されている方とのつながりを大切にしています。

地域とのつながりを求めた「ひきこもり問題学習会」は8回を数えました。恒例のバザー、北海道合唱団との共催による「うたごえ喫茶」は地域の方々の多数の参加があり、今後の発展が期待されます。

かつて工場地帯であった教会周辺は、マンションが林立する地帯となりました。教会周囲も住宅建設がすみ、教会のシンボルであった胡桃の木はその面影を失いましたが、この地域にある宣教の使命はますます大きくなっています。

小さな群れであり、財政的に苦しい教会であります。多くの皆さんの祈りに支えられ、地区・教区の支えのもとあゆんだ一年でした。

### 真駒内教会

2014年度の教会目標は、「礼拝に生きる神の民」(Iコリント3:11)でした。創立50周年を記念して新会堂建築にとりくみ、クリスマス前に竣工することが出来ました。これもひとえに神の恵みと北海教区の全面的なご支援、主に在る全国の教会や兄弟姉妹の祈りと支援の賜物と深く感謝しています。主日礼拝は十字架の贖いと復活のいのちの恵みにあずかる場であり、2名の受洗者が与えられ、6名の転出者があり、2名の兄弟が天に召されました。6～12月の工事期間は、幼稚園ホールで礼拝や集会を守り、1月からは新会堂で祈祷会、入門講座を再開しました。また、毎月3地区の家庭集会、キリスト教基礎講座も祝福されています。夏には平和聖日礼拝と平和の集いを持ち、2月の信教の自由を守る2・11札幌集会にも参加し、平和憲法の遵守と信教の自由を祈り求めました。

教会学校と幼稚園の活動を通して地域への宣教と信仰の継承に励みました。幼稚園は新会堂建築に全面的に協力し、キリスト教保育に励みました。8月に北海道キリスト教センターで開催された第14回日本基督教団と台湾基督長老教会との教会協議会に協力し、ディヴァン宣教師、林田宣教師夫妻の働きを支援することにより台湾長老基督教会と日本基督教団の宣教協約の推進に協力できたことも大きな喜びです。

今年は新会堂を拠点とし、礼拝の喜びに生きる神の民として宣教活動を推進していきます。

### 札幌元町教会

2014年度の主題聖句は、イザヤ書40章31節「主に望み置く人は新たな力を得 驚のように翼を張って上る。走っても弱ることなく、歩いても疲れぬ。」でした。この御言葉に支えられた1年であったと思います。2014年度の元町教会の課題は、なんとといっても、牧師招聘でした。そして新年度の課題もやはり牧師招聘です。牧師招聘のことでは、昨年教区の人事委員会に依頼しましたが、その際、いくつか希望を出しました。元町教会を本務としてくださる方、2階の牧師住宅に住んでいただける方、牧会経験を有しておられる方、年齢・性別・出身校を問わないが、北海教区の宣教方針を共有していただける方等々です。これを受けて教区でも努力をしてくださっていますが、当初の2015年4月の招聘のめくろみは実現が難しいようです(それに教会の経済事情もあって…、これが最大問題かも)。

とはいえ代務者の岸本和世牧師のご指導もいただいて、主日礼拝始め教会の活動は、それほど縮小せず続けることが出来ました。札幌地区始め多くの方々から支えられた2014年度でした。とくに主日礼拝の説教は岸本牧師のほか、年度の前半では北光教会の応援によって、11月からは北海道キリスト教センター館長の雨貝行麿牧師によって守ることが出来ました。2015年度は、現状のままでなく、さらに「新たな力を得」て、「疲れず」歩いていきたいと願っています。

### 麻生教会

年間テーマとして「喜び、祈り、感謝する教会」をテーマとして掲げました。昨年のクリスマスに受洗者が与えられたことは感謝なことです。礼拝出席は昨年度並の水準ですが、現住陪餐会員の出席が1割弱の減となりました。長年、礼拝を支えてくださった方々が体調を崩され、出席が困難な方が増えたためです。にもかかわらず、全体の礼拝出席が昨年度並となっているのは新来会者や他教会員の出席が増えたことによります。それらの方々の受洗・転会のふさわしい時期を祈りつつ待ちたいと思います。

また、2014年度は教会員の葬儀が続きました。教会での葬儀を希望しながら、様々な事情でセレモニーホールを利用する方もありました。課題は様々ですが、故人との地上での最後の礼拝ですから、葬儀社とも協力してよい礼拝を目指したいと考えます。

祈祷会では、聖書の学びの後に具体的な祈祷題を挙げ、共に祈ります。体調不良により、祈祷会への出席が難しくなった方もありますが、新たな出席者も与えられていることは嬉しいことです。牧師も着任2年目となり、体調を崩され、礼拝に出席できない教会員の方々を訪問し、共に聖餐を祝う回数も増えました。困難の中で礼拝出席が適わない方々の祈りによって教会が支えられていることを実感しています。厳しい現実が続くと思われませんが、2015年度も忍耐をもって祈りつつ、希望に向かって進みたいと思います。

### 札幌北部教会

2月、道北キリスト教センターの藤吉求理子先生を迎え「一人ひとりの賜物(ギフト)が輝く教会づくり」のテーマで一日修養会を行いました。たしかに、



ひとりひとり、神さまのギフトの輝く北部教会です。教会では、いつも子どもたちがきらきら輝いています。元気でにぎやかな子どもたちに会うのが教会に来る楽しみにもなっています。

高齢となってきた人たちは、みんなの気遣いを引き出してくれます。みんなが元気だったとき以上に、お互いやさしく配慮し心遣いをするようになっていきます。

ろう者の信徒たちは大きな力を発揮しています。手話をする人たちが増え、礼拝前には子どもたちと手話賛美の練習をしています。手話で初めて気づく讃美歌のことばの意味を発見したりしています。

壮年会が年に数回、教会の昼食を担当するようになり腕前も上がっています。壮年会主催の「東日本大震災支援チャリティジンギスカン」も今年度で3回目となりました。

「太平子どもの家」にかかわるお母さんたちが計画し、福島に暮らす親子を北海道に短期保養に迎える「にじいろのつばさプロジェクト」を実施しました。携わったひとりひとりのギフトが力強く輝きました。輝くほどに、教会が好きになる北部のみんなです。

### 琴似中央通教会

昨年度は、「主の前に共に生きる」を年間標語にした。週毎の礼拝を大切に、そこで私たちが共に在るという実りを確かめることを目指した一年であった。

しかし、年度当初より牧師の体調不良・療養という事態が起こり、週毎の礼拝をささげ続けることが危ぶまれた。けれども信徒による証し、地区・教区の牧師による説教応援等が具えられ、毎週欠かさず礼拝をささげることができた。このことは感謝であり、恵みであった。それは、図らずも、「主の前に共に生きる」という主題を具体化するものとなった。また、こうした事態の中で1名の受洗者がに与えられた。このことも教会にとって大きな喜びであった。

また、上記のような事態の中でも、一昨年度から始められた置戸教会との宣教協力が行われ、礼拝交流(11/9 開催)では琴似中央通教会の信徒が置戸教会で証しと奏楽を担当し、荒谷陽子宣教主事には琴似中央通教会の夕礼拝でメッセージをしていただいた。ここにも「神の前に共に生きる」が具現化されたのではないかと思われている。

今年度は「新しいことが芽生えている」。また、主題聖句はイザヤ書43章19節を年間聖句にして歩むこととした。昨年度の歩みの中で芽生えて来たこと(例えば、礼拝での信徒の証し)、今までになかったことに挑戦して行きたいと考えている。こうして教会が革新され続けて行くことを願っている。

### 札幌富丘伝道所

2014年度は兼務牧会体制の3年目にあたり、手稲はこぶね教会との合同集会などを行いながら、伝道所の将来を考える1年になりました。主な活動は、6月にディヴェン・スクルマン宣教師の案内のもとで伝道所主催の台湾ツアーを行い(参加者8名)、9月はバザー、10月には墓前礼拝、11月は永眠者記念礼拝を行いました。行事もさることながら、建物自体が老朽化しており、早急に伝道所の行く末を考えるのが最重

要課題です。そのために、教会将来検討委員会を立ち上げて手稲地区の宣教を考えつつ、互いに建物や宣教について将来の夢を語りあっているところです。

兼務牧会体制で牧師は月に2回説教を行い、他の2週は他の牧師や信徒の方々をお願いしていました。しかし、出来るだけ主任牧師からの説教を受けたいということで、8月から「DVD説教」を始めています。これは兼務教会である手稲はこぶね教会の主日礼拝説教を録画し、翌々週に伝道所でスクリーンに映し出すというものです(礼拝順序は個別、説教の部分のみ)。映像があることで集中して時を過ごせるようであり、このスタイルを継続していく予定です。

今まで組織されていた委員会を廃止し、イベント毎に「この指止まれ方式」を採用しています。出来る方が出来るだけのことをするスタイルで、皆無理をせず楽しく教会生活を過ごしています。課題や問題を抱えつつ、しかし笑顔で過ごす札幌富丘伝道所を覚えて下れば幸いです。

### 手稲はこぶね教会

2014年度は兼務牧会体制の3年目にあたり、新しいスタイルにも順応して穏やかな1年を過ごす事ができたと思います。手稲はこぶね教会は、例年と同じく交わりを大切に、共に祈る集会を多く持ちました。毎週のうどん食堂や祝祭日毎の愛餐会を通して交わりを深くしました。また8月は平和祈り会で知念優幸さんを講師にお呼びして、沖縄の現状に思いを馳せました。そして9月には墓前礼拝、11月は創立記念礼拝、12月にはグループ祈り会、1月は初週祈り会など、祈り・学びを目的として活動しました。

当面する大きな課題は、会堂内外の老朽化による補修の必要性和宣教の方法です。設備備品などの交換や修理はかなりの割合で行いました。建物自体も頑丈とは言えず、近いうちに大がかりな補修が必要となるでしょう。その中で、建物も含めて手稲の地で宣教をどのように行っていくべきかを教会員全員が共に考えるべき時が来ています。

8月と9月に何者かが教会内に侵入して盗難事件が2度発生しました。開かれた教会として歩もうとしている時に教会の門を嚴重にする必要に迫られて意気消沈した部分はありますが、戸締まりは嚴重にして、しかし、温かく地域の方々を迎え入れられるような教会でありたいと願いつつ、心機一転、2015年度の歩みをしていきたいと願っています。どうぞお祈り下さい。

### 新発寒教会

2014年度標語「目を覚まし、信仰と祈りと愛を持って行動する教会」

○2014年度の主な働き

特別伝道コンサート(ソプラノ:吉村美穂さん)春と夏のバザーの実施。市民集会での出前バザー。新年カルタ大会、ホッとカフェ。5月:「札幌のホームレスをめぐる状況と支援」(講師:中塚忠康さん)、8月:「沖縄の現状について」(講師:知念優幸さん)、3月:「真の健康とは〜中医気孔とネパール平和巡礼から学ぶ」(講師:那須博文さん)地区間交換講壇(小西陽祐さん・余市教会牧師)平和を祈

る礼拝（太田結子さん・野幌教会信徒）教会報「道しるべ」の年4回の発行と、「こころの友」の地域配布による文書伝道（旭川六条教会の支援に感謝）こどもプログラムの実施等。

#### ○課題

会堂が年々、老朽化してきていますので、どうしていくのか祈り求め決断すること。喜びに満ちたいいきとした礼拝をささげること。次の世代への宣教を充実させること。内向きではなくひらかれた敷居の低い教会をつくること。安倍政権の右傾化、軍事化にただならぬ危惧を憶えます。たえず目を覚まし、主から委託された平和と人権の課題を担っていくこと。依然と会計は厳しい状況ですが、恵みはたくさん与えられていますから、希望を持って前向きに歩みます。そして2016年度には創立50周年を迎えます。教会全体で話し合いを重ねていますが、夢とビジョンを具体化していきたいと思います。

### 北広島教会

2014年の聖句として「わたしは、神に近くあることを幸いとし、主なる神に避けどころを置く」（詩編73編28節）が与えられ、イエス・キリストが全ての主権者であることに信頼して歩む年でありました。更新伝道会から2回の訪問説教奉仕があり感謝しています。会員の移動や礼拝に出席するのが困難になっている方が増えて、教会財政が危機的な状況になりました。高齢者、病気療養者などへの牧師訪問と病床聖餐がなされたことは感謝です。教会の畑の収穫があり、長年の努力により育ったラズベリーからジャムを作り教会バザーに出す事が出来ました。今年度限りで加藤孔二牧師が辞任されることになりました。来年度から無牧となりますが、代務教師の指導の下で伝道への取り組みを続けられるよう祈っています。聖日礼拝と聖餐から主にある恵みを受けつつ、役員会と会員が一致して与えられた課題と取り組んでゆきたいと思います。

## <後 志 地 区>

### 小樽教会

新会堂における礼拝を献げて早1年半になろうとしている。会員の高齢化が進み、礼拝出席が困難になる教会員がさらに増えている。そのような中で受洗者が1名与えられ、他の教派からの転入会者が1名与えられたことは感謝である。また不在から現住陪餐に復帰した会員も与えられ、教会員数自体は減っていないことは感謝である。なお中央幼稚園は、新入園児55名前後で新年度をスタートするので、去年より園児数が若干減少することになりそうであるが、教員1名が結婚退職することにより、ある意味ではバランスが取れた形になっている。昨年同様ハンディのある園児の数は減少することなく、キリスト教幼児保育を理念としている我々に託された使命の大きさを実感するとともに、主の導きと支えとを祈り求め励んでゆく決意を新たにしている。

### 小樽公園通教会

山崎道子牧師、山崎聖偉牧師の辞任のためご一家5名が転出、また長年信仰を共にした教会員2名が帰天された。一方で1名の受洗者、2名の転入会者が与えられた。山崎両牧師のこれまでのお働きに感謝しつつ、11月以降は代務者塩見耕一牧師（北星学園余市高校宗教主任）のもと歩み始めた。厳しい雪の季節、諸先生方のご奉仕により、主日礼拝を守ることができたことは心から感謝である。また信徒奨励をとおり、神様からの豊かな恵みを共に分かち合った。多くの祈りに支えられる中、たくさんのお出会いと交わりを与えられ、各々の信仰が強められたことは大切な経験となった。

一方で体調を崩して入院、療養される方、雪の中の外出が難しい方もあり、特に11月以降の礼拝出席者数は減少した。しかし求道者やこどもたちも皆で共に守る礼拝、祈祷会の継続、多くの問題を抱えた牧師館売却の決断、そして牧師招聘の過程で、私たちは教会の基本姿勢を再確認することができた。

財政面では2013年度の負担金未納分および2014年度分は完納した。また歴史的建造物である会堂を維持するため、外壁と屋根の塗装・補修工事を行なった際、工事費用の準備のため献金と呼ばれたところ、多くの方々が応えてくださり、必要が満たされたことは誠に感謝である。

4月より白崎智之牧師と新たに歩み出す小樽公園通教会の未来のためにお祈りとお支えをお願いしたい。

### 小樽聖十字教会

①会堂が建築されてもう7年目が過ぎました。しかし、目下、北海教区や銀行への借入れ返済が大きな課題です。建築決断当初は、計算上では毎年の返済は可能であるとの判断でしたが、この7年間の間に様々な要因が重なり、北海教区への返済も返済日に間に合わないことが起きてしまっています。しかし、そのような中で、地区、教区諸教会、個人の皆さまの暖かいご理解と応援を頂いて年度内には無事返済することが出来、感謝でした。完済までの道のりは半分ですが、これからも必ず主が導き給うことを信じ、祈りつつ責任を果たせるよう祈っています。

又、7月には16人、2月には10人の韓国宣教チームが来樽し、集会案内ビラのポスティング、諸集会の応援等の奉仕をして頂きました。今回で8回目になり、メンバーも半数以上が再来者たちなので、諸集会が楽しい交わりと宣教の場となっており、感謝です。

②3年来学びを継続してきた「教会の7つの本質」を踏まえた具体的な活動を平行して進めています。まだ試行錯誤の部分は多々あるのですが、講師を招いて「コーチング」をして頂きながらさらに良き実りが結ばれるよう目指しています。

③中学、高校を卒業する世代が与えられています、地元を離れて巣立って行く者たちもあり、結果として若い働き人の減少が伴われ、新年度の体制作りが新しい課題となっています。

## 手宮教会

4月の総会において手宮教会・手宮幼稚園の移転・建築計画案が決議された。移転先は、梅ヶ枝町。現在の教会から見えるバス通りとなる。幼稚園舎の建替え計画を元に対策が講じられ、1億2千万という規模の事業計画となった。私たちの思いをはるかに超えた神様の計画があることを知らされている。全国募金開始、目標額800万円。教団・開拓伝道援助金申請が受理され、給付が許された。教区の開拓伝道資金給付申請も、給付の決定が知らされ感謝である。会員が高齢で年金生活である状況にとって経済面の負担増は厳しい課題である。全国募金も多くの方々に覚えていただき、3月初めまでに300件を超える全国・全道の教会と兄弟姉妹から応答がある。計り知れない大きな励ましを受けている。市内の関係者から信頼されているキリスト教保育を果たす責任を感じている。移転地は、地元の方々が手宮幼稚園に使ってもらえるなら土地を手放してもよいという信頼を得て交渉が整った。小樽の北側に教団の教会はない。この地域でキリストの福音宣教の使命を果たしていきたい。

## 余市教会

2014年度は、礼拝を豊かにするとはどういうことかを中心に考え、9月には、前札幌北光教会の後宮敬爾牧師をお招きして、礼拝についての研修会の時を持つことができました。

9月からは、朝ドラ「マッサン」が始まりました。そのおかげで、多くの方々から「マッサン見えますよ」と声をかけていただきました。この機会を通して、竹鶴政孝・リタと余市教会・リタ幼稚園の関係の歴史をあらためて、掘り起こす機会が与えられました。

今年度は、最近の大きな課題であった教会と園舎の外壁補修・屋根の塗装工事を実施することができました。赤い屋根に塗り替わり、この地域の一員として、この余市での宣教への思いを新たにされる時となりました。

年度当初の5月には一人の方が転入会をし、新たな仲間を加えることができました。会員以外の方や幼稚園教師たち、北星余市高校の学生たちとも礼拝を共にすることができました。またこの一年間も北星余市高校、リタ幼稚園の働きをおぼえて歩むことができました。

11月の創立記念日には、三浦綾子記念文学館の特別研究員である森下辰衛氏をお迎えして、記念講演会を開催しました。「この時代にあっても、希望がなくなるような時代だけでも、諦めてはいけない」との力強いメッセージに、励まされ、新たな力をいただきました。

次年度は、余市教会宣教130年を迎え、大きな節目の年となります。前回、教会記念誌が発行されたのは110年の時でした。それから、すでに20年が経過しています。130年記念誌の発行に向けて、動き出したいと思います。次年度も北海教区の諸教会の働きをおぼえて、祈り、出かけていく教会でありたいと願っています。

## 岩内教会

- 2014年度は一人の姉妹が主の御許に召され、現住陪餐会員は20名を切り19名となりました。会員の減少により、役員会の持ち方を見直し、教会員全員で協議をする「教会協議会」の開催を検討しています。
- 教会会計収入は当初の予想に反して、特に感謝献金、礼拝献金が多かったため、繰越金をだすことができました。
- 2014年春に落雪によって教会の壁の一部が破損しました。業者の都合によって年度内の工事が出来ませんでした。2015年度は破損防止柵の設置、壁板の一部張替え、牧師館の壁の塗装工事をを行う予定です。4. 礼拝奏楽がリードオルガンから電子ピアノ（献品）に替わり、天井の高い礼拝堂に音がよく響くようになりました。それに伴い賛美の声も整ってきました。

### 幼稚園

- 新制度が始まる2015年度は、認定こども園に移行しないで、従来の幼稚園として運営します。制度の今後を見ながら、移行の時期を決めたいと思います。
- 園児の数は、町内では1年間に子どもが100名しか生まれない厳しい状況にあつて、2014年度は68名が在籍しました。2015年度は久しぶりに70名を超える見込みです。幼稚園の取り組みが評価されているものと思われます。
- 設備面では門扉をスライド式の新しい扉に替えました。また、支柱の腐食が進んで倒壊の心配がでてきた防犯灯を新しいものに取り替えました。2015年度は、塗装が剥離して腐食が進んでいる園舎支柱の塗装工事を予定しています。
- 2015年3月上旬に、岩内幼稚園のホームページがアップロードされました。
- 地方都市の幼稚園ではどこも同じと思いますが、教職員に移動があったときに、補充要員を確保するのが非常に難しくなっており、苦慮しています。

## 倶知安伝道所

2014年度も、外部の方々からの期節献金に支えられて感謝の内に決算できました。2015年度も皆さんのお支えに感謝しながら過ごしてまいります。教会牧師館の塗装工事も完了し、礼拝堂のストーブも買い換えることができました。借入金の返済も滞りなく進んでいます。

2014年度は、元牧師家族の転出により会員数は減ったものの、夏期の避暑客に加え、CSキャンプの利用、札幌青年協議会の皆さまが来てくださったことなどにより、年平均礼拝出席者が1.8人増えました。私どものような小さな群れにとっては、何時行っても共に礼拝を守る仲間がいるという状況となり、とても恵まれた一年だったと言えるでしょう。地区内でも、信徒大会、厚生園間按、岩内幼稚園と用いられ感謝です。月報「羊蹄山の麓から」も継続できました。200部ほど発送しています。この冬は降雪が控えめで、雪下ろしツアーは1回となりました。

礼拝奏楽に、キーボードを導入し、前奏・後奏曲あ



りで礼拝を守っています。音楽的にヒムプレーヤーよりも、雰囲気良くなったと好評を得ています。もちろん、出前講座で演奏を披露し、希望者には技術指導もしています。

倶知安町は北海道では数少ない人口増加地域となり、幼稚園は新入園児 21 名を加え、65 名でスタートします。すでに、満 3 歳児の予約が 5 名いますので今年度は 70 名と定員を満たすことになります。教師の求人も達成でき、正職員 4 名体制となりました。将来のこども園化に向けて大きな決断が迫られる年度になるでしょう。

## ＜苦小牧地区＞

### 島松伝道所

2014 年度は、長い間祈り語り合ってきた会堂再生・牧師館建築について具体的に進める一年となった。地区をはじめ、たくさんの方の支えがあり全国に趣意書を届けることができた。自己資金が全体の半分までで精一杯なため、地区の宣教積立金からの給付と貸付、また各教会の献金活動、教会債など心強い協力得ながら進めている。地区の共同牧会による連帯の力に心から感謝している。教区開拓伝道資金からの給付や教区、全国から祈りと共に献金が寄せられていることに感謝している。しかし、資材や人件費の高騰で計画の変更や、全国募金については今後も第 2 次・第 3 次の募金継続の必要など課題は多い。工事は 8 月末完成の予定である。その一方で、宣教協力募金は大きく減少し、教会会計はこれまでにない厳しい現状がある。建築の業がここまで進むことができたことを喜びつつ、厳しさと向き合っていきたい。

クリスマスに転入会者が 1 名与えられ、大きな喜びであった。若者が成長し就職していくが、道外や日曜勤務のため、礼拝出席は難しい状況が続いている。年数回の若者夕食会が貴重な再会の場となっている。また、3 年目に入る当事者研究には、札幌、恵庭、千歳から若い世代を中心に毎回 10～15 人が集い、良い学びの場となっている。「そのままを互いが認め合う場所をつくる それが『ひだまり』」という建築の理念が地域の中で実現していくことを信じて、2015 年度の教会活動につなげていきたい。

### 千歳栄光教会

教会創立 63 周年記念礼拝を後宮敬爾牧師をお迎えしてささげることができた。記念愛餐会では、会堂建築をはじめとする様々な思い出が語り合われたが、そこには困難が喜びに変わっていった原動力を感じることができた。今年も高陽牧場で三教会合同野外礼拝をささげることができた。各教会の牧師が交替しても、継続してそれぞれの課題を担ってきた礼拝として評価できる。今後も話し合いながら進めていきたい。

テーマ愛餐会は、「説教について」と「礼拝について」の話し合いのときをもった。ひとりひとりの思いを語り合うことの大切さと、牧師だけでなく信徒も共に礼拝をつくる恵みに与っていることを忘れずにしたい。2015 年度は、子どもと共にある礼拝を教会としてさらに深めていきたい。

2014 年度は、千歳高等支援学校との出会いと清掃

奉仕を受けたことはとても感謝であった。地域交流として、今後も支援学校とのつながりを大切にしていきたい。

地区の教会交流として、幌泉教会の主日礼拝に出席した。日高三教会の移動の大変さと、地区活動・交流の意義深さを感じた。地区信徒大会での島松会堂再生・牧師館建築工事について、多くの教会員が出席して意見を出し合えたことは評価できる。充実した支援の方法を整えていきたい。

千歳栄光学園は、千歳市および関係諸団体との協議をふまえ、千歳第 2 幼稚園が幼保連携型認定こども園に、千歳幼稚園が施設給付型の幼稚園に移行するために準備中である。

### 苦小牧弥生教会

2014 年度は無牧師でスタートしました。代務者は島松伝道所の辻中明子牧師が快くひきうけてくださいました。11 月には函館千歳教会井石彰牧師の招聘が決まり、主の恵みのうちに年度末を迎えました。無牧師の状況の中、教会の姿勢として「み言葉に聞きつつ、歩む」をきっかけ、教会活動目標を①礼拝に出席する。②献金をささげる。③自分のできる奉仕をする。④導きを祈り求める。など総会で決定し、ひたすら歩んできました。牧師が担っていた専従の仕事がたくさんあったと改めて知らされました。専従の仕事役員や教会員が互いに分担し合いました。礼拝の準備はもちろんのこと、聖日のメッセージは、第 1 週は信徒メッセージ、第 2 週は代務者、第 3 週は千歳栄光教会から、第 4 週は宇野政勝牧師と苦小牧地区の共同牧会のおかげで聖日礼拝を守ることができました。幼稚園は認定こども園で 4 月から新しい出発をします。政府の政策でなかなか定まらない内容の中不安な出発ですが、宣教の役割を果たすよう全スタッフが努力中です。

### 幌泉教会

#### ①良かったこと

今年度の教会の歩みは、特に大きな変化もなく、守られてきたことを思います。教会学校は、年平均 14 名ほどの推移で安定しており、えりも町という町の規模、教会の規模と照らし合わせても、大変祝福を受けております。光の園幼稚園の教員と教会学校の教師が同じであることもあり、幼稚園から小学校、中学校と子どもたちが定着して通ってきてくれていることを思います。教会学校の先生方の公私を超えたご奉仕による賜物であると感じております。子どもたちの育成とともに、神様の豊かな恵みを思います。

#### ②苦労したこと

小規模の教会であることもあり、今年度、初めて牧師一人の礼拝を持つことができました。小さな教会であるがために、教会に集うもの一人一人が礼拝を大切にしてきました。しかし、各自の都合が止むを得ずつかないと、私どもの規模の教会では起こりうる現実であると感じました。（同日、教会学校はいつもと同じようにありました。）教会員の高齢化と実労を支えてきた会員自身の状況の変化の兆しに思いました。北海道の僻地の教会共通の苦労と感じます。

沿岸部にある共通の問題で、塩害と経年による建物

の補修が必要となっています。2015 年度の夏、堰堤側の外壁の工事、サッシの交換、園庭周囲のフェンスの交換を予定しています。今回の支出で設備費の蓄えがないので節約し、神様に祈りつつ、次回の定期の補修の費用を積み立てていきたいと思ひます。2016 年以降に急な補修が発生しないことを願っております。通常、支出の増加の見込みに比べ、単年で経常収入の急な増加は見込めません。安易な補助に頼らず、自助が基本であると意識しています。通常の負担金や指定献金を滞りなく支出するのにも、祈りつつ努力していきたいと願っております。

## ② さらに良くすること

教会活動は例年変わらないで安定しているので感謝です。財政的にも昨年度の予算自体は計画通り満たされました。感謝です。教会学校の取り組みが根付いているので、児童の育成に力になれるよう引き続き努めていきたいです。2015 年度も楽しく恵み豊かに毎週の礼拝を送れるものと楽しみにしています。

## 浦河伝道所

2014 年度教会形成目標は「弱さを開示しあう教会」「恵みを語り合う教会」「弱さを元手に安心して参加できる教会」でした。2014 年度も「弱さという恵み」を互いにもちより、それを分かち合いつつ教会形成に励みました。「弱さを絆に」を理念とする社会福祉法人「べてるの家」作業療法士から吹く風を受けて、教会も弱さや病氣その他の体験を語り合い、悩みや苦勞、また喜びや感謝を分かち合って歩もうとしました。

主日礼拝では、第 1 日曜日は聖書を 1 章ずつ輪読し（今年度は創世記）、出席者がその感想や、また一週間の体験した出来事を語り合う「分かち合い礼拝」をもちました。第 2 と第 4 日曜日は寺田牧師の説教、第 3 と第 5 日曜日は地区の応援説教で礼拝を守りました。礼拝後は毎週食事の時をもち一同なごやかな交わりの時となりました。

そうした中であって 11 月 9 日（日）には石井健さんが洗礼を受けました。毎週水曜日に行われる聖書研究・祈禱会は詩編を 1 編ずつ輪読し、感想を述べ合い、その後全員で祈禱の時をもっています。毎週土曜日午後 1 時から 4 時まで子どもの集会「ノンノ学校」をもちました。今年度は校長不在のためスタッフ全員が協力し合って守りました。今年度計画の中に「墓地を考える会」「会堂建築を考える会」を入れましたが、出席者がなく開かれませんでした。両方ともその必要がないということかもしれません。

## 元浦河教会

2014 年度の教会標語は「わが子よ、主の鍛錬を軽んじてはならない」（ヘブル 12:5）でした。試練にあっても、それを神が与えてくださったものとして受け止め、教会形成に励みました。当教会は教会学校も聖書研究・祈禱会もありません。また壮年会、婦人会、青年会等のグループ活動もありません。主日礼拝とその後にもたれる食事が唯一の交わりの場です。主日礼拝は今年度も第 1 と第 3 日曜日は寺田牧師の説教、第 2 と第 5 日曜日は地区の応援説教、第 4 日曜日は信徒の証しで礼拝を守りました。信徒の証しは 5 年目を迎えましたが、中には「できない」と言う方もおられ

ます。それはそれで自由にパスができます。以前「信徒の友」誌の聖書日課を読んでいた時に比べ、信徒の信仰訓練にもなり、信徒の証しはこれからも続けていきたいと思っています。

礼拝後の食事は毎週もつことができ感謝です。人数が多くない教会だからできるのかもしれませんが。当教会の課題は現在礼拝者が約 10 名ですが、教会の継承者を育てることです。なんとか 15 名くらいになりたいものです。そのため次年度は最低でも 1 人は受洗者が出るよう励みたいと思ひます。

## 室蘭知利別教会

過去 2 年間継続してきた年間主題「安心する教会」に続く年でした。今年度は「賜物を分け合いながら協力する」を年間主題としました。安心する教会形成を目指して、神様が私たちに与えてくださった賜物を、私たちが出来る方法でもう少しだけ発揮しましょう、との趣旨でした。私たちは自分自身や家族の心配事があり、また体や心にそれぞれの不安を抱えていますが、教会で出会う兄弟姉妹がお互いの弱さを分かち合って歩む時に教会が本当に安心できる場所となるものと信じます。大きな目標は以下の通りでした。

1. 礼拝と一緒に与りましょう。  
①つながりを意識した礼拝（お互いを具体的に祈る；分かち合う礼拝・4 回）。「安心する教会」が体感出来ました。②高齢化や個人へ対応する。個人的なサポート意識が芽生えてきました。③教会との出会いを準備する（ホームページの充実、地域に開かれたバザー・音楽会など）。例年のように、教会バザー、クリスマス音楽会では地域の大勢の方々と楽しい時間を共有できました。
2. 在宅でも大丈夫（訪問・連絡を取り合う、お互いに祈り合う）。ごく個人的に実施されている段階ですが、今後の大切な課題となるでしょう。
3. 使命としての幼稚園（祈り、交流しましょう。存在を示しましょう）。2016 年度の開始に向けて認定こども園（幼稚園型）の手続きを継続します。石川宣道運営委員長、石川まなか園長にあっては大変多忙の年となります。
4. 地区・教区・道外との相互扶助（洞爺湖教会への応援（証し）・6 回、被災地に寄り添う支援、会堂建築する教会を支援、など）。予定どおり実施できました。

## 洞爺湖教会

2014 年度は、平均 7～8 名の礼拝出席者によって礼拝が守られてきました。特に、礼拝出席者の中に、ご家族 3 人と男性 1 人の求道者が与えられましたことは、大きな感謝です。また、遠方よりたびたび礼拝出席される方もおられたことも、励ましとなりました。

主日礼拝は、代務牧師のメッセージや信徒による分かち合いの他に、室蘭知利別教会や地区からの応援メッセージによって支えられてきました。

イースターやペンテコステ、クリスマスには、入院されている方を訪問し、礼拝の恵みを分かち合いました。また、牧場での野外礼拝を数年ぶりに実施することができました。

苫小牧弥生教会との地区教会交流会や、地区よりの

会堂清掃の奉仕の実施、また教区より洞爺湖宣教協力協議会を通しての応援を受け、地区や教区、また教区外からの支えを改めて確認させられました。

2014 年度より、当教会は、主任牧師招聘に向け動き出しました。教会員は少数ですが、牧師館に住む専従牧師の必要を切に感じており、地区や教区、また教区外からの支えを受けながら、祈りつつ、主任牧師招聘に向けて努めていきたいと思っています。

## ＜道 南 地 区＞

### 八雲教会

八雲教会のよいところは、毎週礼拝後、お茶を飲みながらゆっくり過ごす時間を持っていることです。十数人ですから一つの家族のような集まりで、20 代から最高は 101 歳まで、週に一日顔を合わせて互いに元気なことを確認し、一緒にみ言葉を聴き、あたたかい交わりを共にして、また来週会うのを楽しみに帰るといことが毎週繰り返されています。このような日常の礼拝を共にしていることを、皆が何よりの喜びとしています。

2014 年度は、この「家族」の交わりの中に一組の親子と一組の夫婦が加えられました。7 月に大阪から移住してきたばかりの H さん親子は、新しい地で新しい生活を始めようと教会に来られ、クリスマスに洗礼へと導かれました。また熱心であった教会員の娘 K さん夫妻は、八雲に転居して十数年を経て、教会につながる「時」が備えられ、転入されました。

2015 年度は、10 月 18 日に教会創立 100 周年記念礼拝及び感謝会を実施する予定です。その日に向けて「八雲教会 100 年史」の発行など、いくつかの準備が行われていますが、一番の願いは、みんなが元気でその日を迎えられることで、そのために祈りを合わせています。

### 利別教会

2014 年 4 月、相良展子牧師の引退に伴い、石橋隆広・香代子牧師夫妻を迎え、新たな歩みが始まりました。10 月に教団教師に登録され、3 月 8 日に牧師就任式を致しました。その間、相良展子牧師が代務者としての働きを続けてくださいました。牧師就任式は、天候にも恵まれ、道南地区内外から多くの先生と兄弟姉妹にお越し頂きました。これからさらに、新しい歩みが始まろうとしています。

2014 年度は、例年通りの行事が行なわれました。11 月の収穫感謝礼拝とバザー、12 月の各クリスマス会など、行事などになると、普段の 2～3 倍の人々が集まります。利別教会が地域に浸透していることと、教会員以外の多くの方が教会に関わってくださっているからだと思います。この町には潜在的求道者がたくさんいるのではないのでしょうか。

日曜の子どもの教会も継続され、ゲームや新しい賛美を取り入れ、活気ある教会学校を目指しています。教師の高齢化で閉鎖を考えていた瀬棚土曜学校は、若い世代にバトンタッチして継続が決まり感謝しました。

2015 年度は「みことばを宣べ伝える信徒になろう」を目標に、訪問グループ、ボランティアグループ、トラクト配布などの展開を模索中です。8 月には、町の

企画に参加させていただき、ゴスペルコンサートを実施予定。礼拝では、賛美を充実させ、中高生の参加を期待しています。

### 函館教会

今年度は、年間を通して 2 名の受洗者が与えられた。うち 1 名は約一月後に天に召され、他の 1 名は 4 月から遠方に移住するため当教会には出席できなくなる。これらは、肉で考えれば悲しいことであり、残念なことかもしれないが、国籍を天に持つ民が増していることを覚えるとき、このことも感謝に変えられる。地域の人口動態や経済動向といった状況に振り回され過ぎることなく、これからも信仰と希望をもって福音の種を蒔き続けて行きたい。

クリスマスには、伝道集会としてオープン・チャーチを 2 回行った。遺愛生 22 名によるキャロリングを迎えた日は、全体で 52 名の参加者があり、その翌週も 11 名が来会した。新来者も昨年とほぼ同数与えられ、好評であった。

教会のホールを地域のこどもたちに開放し、自由に絵本を読んでもらおうと、39 年前に開館した「ひいらぎ文庫」は、最近、近くの小学生 10 名以上が来館する日も見られるようになった。地域伝道のために試みるべきことはまだ多く残っていることを知らされる。

昨年、会堂の大規模補修を終え、大きな雨漏りは解消したが、古い会堂のため、他にも補修を要する部分が残っており、オルガンの補修の必要も指摘されている。一方で、築 40 年になる木造増築部分（旧牧師館）の劣化も著しく、早急な改築ないしは新築が必要である。これに対処すべく建築委員会を定例化した。

### 七飯教会

2014 年度年題は「恵みの杯に感謝！」。三浦きょうこ牧師の受按により、特別礼拝および毎月第一主日の聖餐式が可能となり心から感謝である。

欠員であった役員が新たに補充されたことを機に、定例役員会では「教会役員ハンドブック」楠本史郎著を毎回 15 分ほど学び始めた。7 月からは、毎月第四主日午後の学び会・祈り会に加えて月二回「聖書に学ぶ会」が持たれるようになった。また、懸案であった中古車購入、外掲示板取替ができた。さらに、道南地区総会が前年度から七飯教会を会場に、また六百回以上続く函館朝祷会も今年度より年に一度七飯教会を担当会場とするようになった。多くの恵みを受けて地域への活動が促されている。10 月 19 日は創立 19 周年記念礼拝で相良展子隠退牧師に説教をしていただいた。歴史を振り返る信仰熱き説教をしていただき一同感謝であった。教会活動においては、役員だけでなく信徒ひとりひとりが奉仕に加われるよう配慮している。牧師の昨年手術した膝は順調に回復、6 月にビスを取り除く手術を受けた。また、月に一度、奏楽奉仕くださった鈴木園生姉（函館教会会員）の転居に伴う別れは残念だが、これまで共に守ることの出来た礼拝の恵みに感謝したい。

来年 3 月には新幹線も開通する七飯、福音がこだまするよう引き続きみなさんのお祈りをお願いしたい。



主がまた新たな一年も北海教区を祝福して下さいますように。

### **函館千歳教会**

井石彰牧師が2015年3月末日をもって辞任されることが決まっていたので、4月からは招聘作業を本格化させました。9月には教会員懇談会を開催し、10月には候補の先生に礼拝説教をして頂き、教会総会は満場一致をもって柴田もゆる牧師(廿日市教会)を招聘する事を決定いたしました。教会員一同の祈りが聞かれ、この上ない神様の贈り物であったと思います。しかし諸般の事情で就任が8月1日となり、それまでは七飯教会の三浦きょうこ牧師に代務者をお願いすることになりました。前半無牧となりましたが、皆様の祈りに支えられて教会員一同励みたいと心を新たにしています。

2011年3月11日以来4年間で約208万円(今年度72万円)を、キリスト教関係の様々な団体に支援することが出来ました。困難を抱えている人たちに少しは「寄り添う」ことが出来たのではないかと思います。

今年度も「開かれた教会～出会いと交わりの場～」の標語を掲げて宣教活動に励みました。おかげさまで礼拝出席の約8%が求道者で、クリスマス讃美礼拝などは69%が教会員外でした。これらの方々をどうやって教会につなげていくのかがこれからの課題となっています。ご加勢ください。

### **江差伝道所**

主任牧師不在のまま4年が過ぎました。教会の将来を描きようもない状況ではありますが、毎週毎の礼拝は変わる事なく守られているのは、まさに天からの賜いがいいにはあり得ません。事実として礼拝が守られるかぎりにおいて教会は教会であり続けるのでしょう。実際に江差にいる方々は礼拝を守り続ける決意を固く保っています。「礼拝から礼拝へ」その一巡りだけの為に存在している江差伝道所の歩みは現代においてはあまりに古くさく、教会らしからぬ様と感じられるかもしれません。しかし、江差伝道においてこの時代の宣教は「礼拝から礼拝に向かう」一巡りの旅路であり、その他には証しを持たぬ身であります、その事を誇り得るという事をお覚えいただければと存じます。

地区内の諸教会、兄弟姉妹に日々お祈りいただき感謝に堪えません。ありがとうございます。

### **渡島福島教会**

2014年度「わたしは、神の近くにあることを幸いします。」(詩編73:28)「日々の聖句」を掲げ励んできました。

先ず感謝すべきは、牧師の5月、10月の二度に及ぶ半月ずつの入院(脳梗塞)にもかかわらず、5月は遺愛学院江間紗綾香牧師(鳴海としゑ牧師同伴)の説教応援、また10月は教会員河合ゆき江さんの証しによって主日礼拝が滞りなく守られてきた事です。幼稚園保護者母子の礼拝出席も感謝です。この世との福音宣教の接点であります福島幼稚園の存在は、大きな役割を果たしつつあります。入園式、運動会、祖父母を

招いての収穫感謝祭、クリスマス、第60回保育証書授与式等全て礼拝から始まり祈りをもって終えています。

教会堂塗装工事費が教会員の献金と教区よりの援助により満たされたことです。更に、礼拝堂の床一部の補修工事を施工しました。数年来の課題とされている教会堂土台工事、トイレ工事です。教会堂を移転し、コンクリート杭数十本を打ち込み新しい土台に教会堂を戻す工事が可能なのか、工事費は…等。幸い教会堂屋根は十字架等共、一ランク上の分厚いトタン板を使用、教会堂の姿は神の栄光を現しています。壁も鉄筋コンクリート並みの厚さ、ヴォーリズ建築設計で築後44年を経過しています。

来る5月31日(主日)に相良展子牧師をお迎えし、創立60周年記念礼拝を守ろうとしています。お祈りいただければ感謝です。来年開通する新幹線。北海道最初の駅、木古内は当教会より車で40Kも明るいニュースです。

# 第75回北海教区定期総会で可決された主な決議事項

## 第四次長期宣教計画に基づく 2015 年度活動計画

### 「礼拝の喜びに生きる神の民」

#### 1 礼拝を通して新たにされるために ― 革新

- (1) 教会の礼拝の充実に取り組む  
多様な礼拝のあり方や取り組みへの理解や学びを深め、支え合う。
- (2) 信徒の働きによって宣教を豊かにする  
教職主導の教会形成を問い直し、信徒の活動の新しい形を探る。
- (3) 献身としての献金の意義を確認し、互いのことを覚えて支え合う教会を目指す  
献金の意義と各教会の工夫を学び、教会財政の充実にめざして取り組む。

#### 2 互いの礼拝を守り続けるために ― 連帯

- (1) 地区活動のいっそうの可能性を模索し、充実させて協力関係を強化する  
各地区の状況を互いに知り合い、地区内・地区間の宣教協力体制を強くする。
- (2) 地区を越えた多様な協力関係を模索し、実現する
  - ・地区間の交流と協力を進め、互いの理解を深める。
  - ・他教区や世界の教会との交流と協力を強める。
- (3) 厳しい状況におかれている教会の礼拝を、豊かで力あるものとするための具体的な支援を実現する  
謝儀保障を堅持し、会堂・牧師館建築などにおいて互いに支え合う。

#### 3 礼拝から社会へ、社会から礼拝へ ― 平和

- (1) 民主主義を守り、国家に人々の自由を侵害させない働きを担う  
平和憲法を護り、信教の自由・政教分離の徹底を目指す取り組みをする。
- (2) 戦争に向かうあらゆる動きに反対し、平和を作り出す働きを担う
  - ・米軍再編による日米の軍事一体化に反対し、集団的自衛権行使容認の閣議決定を認めず、反核・平和のための行動と学習をする。
  - ・「原子力」「放射能被曝」の問題性を認識し、原発廃止のための活動に持続的に取り組む。
- (3) 基本的人権や被差別少数者の人権を守り、その権利回復の働きを担う。
  - ・先住民族の権利回復と外国人住民・障がい者・性的少数者の人権問題に取り組む
  - ・部落差別問題・性差別問題・ハラスメントの被害防止の課題に取り組む。

## 【議案 第16号】 北海教区と西東京教区との第7期宣教協約に関する件

議 案 2016年度から、北海教区は西東京教区との間で、以下の通り、第7次宣教協約を締結する。

### 宣 教 協 約

北海教区と西東京教区（東京教区西支区時代を含む）は、6期30年にわたって宣教協約を交わし、宣教活動の協力に取り組んできた。この宣教協力の歩みは、共に宣教の業を担い、キリストの体を形成する恵みを双方が頂く歩みであった。

30年目の節目を迎え、改めて両教区は日本基督教団教憲第6条（※注）に定められている使命を果たすべく、キリストの体なる全体教会としての教団の形成と伝道のために、日本基督教団信仰告白に堅く立ち、教憲・教規を遵守することを共通基盤として、第7期宣教協約（2016年度より2020年度まで）を以下の内容で締結する。

#### （※注）教憲第6条

本教団はその教会的機能および教務を遂行するために教区を置く。  
教区は本教団所属教会の地域的共同体であって、教区総会をもってその最高の政治機関とする。  
前々項の教会的機能および教務は教区総会の決議ならびに教憲および教規の定めるところにしたがって、教区総会議長がこれを総括する。

1. 両教区は、第7期宣教協約として、興部伝道所が担う道北地区オホーツク伝道圏の宣教を共同して支援する。
2. このために両教区は交流プログラムを実施する。
3. 西東京教区は、興部伝道所への協力献金を実施する。

#### 提案理由

北海教区と西東京教区との第6期宣教協約は2015年度末をもって満了する。それに先立ち両教区常置委員会では、あらかじめ第7期宣教協約締結の必要性を認め、その準備にあたってきた。両教区が2015年度のそれぞれの教区総会で、新しい宣教協約の文案を審議可決することを願っている。

これまでの協約による支援と交流は、北海教区にとっても、西東京教区にとっても、多くの恵みをもたらした。感謝なことに、その実りは興部伝道所が物心両面において多くを支えられてきたと同時に、西東京教区の青年キャンプや交流プログラムの参加者の中から多くの受洗者や牧師献身者が与えられたこととなって現われた。このことで、両教区は全体教会としての教団形成とその宣教に大きく寄与してきたのである。

両教区においては、慎重かつ最大限の努力をもって折衝を重ね、協約関係を継続してきているが、今回も、いっそうその努力を重ねて文案作成の調整にあたった。このような作業そのものが、合同教会である日本基督教団の全体教会としての形成に資する営みであると言える。宣教協力関係の中で、さらにこのような営みが重ねられていくことには、大きな意味がある。

30年を経て、双方共に協約関係が現状維持とマンネリ化に陥ることがないように、北海教区も西東京教区も、オホーツク伝道圏への幻を互いに共有し、それをもって興部伝道所の宣教のため祈りと力を合わせていこうとした当初の協約締結への思いを今一度再確認したい。

\*\*\*\*\*

## 【議案 第17号】 「北海教区ハラスメントの防止と問題解決に関するガイドライン」制定に関する件

議 案 現行の「セクシュアル・ハラスメントの防止と問題解決に関するガイドライン」と「パワー・ハラスメントの防止と問題解決に関するガイドライン」を廃止し、あらたに「北海教区ハラスメントの防止と問題解決に関するガイドライン」を制定する。それに伴い、パワー・ハラスメント防止委員会の名称を「ハラスメント防止委員会」に変更する。

#### 提案理由

北海教区はこれまでハラスメントの防止と問題解決を宣教の課題として受けとめ、性差別問題担当委員会とパワー・ハラスメント防止委員会が協働し、取り組みを担ってきました。現在、両委員会によって「北海教区ハラスメント電話相談窓口」が共同運営されておりますが、両委員会は、相互に委員会陪席をし、相談窓口の運営やありかたをめぐるガイドラインの検討、協議、学習、情報交換を重ねてきました。その結果、より実効性のある取り組みを進めるためには現行の「セクシュアル・ハラスメントの防止と問題解決に関するガイドライン」と「パワー・ハラスメントの防止と問題解決に関するガイドライン」を廃止し、あらたに「北海教区ハラスメントの防止と問題解決に関するガイドライン」を制定することが必要であると判断いたしました。

ハラスメントは、「いじめ」「嫌がらせ」「脅かし」に該当する言葉です。パワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント、モラル・ハラスメントをはじめ、様々な種類の人権侵害行為がそれぞれ「〇〇ハラスメン

ト」と称されています。その中にあって、パワー・ハラスメントは組織の明確な上下関係、権力や地位を利用した日本の労働問題から派生した言葉です。しかし教会内で考えられるハラスメントは、必ずしも一方向の力関係に基づくものとは限りません。

実際、教区に設置されているハラスメント電話相談窓口には、上記のようなさまざまなハラスメント、あるいはいくつも複合されたハラスメントの相談がよせられており対応しています。それは他教区のセクシュアル・ハラスメント相談窓口においても同様の報告がなされております。

教会における人権侵害行為であるハラスメントを防止するためには、ガイドラインをはじめとする仕組みを必要に応じて改善していくことが求められております。あわせて現行のパワー・ハラスメント防止委員会の名称を変更し、より包括的な名称「ハラスメント防止委員会」を用いることを提案いたします。

## 「北海教区ハラスメントの防止と問題解決に関するガイドライン」

### 1. ガイドラインの目的

このガイドラインは、北海教区の諸教会に関わるすべての人に対して、ハラスメントが発生した場合における問題解決にむけた基本的取り組みを示し、ハラスメントの防止をはかるものである。

### 2. 基本方針

北海教区の諸教会につながるすべての人が、ハラスメントの被害について安心して相談できるしくみを整える。相談や対応の過程においてプライバシーを保護する。また、解決への対処について相談者の主体性と意志、その判断を尊重することを第一とする。

### 3. ハラスメントとは何か

すべての人間関係の中で起こる「行為者や発言者の意図にかかわらず受ける側が傷つき不快に思う言動」をさす人権侵害である。教会においては、職務や立場を利用して弱い立場に立つ相手に向けられる場合、深刻な被害を生み出し、教会生活を困難にし、教会形成に悪影響を及ぼす行為である。

### 4. 問題解決の仕組み

#### 相談対応機能

北海教区常置委員会の下に、設置されたハラスメント防止委員会がハラスメント被害に関する相談に対応する。

#### A-1 ハラスメント防止委員会（仮）

##### (1) 委員構成

常置委員会において若干名を選任し、互選により、委員長を定める。任期は教区二総会期（2年）とする。

##### (2) 活動

①ハラスメントの防止対策の検討、啓発、研修等を実施する。

②ハラスメントの被害相談、問題解決に関わる人たちの研修を実施する。（窓口相談員、調査委員、教区三役、常置委員等）

#### A-2 ハラスメント相談窓口（仮）

(1) 相談を電話または書面にて受け付け、相談内容を記録する。

①相談員は守秘義務を負う。

②電話相談の日時を定期的に定めて行う。

③必要に応じ、相談者に対して、医療、弁護士、相談機関等を紹介する。

④必要に応じ、相談者と面接し、相談者の意志を確認し尊重する。

⑤必要に応じ、ハラスメント防止委員会を開いて相談事例の報告・検討を行う。

⑥相談者が相手方への何らかの対応（調査および調停、相手方への措置等）を望む場合、ハラスメント防止委員会で検討の上、当委員会委員長から教区常置委員会に対応を要請する。

⑦相談員は、定期的に相談業務・カウンセリングなどの研修を受ける。

(2) 相談員・同候補者の氏名、および窓口の置かれる場所は公表しない。

(3) 相談員の活動にかかわる予算は、委員会費より充てる。

(4) 相談員は若干名とし、ハラスメント防止委員会の推薦に基づいて常置委員会が委嘱する。任期は教区二総会期（2年）とする。

#### 問題解決機能

相談者が何らかの対応（聞き取り、助言、保護、調停、相手方への勧告等）を求めた場合、当委員会委員長の要請に基づき、常置委員会は、相談者の意志を尊重しつつ、直ちにその事案についての適切な対応をする。ただし、セクシュアル・ハラスメントの事例においては、ハラスメント防止委員会の要請に応じて、性差別問題担当委員長の陪席、助言、意見を求める。

#### B 常置委員会

(1) 相談者が相手方への調査を求め、ハラスメント防止委員会においてその必要を判断した場合、ハラスメント防止委員会委員長の要請に基づき、常置委員会は直ちに調査委員会を設置し、事実関係の調



査にあたらせる。

- (2) 当該関係者は、必ず調査委員会の調査に応じなければならない。
- (3) 調査委員会の報告を受け、ハラスメント行為があったと判断される場合には、常置委員会は直ちに相手方もしくは関係教会に対し、下記のような適切な対応を行う。
  - ① 適切なカウンセリングや研修を受けるための助言
  - ② 謝罪や役職の辞任などの勧告
  - ③ その他必要な助言・勧告
  - ④ 相手方が教職の場合、必要に応じて教団教師委員会に戒規の申し立てをする。
- (4) 調査委員会の報告を受け、ハラスメント行為がなかったと判断される場合、常置委員会はそのことを相談者に告げる。
- (5) 常置委員会は当該関係者が調査に応じない場合は、その旨を総会に報告することができる。

### C 調査委員会

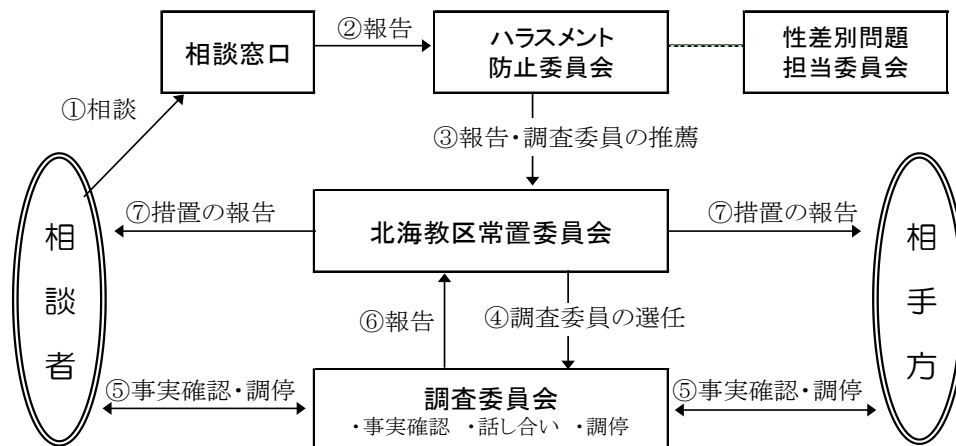
#### (1) 委員構成

- ① 3名または5名の奇数とし、委員長を置く。任期は調査委員会の解散時までとする。
- ② 委員は、教区総会議長・副議長・書記およびハラスメント防止委員会委員長の協議によって選任し、常置委員会が囑託する。選任にあたっては、信徒・教職・性別のバランスに留意するものとする。また、当事者との間に何らかの利害関係がある者、および窓口相談員、常置委員を調査委員に囑託することはできない。

#### (2) 活動

調査委員会は設置後3ヶ月をめぐりに調査を行い、結果を常置委員会に報告する。常置委員会は、問題が解決された時、調査が進められなくなった場合、調査委員会を解散する。

### 5. 相談の流れ



### 6. その他

#### (1) ガイドラインの改定

常置委員会は、必要に応じて、このガイドラインを改定し関係規則または細則等を定めることができる。

\*\*\*\*\*

### 【議案第18号】 安倍政権の進める国家中心、軍事力拡大の国づくりを 阻止するための行動を推進する決議に関する件

**議案** 安倍政権が進めている、人々の権利・自由・生活をないがしろにして国家中心の社会を作ろうとする動き、及び軍事力強化、軍事力行使の範囲拡大による「戦争できる国づくり」に、キリスト者として強く反対し、平和を願う多くの市民と共に声をあげ、祈り行動して行く。

#### 提案理由

私たちは、これまで、長期宣教計画や総会特別決議その他の声明において、その時々権力者による国家主義、戦争準備の動きに反対の意思を表明してきました。これらは、私たちキリスト者が先のアジア・太平洋戦争において、天皇中心、国家中心の権力支配に抗することが出来ず戦争に協力した過去に対する深い悔い、反省に基づき、ただ神のみを主とする信仰に立ち、世にあるキリスト者として平和を作り出す使命を果たす意思を自ら確認するとともに、これを外に表明・宣言して平和を願う多くの市民とともに行動することを呼び掛けたものです。

現在の安倍政権は、歴代諸政権にもまして、国家主義、戦争準備の動き、個人の生活をないがしろにする動きを強めています。

同政権は、2014年7月に、これまで憲法上認められないとの解釈が確立していた集団的自衛権の行使を容認

する閣議決定をし、海外での武力行使への道を開こうとしています。

また、2013 年 12 月には、特定秘密保護法を成立させました。これは、国の保有する重要な情報を国民から遠ざけてほしいままに政策決定することを可能にしようとするものであり、国民主権に真っ向から反するとともに、軍事情報の秘匿によって戦争への道を開くものでもあります。

同じく 2013 年からは生活保護基準の引き下げが段階的に進められて、経済的弱者は一層弱められ、生活することそのものが脅かされています。

さらに、労働者派遣法の改正や残業代ゼロ法案など、労働者の生活を増々過酷にする施策がなされる一方で、円安推進政策や法人税減税など、グローバル企業、大企業を優遇する措置を推し進めるなど、国民間の格差をさらに拡大する結果をもたらす政策を執り続けています。

加えて、靖国神社参拝、道徳の教科化などによって、人よりも国家を優先させる思想・精神を教育し、醸成させ、戦前の国家主義への回帰を画策しているかのようです。

そして、これら安倍政権の政策の行きつく先には憲法改正があります。これは、自由民主党が 2012 年に発表した憲法改正草案に表わされた各条項、すなわち、天皇を日本国の元首とすること、国旗国歌を尊重する義務を国民に課すこと、現行憲法 9 条(平和主義)を改正して国防軍を創設すること、公益の尊重と国民の義務を過度に強調することなど、国家主義、軍国主義を基礎とする国づくりを目指すものにほかなりません。

安倍首相は、2006 年に首相であった当時(第 1 次安倍政権)、「自分の政権の間に憲法改正をする」との意向を示し、これは叶わなかったものの、憲法改正手続法を制定させました。その後再び首相となった後の 2013 年には(第 2 次安倍政権)、憲法 96 条(憲法改正手続規定)の改正を企図し、そしてこれが挫折するや、解釈による改憲、立法による改憲を進行させています。そして、2016 年の参議院選挙後に憲法改正の発議、国民投票を目指す意向であるとも報じられています。

このように、今まさにこの国は危険な方向に進みつつあります。私たちキリスト者は過去の過ちを 2 度と繰り返すことなく、見張りの役目を果たすために、平和を願う多くの市民と共に戦争への道に進もうとする安倍政権の動きに強く反対し、個人が尊重され一人一人の生活がまもられる社会を形成し平和を実現するために声をあげ行動していくことをここに決意するものです。

\*\*\*\*\*

## 【議案 第 19 号】 政府による沖縄・辺野古米軍新基地建設の強行に反対し、 沖縄の民意の実現を求める運動を推進する決議に関する件

**議 案** 第 75 回北海教区総会は、戦争に向かうための沖縄・辺野古米軍新基地建設とそれに関わる全ての調査およびこの基地建設と一体となり行われている高江ヘリパッド建設に反対を表明する。このために、学習会や反対行動、また日米両政府や在沖米軍などへの要請・抗議行動などを沖縄のキリスト者をはじめとする沖縄県民と連帯し、他の教区や諸団体と協力して行う。

### 提案理由

昨年 8 月 18 日、沖縄県名護市辺野古の海上で、米軍新基地建設のための海底ボーリング調査が強行されました。そのような中で、11 月の沖縄県知事選挙では翁長雄志知事が誕生しました。また、12 月の衆議院選挙では、「オール沖縄」候補 4 氏が当選し、今年 1 月 19 日の名護市長選挙では、稲嶺進氏が当選し、「沖縄に新しい基地はつくらせない」との沖縄の民意が示されました。それにもかかわらず、この民意を無視し、日本政府は、辺野古への新基地建設のための調査を継続し、1 月 27 日からは辺野古の海にサンゴを破壊しながら、重さ数トン以上のコンクリートブロックが沈められています。3 月 5 日には、埋め立てのための仮設栈橋設置に向けた作業とみられる工事が開始されました。

また、日本政府は、新基地建設に反対する人々に対して、海上では海上保安庁を出動させ、拘束・排除を強行しています。米軍キャンプ・シュワブゲート前で 24 時間の座り込みをする人々に対しては、警察機動隊が動員されています。こうした国家権力の圧力によって負傷者が出てしまいました。

これら一連の出来事によって、わたしたち平和を創り出すことを願うキリスト者の心は悲しみと悔しさに溢れています。

そして、ついには、2 月 22 日にキャンプ・シュワブ内の警備員によって、ゲート前で反対の声をあげていた内の 2 名が強制的にシュワブ内に引きずり込まれ、『刑事特別法 1』違反』の容疑で逮捕される事態が引き起こされました。

東村・高江でもヘリパッド建設工事に反対し、座り込みが続けられる中、工事が強行されており、辺野古新基地建設と高江ヘリパッド建設は一体であることは明らかです。

安倍首相は 2 月 12 日の施政方針演説で、「引き続き沖縄の方々の理解を得る努力を続けながら、名護市辺野古沖への移設を進めていく」と語りました。「沖縄の方々の理解を得る」と語りながらも、安倍首相は翁長知事に会わないばかりでなく、沖縄県に対して、沖縄振興予算を 2014 年度から 4.6%削減する方針を打ち出しました。米国政府を背景にした日本政府のこのような傲慢な手法は、沖縄の民意を無視し、沖縄の人々を足で踏み

つけるあり方そのものです。

わたしたちは、こうした沖縄の状況を前にして、辺野古新基地建設とそれに関わる全ての調査・工事に反対することと沖縄のキリスト者に連帯することを改めて表明し、決意するものです。わたしたちがこれ以上沖縄の民意を無視し、無関心でいることは、「神を愛し、隣人を愛しなさい」とのみ言葉を無視することにほかなりません。言葉だけではなく、祈りをもってあらゆる行動を進めていきましょう。

<sup>1</sup> 『刑事特別法』の正式名称は、『日本国とアメリカ合衆国との間の相互協力及び安全保障条約第六条に基づく施設及び区域並びに日本国における合衆国軍隊の地位に関する協定の実施に伴う刑事特別法』

\*\*\*\*\*

## 【議案 第20号】 日本にある全ての原子力発電所の建設・再稼働を中止し、 全ての原子炉の廃炉をめざす行動を推進する決議に関する件

**議 案** 命ある存在すべてに悪影響を及ぼす放射能汚染の原因である原子力発電所の建設と、再稼働を目指す動きに反対し、原子炉をすべて廃炉にするためにキリスト者として祈り行動する。

1. 原子力発電所の再稼働と建設に関する情報を様々な団体と共に集め、それを共有する。
2. 共有した情報をもとに、再稼働の危険性を教会内外に伝える。

### 提案理由

東京電力福島第一発電所の重大事故から4年を経た今、何一つ解決を見ないまま、安倍政権と複数の電力会社は原発の再稼働を強引に推し進めようとしている。重大事故によって、原発の「安全神話」も「原発は安上がり」もそれが偽りであった事は、国民の前に既に明らかになった。しかし電力会社、原子炉メーカー、経済官僚、原発御用学者、政治家、マスメディアが自らの利益のために、再稼働に向けて動いており、あろうことか、函館から30キロ圏内に位置する青森県の大間原子力発電所建設を計画している。

大都会の電力のために地方が原子力発電所を強いられ、事故後の被害もまた押し付けられている。それが様々な差別の上に成り立っている事を改めて考えたい。また、原発の平和利用という偽りの裏にはプルトニウム爆弾（長崎型原爆）の製造を目論む流れがある事も忘れてはならないだろう。

2015年2月12日、甲状腺ガンと診断された福島県の子どもは疑いも含めて117人に上った。福島では帰宅政策が行われ、子どもが戻れば復興につながるとして放射線量の高い地域の学校へバスで通わせ、給食も放射線量の高い食材を使った地産地消路線があたり前になっている。大地や海を汚染し、その汚染が浄化されるまでに何億年もかかる重大事故を起こしていながら、原発事故の責任は誰一人として背負おうとはしない。東京電力福島第一発電所内の原子炉建屋からの汚染水は解決のめどが立たず、隠蔽すらまかり通っているのが現状である。

「原発さえなければ」と壁に書いて自死した農業者の無念さを思い、家族離散のまま生活のめども立たない多くの被災者、棄てられた家畜や生きとし生ける生物全ての無念さを大切にしたい。その上で脱原発活動や反原発運動をしている会津放射能情報センターや放射能から子どものいのちを守る会・会津や東北教区放射能問題支援対策室「いずみ」などの他団体と協力し、情報共有しながら北海教区独自の活動と他団体との連帯活動を行っていききたい。

私たちは神から自然と共に生き、神が創られた人が安心して生きられる世界を目指すことを御心として委ねられていると信じるキリスト者である。その思いと信仰を持って、原子力発電所の建設・再稼働を中止し、全ての原子炉の廃炉をめざす事を祈り行動することを提案する。

\*\*\*\*\*

## 【議案 第21号】 アイヌ民族の権利を回復する運動の推進決議に関する件

**議 案** アイヌ民族の権利回復と差別撤廃の運動を推進するために、以下の事項に取り組む。

1. 学習・研修・交流・連帯活動
  - (1) アイヌ民族の権利回復と差別撤廃のため、関連する運動や学習会を支援し連帯する。また、集会等に積極的に参加する。・アイヌ遺骨返還等裁判の協力
  - (2) アイヌ民族関連の諸資料を収集し、提供する。機関誌（ノヤ）、ホームページ、Eメール、Facebook等を通しての広報。
  - (3) アイヌ民族の歴史と現状を学ぶ現地研修の企画・実施。原稿執筆等の協力。  
・石狩空知地区アイヌ民族フィールドワーク実施
  - (4) 講師派遣による学習活動支援

2. 台湾基督長老教会のディヴァン・スクルマン宣教師を支援し、世界の先住民族に関する課題を共有する。
  - (1) 国家形成や植民地支配により、日本・台湾で行われてきた先住民族差別について、その歴史認識を深め、新たな関係作りを目指した学習・啓発活動の実施
  - (2) 台湾基督長老教会の教会が培ってきた信仰や、先住民族宣教のあり方を学ぶ学習会等の開催。
    - ・ 原住民族の讃美歌翻訳(ブックレット作成)準備
    - ・ ディヴァン・スクルマン宣教師帰国報告会(台湾原住民族の現状と課題)
    - ・ 玉山神学院生(原住民族)によるアイヌ民族研修受入(農村伝道神学校との短期交換留学生)
  - (3) カナダ合同教会の先住民族への取り組みに学ぶ
    - ・ ロバート・ウィットマー宣教師帰国報告会(カナダ先住民族の現状と課題)

#### 提案理由

北海道と呼ばれているアイヌ・モシリ(人間の大地)は、もともとアイヌ民族が自然と共に生きてきた土地です。しかし、日本近代天皇制国家による侵略によって、アイヌ民族は土地も森も川も、自由に狩猟することも、さらに文化や言葉も奪われ、多くのいのちも奪われました。そしてその苦難の歴史は十分に省みられることなく、現在にいたってもアイヌ民族は厳しい差別にさらされています。そのアイヌ・モシリに宣教活動を行なったキリスト教会もまた、アイヌ民族の存在に無関心であるばかりか、アイヌ民族としてのアイデンティティを尊重せず、明治政府の同化政策に協力さえしてしまいました。わたしたち日本基督教団北海教区は、教会が侵略者・抑圧者の側に身をおいて歩んできた歴史を反省し、1985年にアイヌ民族の権利回復の働きを共にする目的でアイヌ民族委員会を、1996年に「アイヌ民族の権利回復と差別撤廃を教会が宣教課題として取り組むことを目的」(センター規約3条)としてアイヌ民族情報センターを開設し、ささやかながら連帯の取り組みを進めてきました。

2012年より、アイヌ民族4名と一団体が盗掘された先祖の遺骨の返還等を求めて北海道大学を相手に裁判を続けています。先住権を争う重要な裁判が争われていますが、この裁判協力を含めて今後も権利回復のための働きの手を休めることなく、アイヌ民族の皆さんに連なっていきたいと願います。

アイヌ民族フィールドワークは石狩空知地区で計画が進められています。各地域に出かけていって、そこに住むアイヌ民族の皆さんと出会い交流することによって課題を共有して行くことを望みます。さらに、そのことによってセンターの活動報告も各地で共有頂けることを願います。

また台湾基督長老教会からお迎えした原住民の教師、ディヴァン・スクルマン宣教師はアイヌ民族情報センタースタッフとして、第四期目の活動を始めます。今までも積極的な活動を展開し、多くのアイヌ民族の皆さんと関係を深めています。その働きを支援することを願いつつ、今年はあらためて台湾原住民族の皆さんの近年の課題と活動を学ぶ時を企画・実施します。また、玉山神学院より研修生を受入れます。加えてカナダ合同教会の先住民族への権利回復の働きに関する相互研修も計画中です。これらのことにより、アイヌ民族だけにとどまらない、世界の先住民族と共に歩む教会として、私たちは成長することができるとでしょう。

以上の理由から、今年度もアイヌ民族の権利回復と差別撤廃、先住民族に関わる諸課題を教区・教会の宣教課題として、積極的に取り組むことを提案します。

\*\*\*\*\*

#### 【議案第25号】 「日米防衛協力のための指針」改定に抗議し その法制化を阻止するための運動推進決議に関する件

#### 議 案

1. 集団的自衛権の行使を視野に入れた「日米防衛協力のための指針(ガイドライン)」改定に抗議する。
2. 「日米防衛協力のための指針」改定を視野に入れて政府が進めてきた「教科書検定への介入強化」「国家安全保障会議の設置」「特定秘密保護法の制定」「武器輸出三原則の実質的な廃止」「文民統制の見直し」等を問い直し、その是正や廃止を求める運動に取り組む。
3. 「日米防衛協力のための指針」改定を前提として政府が検討している「共謀罪の制定」「自衛隊海外派遣恒久法の制定」「地理的制約を取り払う周辺事態法の改定」「対象拡大を内容とした通信傍受法の改定」「民間の土地・建物の使用など私権の制限を可能とする国民保護法の適用拡大」等に反対し、それらの法制化を阻止する運動に取り組む。

#### 提案理由

4月27日に、日米の外務・防衛担当閣僚会議で合意した「日米防衛協力のための指針(ガイドライン)」の改定は、日本の集団的自衛権行使を視野に入れたものであり、対象地域の制限も実質的に取り払われるなど、日本の「参戦」への歯止めを取り去ってしまう内容を持っています。また、それは、米国が「国益の拡大」という国家戦略に沿った侵攻型戦争にうってでる時、その米国と共同作戦行動をとることで日本の国益をも拡大しようとする「戦争国家づくり」の危険な踏み出しにほかなりません。しかも、この「戦争ができる国」づくりのために、市民的自由や権利をも制限しようとする動きが加速しています。市民的自由や人権よりも「国益」を優先し、その「国益」拡大のためには武力行使さえ辞さないとする考えは、戦前の国家主義的な国のありようと基本的に何



ら変わるところがありません。

平和の主を信じるキリスト者と教会は、その主の負託に応え、この歴史の具体的な場面に当たって、責任ある態度表明をし、行動すべきであると考えます。

\*\*\*\*\*

## 【議案第 26 号】 日本軍「慰安婦」問題の解決を目指して、歴史修正主義に抗し、過去の歴史責任に向き合うための運動を推進する件

議 案 日本軍「慰安婦」問題の解決を目指して、歴史修正主義に抗し、過去の歴史責任に向き合うための運動を推進するために、以下の事項に取り組む。

1. キリスト者としての基本的立場と意思を表明する下記の宣言文を採択し、日本政府や各メディアに送る。
2. 学習会やフィールドワークを開催し、学びを深める。また負の歴史によって犠牲となった方たちを覚え追悼礼拝を捧げる。
3. すでに活動をしている市民運動と連帯する。

### 日本軍「慰安婦」問題の解決を目指して、歴史修正主義に抗し、過去の歴史責任に向き合うためのキリスト者宣言

私たちは神を信じます。神の正義、神の平和を求めます。神とは人の思いを超えて働く方であり、神の正義とは人や時代、状況が移り変わっても、変わったり揺らぐことのない正義です。

しかし、聖書は語ります。「人は罪を抱えている」、と。それゆえ、人の力では神の正義を実現することはできません。けれども同時に、「人は神の似姿である」とも聖書は語ります。そうであるがゆえに、私たちは神への信仰を持って生きる者として、神の正義、神の平和を求めます。

神の平和とは、単に、物理的な武力衝突や戦争が無いだけではなく、人が他者と共に平安のうちに生きていくことのできるものです。そして、神の平和とは神の正義を目指すことによってしかもたらされないと信じています。

旧日本軍の強制連行による「慰安婦」の史実は、長年アジアの国々や国内外の民間団体によって被害者・加害者の証言による実態の確認作業、裁判支援、賠償制度などの積み重ねにより明らかにされてきています。過去に起こったことを無かったとすることはできないのです。

過去に起こったことを無かったとすることは、今なお「慰安婦」と呼ばれ性奴隷にされてきた方々の尊厳を傷つけるものです。また、過去の歴史責任にきちんと向き合わないことは歪んだ歴史認識と自己認識を形成し、他者との健全な関係構築を妨げます。なにより、歴史的事実を直視せず正義と不正義を確認しないことは、未来において同じことを繰り返すことに繋がっていきます。

日本基督教団北海教区総会は、神を信じ、神の正義、神の平和を求める群れとして、アジア・太平洋地域における侵略戦争、植民地体制がもたらした傷跡、歪みなどの歴史責任に向き合い、いかなる戦争にも加担しません。

それゆえ、日本政府に対し、元「慰安婦」とさせられた方々に誠実に謝罪と賠償を行い、過去に日本が侵略した国々、地域、人々を侮辱するような歴史歪曲を正すために真相を究明し事実に基づいた歴史教育の実践を求めます。そして、被害者の奪われた尊厳を回復することに最大限の努力を行うことを要求します。

2015 年 4 月 30 日 日本基督教団 第 75 回北海教区総会

### 提案理由

朝日新聞の報道訂正に端を発し、日本軍「慰安婦」問題は捏造であるという社会的な認識や風潮が強まっている。この流れは勢力を増しており、植村隆さんの再雇用をやめるようにという脅迫が北星学園大学に寄せられるなど、言論の自由や民主主義の根底を脅かすほどになっている。また、ヘイトスピーチの激化に表されているように、社会の右傾化、排外主義化が進み、社会的な寛容さはますます失われ、少数者・弱者へのあからさまな攻撃が顕著になっている。

これらの動きの根底には、過去の歴史にきちんと向き合い、責任の所在を明らかにすることが、自尊心を損なうという歪んだ自己認識がある。「未来志向」などの言葉で過去の歴史に誠実に向き合うことを否定することは、過去に起こった負の歴史を未来にも繰り返すことにつながる。

「神は御自分にかたどって人を創造された」（創世記 1 章 27 節）とあるように、すべての命は、民族、国籍、人種、性差、社会的階層の如何を問わず、神のお造りになったものとして尊重されるべきであると信ずる。また、「真理はあなたたちを自由にする」と、イエス・キリストは私たちに教えてくださった（ヨハネによる福音書 8 章 32 節）。キリスト者として、この時代に、小さくてもなすべき業を誠実に行いたい。